07年度　コラムプラネット　第1セッション

エントリー作品数　44

上位　17作品　をお届けします。

テーマ：窓

投票総数：210件

順位	ポイント	投票数	作品タイトル	作成者	作者コメント	コメント数	最新投稿時間
1位	33	16	抜歯	354e14thave	有	36	11/26 5:31
2位	32	13	台所の窓	プーギン	有	39	11/26 5:36
3位	22	10	飛び降り自殺	バートルビー	有	35	12/4 17:20
	21	10	通勤電車の楽しみ	かぴばら	有	34	11/26 5:39
	20	10	窓	ノエ	有	34	11/25 23:57
	20	9	赤い逆三角形	活	有	24	11/26 5:26
	20	9	「社会の窓」	paco	有	26	11/26 2:32
	16	8	Last Soldier	RIRI	有	24	11/23 0:56
	13	8	イギリスの廃墟　日本の廃墟	紫雲	有	16	11/18 15:34
	13	5	大きな窓	がらがらどん	有	24	11/26 2:35
	12	8	窓際族	シマエナガ	有	24	11/26 5:46
	12	5	I can ...	鳥	有	30	11/26 1:58
	11	6	閉所恐怖症	輝	有	24	11/20 20:55
	11	7	まあ　どーでもいいけど	インギリー	有	43	12/2 23:57
	11	6	明日	kunipi	有	27	11/22 22:54
	11	5	建築「窓」物語	スマイリー	有	24	11/26 1:39
	11	8	次元変換機能	サンダーバード	有	21	12/3 0:6
	10	4	クロと窓	大黒様	有	28	11/26 2:0
	10	5	自己紹介	琥珀	有	19	11/26 7:53
	10	4	コモリン	てん	有	17	11/23 20:10
	9	5	僕の家の窓	tkm	有	20	11/19 2:46
	8	4	目が、目がぁ～	parakeet	有	44	11/25 15:57
	8	4	出窓の思い出	Bloomoon	有	22	11/21 19:18
	8	4	仔犬の恩返し	hanson	有	24	11/19 2:24
	7	3	魚の目	ken	有	21	11/18 23:38
	7	3	Windows	kirie	有	23	11/30 22:7

7	4	輝く夜の窓	す氏	有	21	11/26 5:41
6	4	窓は開くもの、開けるもの	かちかち	有	14	11/18 22:48
5	2	窓を開ければ	きゅうぴー	有	22	11/18 23:25
5	3	わたしをとかしてくれるまで	わがし	有	48	11/21 18:20
5	2	私のお気に入り	contax139	有	20	12/3 0:11
5	4	窓拭きのおじさん	unknown	有	25	11/22 19:48
5	2	窓をあけろ	レロニラ	有	20	12/3 3:3
3	2	日本の車窓から	はつね	有	25	12/3 0:13
2	1	窓をあけて	ピチョット	有	29	11/21 22:53
2	2	窓からの眺め	シュトルムティガー	有	17	11/25 20:26
2	1	家の窓	go19	有	22	11/23 12:32
2	1	景色と私と窓。	みつきんぐ	有	18	11/22 19:15
2	1	窓とはかなり離れますが	ながちゃん	有	15	11/19 0:2
2	1	心の窓	るらら	有	16	11/20 22:54
1	1	マド	KITS	無	19	11/18 22:49
0	0	ゴヘンカン・ソウチ	めふめと2世	有	21	11/20 20:33
0	0	抑圧の窓、自由奔放な窓	けろた	有	20	11/30 21:54
0	0	社会の窓	星イッテツ	有	25	11/23 4:35

抜歯

総合順位：1位
合計ポイント：33 Point
作者：354e14thave
作者コメントを読む

諸悪の根源は歯医者だ。
この世から歯医者がいなくなればいい。

抜かれる瞬間が、脳裏によみがえる。
これまで親知らずを支えていたであろう歯茎の肉が、
ブチブチっと音を立てて引きちぎられるのが聞こえる。
聞こえたという表現では十分ではなく、
むしろ江戸時代の罪人が
右の手足と左の手足ををそれぞれ別の馬につながれ、
反対方向に引っ張られて死刑に処せられた感覚に近い。

治療室を出て、会計に呼ばれるまでのひと時、
歯が抜けたあとはどうなっているのか、
見たくないが、ちょっと見たい。
化粧室前の鏡で口を開けてみる。

どす黒い血が後から後から噴き出すために、
どうなっているのか目でみても確認できない。
恐る恐る舌の先でつつくと
さらに血が噴き出して
生臭いような味が口の中全体に広がる。
これはまるで、換気のために窓を開けたところ
間違えて外からコールタールが入ってきたかのような気分だ。

ああ、歯医者というものへの嫌悪感がドロドロと増す。

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
わがし 11/5 18:18	ふえええー、恐いよー(; ;)
あゆむ 11/5 22:42	いい大人が歯医者怖いで淡々と文章をつづる。なかなかいいですねぇ。大人だって歯医者は怖いですよね。
ノエ 11/5 23:17	文章のテンポがよく、テーマである『窓』の使い方もうまいですね。 個人的には虫歯菌持ってないので歯医者の怖い経験がないのですが、気持ちがよく伝わりました。。
unknown 11/6 15:50	思わず親知らずを抜いた時のことを思い出してしまいました。 短くサラッと読めるのに、ドロドロとした作者の怨念がしっかり感じられて、とても良いと思います。
わがし 11/7 0:37	読めば読むほど、ホラーだ。恐い。 ・・・恐いと言えば言うほど、きっと作者さんの思うつぼなのかも（笑 親知らずを4本いっぺんに抜いたときのことを思い出します。 確かにみしみしいっていましたなあ！
茜 11/7 0:53	・・・・・・・・・・・・・・・。はいしゃさんこわい。 えっと、なんか窓ってお題弱い気はするんですが、使ってるからＯＫってこととして、えーと。歯医者さん嫌だって気持ちがひしひしと伝わってきます。ええあたしも嫌です。 ちなみにあたしは親知らずどころか７歳臼歯が生えてなくて、歯茎切って出された時のことを思い出しました。・・・・・あれはうなされた。
ピチョット 11/7 13:19	諸悪の根源は歯医者！・・・うんうん この世から歯医者がいなくなればいい・・・虫歯をなくそう！ 私も歯の治療は大嫌いです。文章がしっかりしていて読みやすかったです。
紫雲 11/7 20:11	分かっていても舌でつついてみたくなるのは人間の性ですよね
contax139 11/7 21:38	タイトルで読みました。生々しい描写です。ただ正直コールタールの匂いをあまり嗅いだことがないので、いまいちイメージが。。 きっと地下鉄で満員電車をやっと降りたと思ったらヘドロ臭かったとかそんな感じなのでしょうか。
kirie 11/7 22:35	ずいぶんと生々しいですね（汗）。 幸い、自分はまだ虫歯になったことが無いのですが、抜歯の描写を読んだ時は口の中が疼いてしまいました。 抜歯の痛みの例えに引用した処刑方法はいわゆる「四つ裂き刑」でしょうか？何となくわかるような、わからないような。 物凄く痛いということは確かなようです。
みつきんぐ 11/8 10:3	生々しくて恐かったです・・・（汗） この生々しさを書けるのがすごいと思いました。 窓の使い方もうまい！
橘 11/10 11:33	怖い表現使っててホラーっぽいんですけど、 でも所詮歯医者での一時に過ぎないんですよね〜。 そのギャップが面白く感じました^ ^; いっそ、思いっきり感情の描写をつけてみてはどうでしょうか？ 鏡の前の場面でゆっくりと口を開けて、迷いを表現するとか。 もっとホラー感が増して面白くなるのでは？笑
vista 11/10 16:8	まあ、私は歯医者が好きなんですけど、窓の使い方がとてもいいと思います（笑）

インギリー 11/10 18:14	窓の使い方は良いと思うんですが 読んだ人が、いやーな気持ちになる内容は、どうかなと思います。 リアルに書くことは必要かもしれないけど 歯をぬいたことのある人は嫌な思い出がよみがえって これから抜くという人には恐怖感を与えてしまう あまり具体的には書かないで、自分の気持ちを表す工夫をしてみてはいかがでしょうか。 私は、親知らずを一度に３本抜きましたが「どす黒い血が後から後から噴き出す」ということは、ありませんでした。 私のかかりつけの歯医者は、できるだけ痛くないように気を使ってくれます。 まあ、今までいろんな歯医者へ行きましたから、いろんな場面がありました。医師によって違うんでしょうね。
Begonian 11/11 11:46	ぎゃぁー。
sum1 11/11 16:46	読んでいるだけで歯が痛くなってきました・・・ こんなお題「窓」の使い方もあるんですね。興味深いです。
あお 11/12 21:37	抜歯と窓、と言えば抜けた子供の歯を窓から投げる話かな、と思ったのですが・・・。全然違いました。 私も歯医者さん大嫌いです・・・。
けっちゃん 11/14 20:32	歯医者さんがいなかったら、皆困りますよ。 怖いのは虫歯になるまでほおっておく、いい加減さだと思います。
pooh 11/14 22:54	怖い〜〜〜 自分の歯が抜かれたみたい。。。 窓の使い方が面白い。
ひぃ 11/15 22:55	歯医者は行くたびに麻酔を打たれます…。これは何かの陰謀…？ 作品については、開いた口が窓のように感じて面白いなと思いました。
クリリン 11/16 16:34	気色悪さが伝わって面白かったです。 表現がうまいと思いました。
ロココ 11/17 0:30	「窓」に着目した文章を書かなくても、インパクトのある場面で、お題「窓」を出す、という方法もあるんですね。うまい！
あゆむ 11/17 21:54	窓の使い方がうまいというコメントを見て、あれ窓なんて出てきたっけと思ってしまった。その程度の印象。コールタールなんてしらん。 うーん、歯医者の怖さがメインなのか。何言ってんだかという感じで読むべき作品のように感じました。諸悪の根源は歯医者であるなどと言ってはじめてるんだもの。
Azalea 11/17 22:44	今まで虫歯なんてほとんどなく、 歯医者には定期健診でしかいったことの無い私には そんなにいやなものかなあと思っていたのですが、歯医者って。 ……やっと気持ちがわかりました。 これはいやですね。 若干大げさとも思われる表現もこれで適切かと思いました。 ここまで生々しい表現はすばらしいと思います。 窓が薄いはずなのに窓を強く意識してしまいました。 （口自体が窓みたいにも思えました。恐怖の。）
ほろほろ 11/18 2:1	歯医者の話は面白いのですが、 窓のたとえがあんまり効いていないような気が。 『藪をつついて蛇を出す』という比喩のほうがずっと適当で、 そこを『窓からコールタール』に替えることで お題クリアとは、そうはいかないと思うのですが。
まち 11/18 9:47	怖いというか、少し気持ちが悪くなってしまいました。。。 大げさな表現と、テンポのよさがまるです。
Julio 11/18 10:40	私にはコールタールが窓から入ってきたかのような気分というものを共有出来ませんでした。窓がテーマということもあって、重要な一文になってくるのではないかと思います。だからこそ、もう少し違う表現もあったのではないかと。ちなみに、抜歯の描写は共感出来ました。幼少の頃、歯医者で診察台にネットで身体を縛られて以来、今でもトラウマです・・・。

tkm 11/18 13:38	歯医者がいなくなったらこの主人公の親知らずはその後も生え続け、他の歯を押し、押された歯たちは逃げ場を無くし、前後にずれ始め、がちゃがちゃな歯並びになる。がちゃがちゃな歯並びは虫歯になりやすい。が歯医者がいないので痛みに耐えるか、耐えられず自力で抜くかのどちらか。どちらもイヤだな。歯医者はいた方が良いと思いますが？
鞦韆 11/18 16:13	諸悪の根源は作者さんです！間違いないっ！ 痛みのイメージが痛みを喚起するんです、胃の。
イッパイアッテナ 11/18 20:17	ちょぉ、あんた、なんてもん書くんですか。 怖くて怖くて歯医者いけなくなったじゃないですか。 まだ、親知らずも抜いていないのに。 子供にとって怖いものNo.1の歯医者さんを、大人が読んでも怖いホラーにしあげる力量、すごいです。感服。 でも、怖いのは苦手なんだからね(ぶるぶる
シュトルムティガー 11/18 23:38	昔、歯を抜いた時のことを思い出しました。 感覚的にはなんとなくわかりますが、よく考えるとわからないところもありました。 　ところで、「江戸時代の罪人が右の手足と左の手足ををそれぞれ別の馬につながれ、反対方向に引っ張られて死刑に処せられた」とありますが、江戸時代にそのような刑罰が本当にあったのでしょうか？
でもどり 11/19 1:0	生々しいですね（笑） でも「窓」はどこに？ 言葉通り「換気のための窓」しかイメージできず、 どこに窓を意識させているのか読めなかったです（修行不足ですね・・・）。 他の部分がテンポよく、描写が上手かった分、残念でした。
す氏 11/19 1:46	文章全体は上手いのに、「窓」の印象が薄いのが残念です。「コールタール」に負けてます。さすがに史実ではなかったと思いますが、「江戸時代～」という部分も表現がきついですね。 きっと歯医者さんも内心見たくない見たくないと思いながら抜歯してるんですよ……多分……。
イッパイアッテナ 11/19 7:46	一番おめでとですー。 ＞シュトルムティガーさん 牛裂っていうみたいです。その刑罰。 小学校の頃、江戸時代の刑罰でそういうのがあると調べものしていたときみたことがあったのですが、今調べてみたら、どうやら戦国時代から江戸初期までしかそういうことはやってなかったみたいです。(平和な江戸の世に残酷な刑って似合いませんもんね) しかし、自分が昔見た資料、適当なこと書きよってに。完全に誤解してしまったじゃないか。
SAWAA 11/26 5:20	1位おめでとうございます。 コメントが遅くなってすいません。 短い文章ののに生々しい描写にハラハラしました。 自分も昔口内手術をして口の中が血だらけになったことがあります。 いろいろ共感できる点がありました。
あっきぃ 11/26 5:31	テーマの窓との関係性がわからんですけど、非常に読みやすくて分かりやすい文章でよかったです。文章表現のうまさはもちろんですが、ほとんどの人が体験したことのあるような内容だったというのもあってとても引き込まれました

ＴＯＰへ

台所の窓

総合順位：2位
合計ポイント：32 Point
作者：プーギン
作者コメントを読む

「台所に窓が欲しい・・・」
　はあっ？？　奥さんのその言葉を聞いて私は、のけぞりそうになった。顔だけは凍り付いたみたいな笑顔を浮かべながら。
「台所から外が眺められたらいいな、と思って」。曖昧な笑みを浮かべながら、奥さんは小さな声で続ける。
「何を言ってるんだ。今さら。無理に決まってるだろう」。いつもながらのご主人の大声に私は内心ほっとした。
　私は小さな事務所を開いたばかりの駆け出しの建築家。独立後初めての仕事として、友人の紹介で個人住宅の設計を任されたのだ。電気設備の会社の営業マンだというその家の主人は、家族のために自分がどれだけ骨身を削って働いているか、夢がかなって一軒家を建てるからには妻のためにいい家をつくってやりたいのだと力説し、玄関は吹き抜けにしたいだの、居間にはどでかい液晶ワイドスクリーンを置きたい、暖炉があればいいんじゃないかと、大声でまくしたててきた。それに乗っかるみたいに２人の息子は、部屋にオーディオセットを置きたいだの、コンピュータを２台置きたいだのと言いたい放題。
　家は一生の買い物だ。夢をすべて詰め込みたいのはわかる。でもここはどちらかといえば、いいえ！　はっきり言って超狭小敷地。
「こんな狭いところに豪邸は建てられないんですよ。ごくごく小さな家しか建たないんです。暖炉なんか無理に決まってるでしょう！」・・・なあんてことは、とても言えないから、ニコニコしながら「そうですね、夢がありますね」とかなんとか言いながら、いろいろな要望を設計図に押し込み、なだめたり、説得したりしてようやくプランがまとまりかけているところだというのに。おまけに、ローコストにしたいからとさんざん無理を言って、ローコストにするため努力すればするほど、パーセンテージで決まる私の設計料も下がっていくのだ。もうこれでギリギリ、という最終案を持ってきたこの後におよんで、台所に窓だって？？？
　だってね、窓の向こうは日本庭園に松が植わっているわけでもなければ、手入れされた庭にバラが咲き乱れているわけでもなく、隣家の壁ですよ、壁。いったい何を見たいんですか。台所の外に。
「こんな時になってそんなわがままを言うなんて。いったい誰の金でこの家を建てると思ってるんだよ」
　奥さんの肩がピクッと動いて、私ははっとした。考えてみればこれまで、奥さんは何か要望を言ってきただろうか。事務所での打ち合わせに来るのはいつもご主人。家を訪ねての相談でも、奥さんはそばに座ってニコニコしながら皆の話を聞いているだけ。妻のためと大声で言いながら、決めるのはいつも夫。その奥さんが、初めて自分の希望を口にした。それが「台所の窓」なのだ。専業主婦だという彼女は、一日の大半を家で過ごすのだろう。朝晩の食事、息子のお弁当と夜食。営業職で毎日何時に帰ってくるかわからない夫は、夕食に最低５品はないと不機嫌になると言う。確かに生活費を稼ぎ出しているのは夫のほうだろう。しかし、彼女がもくもくと作る食事があってこそ、働き続けてこられたのだ。彼女が生活費を工夫してきたからこそ、安月給でも家が一軒建てられるんじゃないか。彼女のつくるごはんが、吹き抜け玄関の夢よりもずっとしっかりとこの家族を支えてきたのだし、これからの新しい家でもきっとそうだろう。
　たったひとつの彼女の要望をなんとかしてかなえてあげたい。窓の外に、ほっとする景色を用意してあげた

い。
　ブツブツ言い続けているご主人に向かって私は言った。「もう一度だけ、時間をください。つくりましょう、台所の窓」。
　私は設計図をまるめながらたちあがり、彼女の顔はぱっと明るく輝いた。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
わがし 11/5 18:26	いや、わかります。台所の窓。わかります。あるとないとじゃ大違い。 優しい設計士さんですねえ。 改行入れるともっと読みやすいですよ！！！
インギリー 11/5 22:51	長い物語。 さくっと読むには字が多すぎだと思います。 幾つかエピソードをカットするとか、 会話の部分は行を変えるとかした方が読みやすくなります。
あゆむ 11/5 23:13	それぞれの人物像がちゃんとかかれているいい文章だとわたしは思いますよ。この建築家さんわたしは好きです。がんばれ建築家さん。
ノエ 11/6 0:6	まとまった作品ですね。 でも、行の使い方には気を使ったほうが読みやすくなると思います。。
シマエナガ 11/6 12:45	よくありがちな夫婦の姿がうまく書かれていると思います。最後にほっとさせる展開もうまいと感じます。 　ただ、確かにいささか書き込みすぎの印象はあります。各パラグラフの主旨は明快なので、会話の引用や説明を少し刈り込むとすっきり分かりやすくなるように思います。
ピチョット 11/6 13:14	ほのぼのしました。 つい自分が奥さんになってよんじゃいました（笑） 好きな作品です。
go19 11/6 16:0	長いわりには、引き込まれて最後まで一息に読み通しました。コラムというよりは、物語として読みました。 この「ご主人」は「ダメな亭主」のステロタイプでしょうか？ この「ご主人」のダメさ加減を述べる部分は、もう少し短くしても良かったと思います。 いったんは「ご主人」の言葉に救われた思いをした「私」が、心変わりをしたことで、「ご主人」のダメさ加減にムカムカしかけていた go19 の気持ちもすっきりしました。 あとは、この「ご主人」が単に「ダメな亭主」でなく、この家族または夫婦に明るい未来があり得ると感じることができれば、なお良かった気がします。 ちなみに go19 は、「いったい誰の金で云々…」とか言いだすような「ダメな亭主」には、現実世界ではお会いしたことはありません。今のところ go19 にとっては、そういう人はテレビドラマか小説の中にしかいない人です。
イッパイアッテナ 11/7 7:28	むぅ、長い(←悪い意味で) というより、長く感じる。(←カウントすると1486文字だったから実際に長いんだけど。) たぶん、液晶ワイドやバカ息子達のシーンがいらないんじゃないかなぁ。 ご主人のわんまんっぷりを繰り返し過ぎな気もするし。 とりあえず、わがしさんの言うとおり、改行は必須だと思います。 あとは、もう少しキャラクターが立つような描写を。奥さんが、主人と建築屋に埋もれている気がします。 といいつつも、起承転結がすごくはっきりした作品なので、長さが気にならずに読める素質は十分なので、だらだらしない作りこみをすれば凄い名作になると僕は思うのでした。

ひぃ 11/7 22:19	レイアウトで損をしている…。 「私」の人の良さがにじみ出てくるような話だなぁ。 「奥さん」のキャラクターがどうのってことに関して、埋もれてしまっているからこそ、最初の一言が響くのでは？
スマイリー 11/7 23:6	家を設計するということは、クライアントのライフスタイルを設計するということなんですね。建築家はあくまでも黒子ですね。
Begonian 11/8 22:50	あ゛ー読みづらい！他の方々もおっしゃってますが。 紙ならまだしも、スクリーンにびっしりと詰め込まれた文字が迫ってくるとちょっと…… 正直、個人的には紙でもコレぐらい詰め込まれるのは勘弁なんですがね。 こういう作品こそ、内容以外の場所の損して、結果内容の良さまで削いでしまう典型かと。
ノエ 11/8 23:14	改行の必要性をコメントしておきましたが、その点について。 具体的にどう改行するかですが、読み手に期待する読むスピードで読んでみると、必ず息継ぎの点が見つかると思います。 そうして見つけた息継ぎの点で改行、もしくは空白の行を入れてみる。 そうすると、１つ１つの文の長さの長短に注意を向けることができると思います。 何箇所か息継ぎもできない長い分がありましたので、そこを直していくともっともっと読み手に伝わるものだと思います。
Bloomoon 11/8 23:31	お母さんの苦労が想像できて、いい物語だなぁと思いました。 どんな窓ができたか、楽しみだなぁ
Azalea 11/10 15:16	仕事人がお金を関係なしに動いているというのがいいですね。 途中の子供たちの意見なども妙にリアルな感じで 臨場感が伝わってきます。 構成もそこそこでよかったかと思います。 さて、ほかの方が改行を気にしていらっしゃるようですが 私は、文章自体が軽いので、すっきりと読むことができました。 ただ、読みやすさに配慮しないこと無いので 適宜改行を入れながら進めることも大事かと思います。
vista 11/10 16:7	うちにも台所に窓がないのですが確かにいつも台所にいると窓が欲しいとは思います。 改行をいれると読みやすくなると思います。
紫雲 11/10 22:21	途中に行が開いていないと読みにくいですよ
かちかち 11/11 0:47	台所に窓が欲しいという気持ちは、私にもわかる気がします。依頼主の気持ちを理解してこそ、本当の設計士。がんばってください。
茜 11/11 14:37	冒頭、「」の外側の「。」が非常に気になりました。 あと、ここは「」が終わったら改行したほうがいいと思います。 その方が、見やすいですし。 読みやすい文章で、あたしはあんまり長くは感じなかったけれど、息子の話まではいらないかも知れませんね。乱暴な話、夫と妻だけでも成り立ちそうです。 その方が、妻と夫の関係ってものを際立たせて語ることもできたかも。 ＞go19さん あたしもこういう旦那さんって見たことないです。現実に居るんでしょうか。居たら会ってみたいです。
kunipi 11/13 15:55	すてきなお話ですね。 がんばれ設計士さん！と 応援したくなります。 ついでにがんばれ奥さん、とも。 台所に窓があると 気持ちが落ち着くのかもせんね。 たとえ何も見えないと わかっていても、 時折、ふっと目をやる場所でしょうか？ ちなみにうちの台所の窓には たまにネコが張り付いたりしています（笑）。

kunipi 11/13 15:55	すてきなお話ですね。 がんばれ設計士さん！と 応援したくなります。 ついでにがんばれ奥さん、とも。 台所に窓があると 気持ちが落ち着くのかもせんね。 たとえ何も見えないと わかっていても、 時折、ふっと目をやる場所でしょうか？ ちなみにうちの台所の窓には たまにネコが張り付いたりしています（笑）。
イシルドゥア 11/13 22:52	何のかんのといいつつも、ちゃんと相手のことを考えてあげてる私。いい人だ。すごく私の魅力が描けてると思う。 ちょっと内心悪態をついたような一人称の地の文は、文量の割に小気味良く第一印象よりも読みやすかった。ただ他の人の言うように、改行が無いとこういうところだけに文字の圧迫感はあるもので、下手すれば読み飛ばされちゃうみたいな損をしてしまうかも。レイアウトにも気をつけてみるといいかも。 一つ気になったのが、「どちらかといえば、いいえ！」何かに勢い込んで突っ込んでるみたいだけど、いいえって何に対していいえ？　多分、「無理！」だの、「狭い！」だの、そういうものの間違いでいいのかな。
まじょ 11/13 23:9	↑　「いいえ！」は「どちらかといえば」に対するツッコミなのでは？　「どちらかといえば」なんてぼかす必要なんか全然無い正真正銘の超狭小敷地なんだよ、って。ふつなら「もとい」かな。そんなところも味わいのある口調と読みました。 がんばれ台所。「目がぁ～」に負けるな！　と、 とても好きな作品だから、ちょっぴり応援してみる夜中前。
まじょ 11/13 23:12	↑　訂正。　「ふつ」　→　「ふつう」 コメント数稼ぎ？　いえいえ滅相もない。日本語にゲンカクなだけです。
けっちゃん 11/14 20:43	皆さんレイアウトにつて手厳しいですね。私は全く違和感無く、最後まで一気に読めました。普段ディスプレイでしか文字を読んでいない、現代病なのでしょうか・・・ にこにこ話を聞いているだけなら、最後までその意思を貫いてほしいですね。物語としては重要な人物なのでしょうが、私の周りにいたら、はっ倒します。
橘 11/15 15:34	細かいですけど「この後におよんで」→「この期におよんで」ですね^ ^; 人物像がハッキリしていていいですね。話の雰囲気が分かりやすかったです^ ^ 自分もそんなに長さは感じられませんでしたよ～。 ちょっと気になったのは、建築家の心の言葉です(・・*) 結構まだ若いのでしょうか？この建築家サン。 個人的には、もう少し落ち着きがあった言葉遣いでもいいかな、って思いました。
ほろほろ 11/16 2:49	中身の詰まった話をきちんと描ききっていただいてありがとうございました。 『奥さんの肩が～』からの文章、とても良いですね。 「控え目な奥さんから、『夕飯５品以上ないと不機嫌になる旦那』の情報をどうやって得たのかしら？」 とか、 「奥さんにここまで肩入れするためには、 　もうちょっと奥さんに関する描写が欲しいなあ」 などとも思いましたが、 家を買うときのひと騒動を真正面から書いた点、手放しで褒めてあげたいです。 ご主人が分かりやすくダメ亭主のように描かれている点は、 創作らしいキャラクターの中にも、ちょっとリアルさを感じました。 家を買うときって、各人のわがままさが案外露出するんじゃないかなあ？ と感じられた点においても面白かったです。

てん 11/17 17:34	作者の方は建築家志望なのでしょうか。 そうだとしたら、「100%あなたの味方です！」という建築家よりも、 不満を抱きながらも結局は依頼者の要望に応えてくれるような、人間味のある建築家になってほしいです。
Julio 11/18 12:43	奥さんの人となりが伝わってきましたし、建築士の心が移り変わっていくまでの展開も良かったです。文章だけで場面を想像することが出来る作品だと思いました。
鞦韆 11/18 14:20	うちの父はキレると「いったい誰の金で」とか言い出すタイプの人だったので、妙になんだか、頷いてしまいました。この作品の奥さんとは違って、うちは母も黙っちゃいないタイプの人ですし、最近は父もそれほどひどいことは言わなくなってきましたけれど。 窓って、景色を見るだけの為に欲しいものでしょうか。設計士さんのツッコミは見ていて面白いものでしたけれど、私にとっては、台所の窓は主に換気目的です。うちに3個あるコンロの内の1個が、換気扇を回して窓を開けてやらないとなかなかつかなくなってしまって。 私は別段、長い、とか、もっと改行を！とかは思いませんでしたけれど、そう思った方が居たことは、考慮されて然るべきだと思います。言われて見ると、確かに改行は少ない気もしますが、語り口が軽かったためか、私には実際の文量よりは短く感じられました。
あゆむ 11/18 14:47	長いとかレイアウトがよくないと言っている人がちらほらいますが、わたしは全く気になりませんでした。けっちゃんさんのいう現代病なのだろうか。 この建築家さんがちゃんと食べていけるのか不安。奥さんは親父さんと別れて建築家さんと結婚すればいいんだよ、とか言ってみる。 ＞けっちゃんさん はったおすなら親父さんのほうにしてください。奥さんをはったをすというなら、わたしがあなたをはったおします。 ＞ほろほろさん 奥さんの描写がもう少しあったほうがいいかなって、それは字数制限を無視しろと言っているのと変わらないのでは、と思ってしまった。 ＞コメントたち 設計士さんでなくて建築家さんですよね。ちがいがあるのか知りませんけど。
Eisen 11/18 19:24	文章力が秀逸で、しゃべり言葉ながらも気持ちよく読むことが出来ました。ストーリーも素朴で好印象ですし、登場人物の気持ちもよく分かる。かなり好きです。 　ただちょっと、やはり冗長の感があるかな。文を削るというよりは、一文一文にもっと思いを込められれば善かったかなと思います。
琥珀 11/18 22:27	わたしはこういうのあんまり好みではありません。 関係の機微と読みの優越と消化技術とちょっとした筆力テクニック（思いこみかな）で他者を誘う仮構世界を創っていくのは。 まあ、それらが未熟であることがこの作品の魅力かもしれません。未熟はすばらしい。 でも、my感性では、許せないな・・・かな。 それぞれ嬉しい空間と許せない世界があるようです。 批評というのは自己露出でやなんですが、こんな書き込みをしてしまったのは、コラムプラネットの魅力ゆえです。
Eisen 11/18 22:31	文章力が秀逸で、しゃべり言葉ながらも気持ちよく読むことが出来ました。ストーリーも素朴で好印象ですし、登場人物の気持ちもよく分かる。かなり好きです。 　ただちょっと、やはり冗長の感があるかな。文を削るというよりは、一文一文にもっと思いを込められれば善かったかなと思います。
貧保 耐三 11/19 9:18	台所には換気のため窓があるイメージなので、ないのなら是非作ってあげて欲しいです。調理をしている目の前が壁だとしたら息がつまってしまうでしょう。（遅刻コメント失敬）
mu 11/23 0:47	横書き読むには、読み辛い量です。 が、内容は理解できる。 気の弱い奥さんを応援したくなる気持ちにさせられました。
桜子 11/26 1:53	主人公の心の中の言葉がとってもわかりやすく伝わってきます。 奥さんとだんなさんのやり取りと、自分の心の中の言葉がテンポよく響いてきます。
やむ 11/26 2:13	窓、を素直に扱っていてわかりやすい文章でした。ただイメージしている生活像が少し古いかなぁ、という気がしました。

SAWAA 11/26 5:35	2位おめでとうございます。 コメントが遅くなってすいません。 住宅の設計を考えてるときって、すごい楽しくなれます。 実際に自分をそこに生活させてみて、 ここにあれがあった方がいいとか、 ここからあれが見えたら楽しいとか。 もちろんそれが自邸じゃなくても！ 建築家の魅力を思い出す文章でした。
あっきぃ 11/26 5:36	素敵なお話ですね。 登場人物のそれぞれのキャラがとてもわかりやすくて読みやすかったです。

ＴＯＰへ

飛び降り自殺

総合順位：3位
合計ポイント：22 Point
作者：バートルビー
作者コメントを読む

　別に私が「干物女」だからというわけではない。多くの人がおそらくそうであろう。高校を卒業して以来、私の学校指定のジャージは部屋着兼パジャマへと役割を変えた。大学から帰ると、まずジャージに着替える。夏は下のみジャージで、上は着古したTシャツとか、寒くなると上下ジャージになる。ずっと着ていて慣れている所為か一番リラックスできるのだ。
　ある日、大学から帰って、着替えようとすると、朝ベッドの上に脱ぎ捨てたジャージがない。おかしいな？と部屋中探してもない。仕方がないので、その日は来客用のパジャマを着たが、翌日思わぬところで見つかった。マンションの裏にある道路に落ちていたのだ。不審にと思いながらもその夜は、戻ってきたジャージを着て寝たのだが、次の日、大学から帰ると、またジャージがない。部屋中探しても前回と同じように見つからない。「まさか」とは思いつつ、先日ジャージが見つかった場所へ行ってみると、そこには私の名前が書かれたジャージが。まったくわけがわからない。これは超常現象か何かなのか？それとも私の外出中に忍び込み、ジャージだけ道路に放置しているというのか？どちらにしてもホラーである。「何でだよ！」とぽつりとつぶやいたら、ジャージが喋りだした。
「ワンピースやジーンズはいつも丁寧に着てもらっているのに、私は寝るときばっかりで、朝になるとベッドの上に放り出されるなんて、こっちそ何でだよっていいたいわよ。しかもあなた、毎日洗濯するのは夏場だけで、冬は一週間に一回しか洗濯しないじゃない！持ち主として、私のコンディションを維持する責任があるんじゃない？生存権が侵害されているわ！こんな生活はもううんざり！自殺しようと、窓から飛び降りたわ。でも死にきれないのよ。」
そういって、おいおいと泣き始めた。ジャージに生存権とかあるのか？基本的人権の1つだから人でなくてはいけないのではないか？だいたいジャージが自殺するってなんだ？意味がわからない。
「いっそのこと、そこのコンロで燃やすか、ごみにでも出して！」
ジャージのくせに自暴自棄になっている。お望みの通り、燃やすがごみに出すかしようかと思ったけれど、これは自殺幇助になるのでは？とか、果たして今後、これほど着心地のよいジャージを見つけることは可能か？などを考えると、ジャージを殺してしまうのは躊躇われる。仕方がないのでジャージの言い分を聞くことにする。
「どうすれば自殺を思いとどまってくれる？」
「もっと私のことを考えてほしい。ワンピースにはどうやってきたらいいかとか色々考えるでしょう？おんなじように私のことをもっと考えて欲しい。それに、たまにはどこかに連れて行って欲しい。いつも部屋に閉じこもっているのは気が滅入るの。」
私とお前は彼氏と彼女か！3-1とか書かれているジャージは決してオシャレとはいえない。しかし、これ以上、窓から飛び降りられたら、たまったものではない。かくして、週に一度、大学にジャージを着て登校することとなった。もちろん、上下ジャージではない。スカートの下にジャージを着たり、ワンピースの上にジャージを羽織ったり。でないとジャージが不貞腐れるからだ。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
わがし 11/5 13:14	面白いと思います。改行入れたりすると読みやすくていいかもしれません。
あゆむ 11/5 17:32	ワンピースの目的とジャージーの目的はちがうから、ジャージーがこう考えてるとするのはどうなのでしょうか。 着地点もよくわからない。結局言いたいことってなんだったのかしら。
インギリー 11/5 17:32	高校とか中学で着たジャージを、卒業してから部屋着にするというのは、今流行っているのでしょうか。 娘もそうだし、近所の子も見たことあります。 驚いたのは「長ズボンを鋏で切って、裾を縫わないまま着る」っていうの。洗濯しても裾はほつれないんですね。 制服は外に着ていくわけにいかないから捨てられる運命かもしれないけど、そうやって長く着てもらえるジャージは幸せなんじゃないかしら。 私はそう思います。 だから、あなたのジャージにも「飛び降りなくって大丈夫よ」と伝えてください。ドンマイってね。
parakeet 11/6 14:56	最終的には大学にジャージを着てくる言い訳みたいになってて笑いました。
プーギン 11/7 10:22	面白かった。服って、気に入って買ったはずなのに、うまく着る機会がなかったりするものもありますよね？　そういう服もこんなふうに思っているのかな。
ピチョット 11/7 11:41	窓のテーマからジャージが窓から飛び降り自殺？ こんなのもあり？・・・なんだ
Bloomoon 11/8 1:24	改行少ないのは読みづらいですが、無茶苦茶を言うジャージのキャラがどこか憎めなくて、読んでいて楽しかったです。 「彼氏と彼女か！」のセリフがイチオシ。 主人公を高校生にした方が、ジャージを学校に着てくることが自然になると思いました。 でも、家でジャージを着てゴロゴロしてるのは大学生やOLの方が自然だし…難しいですね。
みつきんぐ 11/8 10:1	「飛び降り自殺」というタイトルから、重たい話なのかと思っていたら、面白くてほっとしました。 少し読みづらかったですが、それが気にならないくらい面白かったです。 でも、私からしたら大学にジャージを着てくるのはあまり・・・
Begonian 11/8 16:45	起承転までしかない感じがする。 結がないからなのか、何がしたいのかよくわからない。 この後、ジャージを着た主人公に訪れた変化とか、そういうのを書けばもっと面白くなるかも。
鞦韆 11/9 2:6	改行が少ないのに、それほど読み辛くはなかった作品。珍しいと思います。 『これは自殺幇助になるのでは？とか、果たして今後、これほど着心地のよいジャージを見つけることは可能か？などを考えると、』という部分、前者は後付けで、ほぼ後者の理由だけで燃やさないことを決定したんじゃないかな、とか思いました。 ユーモアの利いているいい作品だと思います。フィクションならジャージが喋ろうが飛び降り自殺しようが許されますよね。 でも真面目に現実に照らして考えると、主人公は精神病っぽいですよね。 ジャージ着て大学行って、友達とかから『お前なんでジャージ着て大学来てんだよ』とか言われて咄嗟にこの切り返しが出来たら天才的だと思います。

けろた 11/9 18:50	ジャージの気持ちなんて考えたことがなかったので、視点としてはすごく面白いと思います。「飛び降り自殺」の発想は実際に落ちていたことがあったんでしょうね。いやこれすごいです。 私もジャージにあまりいい思いをさせてないから、堂々とジャージのままお出かけしちゃいますかね。タイトルからは全然想像できない展開が楽しかったです。
橘 11/10 11:24	高校のジャージがエビ茶(エンジ)色で最後まで嫌いだったのを思い出しました^ ^; 「捨ててもいいような気もするけど、でも着心地いいし…」 そんな微妙な気持ちがよく表れていると思います。 推敲する時間がなかったのでしょうか？(・・?) 誤字・脱字が少しい多い気がしました。
茜 11/10 22:41	・・・・・鍵開けて外に出れるなら、自分でコンロの火つけて焼身自殺すりゃあいいんじゃないかな、とか・・・・・ あたしはネタならもーちょっとノリのいいネタが好きかな、と思いました。もっとぶっ飛んでるような。３日目には帰った時にちょうどジャージがカギ開けて窓から出て行くところだったとかいう場面に出くわすとか。もっとごちゃごちゃジャージが喚いて、あたふたと説得してみる、とか。 どことなく、主人公が冷静な気がしたのが、ノリが悪いなあ、と感じた理由なのかも知れません。
大黒様 11/12 9:57	窓が全く関係ないような期がすんですが。。。 お題はジャージじゃないですよ。。。
316L見習 11/12 19:39	面白いです。 深刻な話か？と思わせるタイトルと、本文とのギャップがいいですね。なぜか幼い頃、身の回りのもの全てに名前をつけて、色々と遊んでいたことを思い出しました。 ちなみに自分のジャージは、体育館で下手くそなプレーを繰り返したせいでズボンの膝辺りが例外なく溶けて穴が開いてましたね…痛めつけて申し訳ないなあ。
kunipi 11/13 15:31	発想が面白くていいですね。 題名とのギャップも、 うまいな、と思います。 ジャージって もう学校を卒業してしまったら どうでもよくなってしまいますね。 と、昔のことを ほんのりと思い出させてくれる よいお話でした。
かぴばら 11/16 14:48	ユーモアのある作品で好きです。 ただ、ジャージは最後に、はっきりと自己主張をしていたようですから、普通に考えると自殺する前に、この自己主張がきそうな気はしましたが。
クリリン 11/16 16:30	ジャージはそういう扱いになりますよね。 別に悪気はないんですけどね。 ジャージに優しいですね。
あゆむ 11/17 19:46	そうかコメディだったのか。作者さんには伝えたいことがあって、それを書いたのかと思ってた。なるほど、ちっとも笑えなかったのは残念です。 ジャージじゃなくてジャージーですよねぇとどうでもいいことを言ってみる。
RIRI 11/18 2:8	ジャージのセリフが人間臭くて個人的には大好きでした。ジャージに死なれるってのはどんな気分でしょうね。 コメディ路線なら、もっと過激に服同士で主人公を取り合う話とかでもいいんじゃないかと思いました。 そういえば昔、シャツにカエルがくっついて喋るアニメがありましたね。
イッパイアッテナ 11/18 20:35	想像してみた。いつもジャージで大学に来る女の人がいて、その人に理由を聞いたら、こういう答えが返ってきたとしたら… ありかな？と思えた自分が悲しいです。

レロニラ 11/18 21:16	飛び降り自殺というタイトルからは想像もしてなかったストーリーでうまいなと思いました。 学校のジャージを家着として着るという誰もが共感できる日常から、非日常の世界を描き出しているのが面白かった。 でも自然と親しみの持てる文章なのはジャージが愛らしい印象だからでしょうかね。 私は学校ジャージならコンビニくらいが限界ですが^ ^;
Azalea 11/18 23:11	ほんわかした話で、面白かったです。 コメディーというよりも、（大人向けの）童話チックという感じで読みました。 （そういう意味ではなく、文字通り、ですよ？） 最後の終わり方もふわりとした感じでよかったです。 そういえば、ジャージは全部実家においてきてしまったので 今頃、不貞腐れてるかもしれませんね。 今度起用してみることにします（笑）
シュトルムティガー 11/18 23:42	非常に面白い作品でした。 　ジャージが自己主張をして飛び降り自殺するなんて考えても見ませんでした。 　しかし、大学に高校生のときのジャージを着て行く人なんているのですか。
ほろほろ 11/19 0:8	わははははは、全然「窓」と関係ない！ でも笑ってしまいます。わははははは。 『でないとジャージが不貞腐れるからだ。』という結びは花マルです。 ジャージとわりと仲良くやれてんじゃん！ 良かったな、ジャージ！
でもどり 11/19 0:45	「窓」というテーマと「飛び降り自殺」というタイトルから、物騒なことを想像してしまったのですが、良い感じに裏切ってくれました（笑）。 家で眠っているであろう高校のジャージを探してみようという気にさせられました。さすがに学校にまでは着てこれませんが・・・。
貧保 耐三 11/19 9:32	ジャージの気持ちを考えたわけですね、モノを邪険に扱ってはいけないですよね、やっぱり。でも高校のジャージは芋っぽいイメージが強いので、それを着て通学するなんてなかなか勇気がいるでしょうね。（遅刻コメント失敬）
mu 11/23 0:52	面白いのに、なにか惜しい。 ねらいどころが悪いのか。落としどころが悪いのか。 ジャージがしゃべるまではよかったのに。 いくら干物でも、女の子が 大学にジャージ着ていくわけがない！と思ってしまうのです。 もうちょっと納得できる落とし方をしてほしかった。
ひぃ 11/25 22:47	作者の意志とは別に色んな読み方が現れるというのは、文章の面白さの一つなのかなと思います。 この文章にしても、一つの会話を別の視点から見て始まったような感じみたいですし。 日常の会話から「あれ？」と思ったことのすくい上げ方がいいなぁと思いました。
あっきぃ 11/26 5:50	おもしろかったです！！ でも改行が少ないためにちょっと読みにくさを感じてしまったのが残念です。内容自体はいいと思います。
Asagi 11/27 23:29	思わずうなずいてしまったのが悲しいを通りこしてやるせない。 わたしもやられた経験あります。なんなんでしょうね、あれ。 ・・・・でも、シャツなら、まだ。
茜 12/2 0:4	あー・・・・・その話、あたしも心当たりが。 でも、シャツくらいなら可愛くていいんじゃないでしょうか？
あゆむ 12/2 23:59	彼女の嫉妬してるのといういい返しに対して腹をたてるのってどうなんでしょう。

バートルビー 12/3 11:16	コメントに対するコメントが！ >Asagiさん、茜さん しかし、洗ったばかりの白いシャツに涎をたらされるのは悲しいです。 >あゆむさん 一応、性別をどちらにでもとれるようにと書いたのですが、 「彼女」と読めますか？
あゆむ 12/4 17:20	そういえば彼女とは書かれていなかったのですね。 女と書かずに女性を表現したのですか。なるほど、お題を先取りな感じだったのですね。

ＴＯＰへ

通勤電車の楽しみ

合計ポイント：21 Point
作者：かぴばら
作者コメントを読む

今日もダメだった。

満員の通勤電車という代物に乗っている人たちは、一体何を考えながら苦痛の時間をやり過ごしているのだろう。
ひたすら早く目的地に着いてくれと願っているのだろうか。
読書や携帯のメールに夢中になっているのだろうか。

私は社内で今の部署に移ってからの2年半ほど、毎朝ほぼ同じ時間に同じ車両の同じドアから電車に乗っている。
いつの間にか私には名前も知らない、話をしたこともない知り合いがたくさんできてしまった。
電車を待つ列に知らない顔が見えると、なんだか新参者を迎え入れるような気持ちになってしまう。

そこでふと思うことがよくある。
彼らはどんな気持ちで、この通勤電車に乗り込んでいるのだろうかと。

電車が来れば、「無名の知人」たちはいっせいに電車に乗り込む。
いつも到着前から車内はひどい混雑ぶりである。

そして私はというと、必ず列の一番後ろに並び、ドアの窓ガラスに張り付くように電車に乗るようにしている。
あるささやかな楽しみのために。

電車が出発して2つ目の踏切を越えると、高架の区間にさしかかる。
なだらかな勾配を上っていき、3年前に建った大きなマンションを超え視界が開けたその瞬間。

私の勝負の時。

ああ、今日もダメだった。

（こんなにいい天気なのに…）

私の通勤電車での楽しみとは、窓から富士山が見えるかどうか、自分の中で賭けをすること。

ちなみに夏場、富士山が見えることはほとんどない。年に1〜2回といったところだろうか。
しかし冬場は、空気が澄んでいるため、1週間に1回くらいは見ることができる。

そのためこれからのシーズン、私は独自の経験とカンから予測をして、勝負の瞬間に一喜一憂するのだ。
そうして富士山が見えた日には、次の駅までその雄姿に見とれてしまうのである。

さて電車が次の駅に到着すると、私の楽しみは完全に失われてしまう。
またしても「無名の知人」たちが大勢乗り込んできて、私は車内の中ほどに押し込まれてしまうのだから。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
わがし 11/5 18:12	もう少しマニアックなものを楽しみにしていると、読み手としては 思わず、ふふふとなってしまうのでは・・・？ 実話か！　失礼いたしました。
あゆむ 11/5 18:20	わたしはふふふとしてしまいましたよ。 毎日の通勤電車でこんなひとがいると思うと、なんだかたのしいですよ。もしかしたら、あの人もなにか電車での楽しみをもっていたりして、などと考えたりして。 まぁわたしは学校まで自転車なんですが。
ノエ 11/6 12:7	まったく同じテーマの短文の作品を見たことがあります。 それはさておいて・・・ 最初に『今日もダメだった。』からはじまっているので、途中に重複するよりも『明日こそ・・・』で締めるとか文章に対比をつけるとよりテンポのよい文章になったと思います。
paco 11/6 20:53	自分だけのささやかな楽しみって、 日々の生活のエッセンスですね。 一度も信号に引っかからずに家に帰れた時。 電車のドアが自分の真正面で止まった時。 誰にでもあると思います。
bagi 11/6 22:8	日常の中で自分だけの楽しみを見出すのって楽しいですよね。でもまさかあの満員電車の中で楽しみを見出せてる方がいるとは・・・。私も探してみます。 「無名の知人」っていう表現が気に入りました。
Asagi 11/7 1:45	あー！やってたことあります！思わず共感してしまいました。なつかしい。 　これからだんだん空気が澄んできて、遠くの山までよく見渡せるようになるいい季節ですね。 　ただ、「見知らぬ知人」の話と、富士山の話とが平行して進んでいるので、わたしはちょっと作品の方向性が散漫になっているようにも感じてしまいました。見知らぬ知人は他人の話、富士山の話は自分の話だからなのかもしれません。 　どちらか一方にしぼったほうが、読み手の受ける印象としては、よりドラマティックになった気がしますが、いかがでしょう。もちろん、これはこれでいいのですが。
ピチョット 11/7 10:18	日常の通勤の中でのありふれたテーマかもしれないが、 まじめさが伝わる文章だとおもいました。通勤地獄を知っている私には共感できます。
contax139 11/7 21:42	私も自分の毎朝の通学電車を思いうかべてしまいました。まさにふふふ。確かに動く物の窓というのは、普通の窓とはまったく違う世界だと思います。わたしの場合は電車の決まった車両に乗るとかではないので、原宿駅でどの広告の前に停まるかのルーレットを楽しみにしています。

kirie 11/7 22:56	毎日通勤ラッシュの時間帯にぶち当たる私は、非常に好感が持てました。 富士山ではないですが、私も車内で大体同じ事をしてます（笑）。
Begonian 11/10 0:12	あー、中学のときにやってました。こういうの。 まぁ、富士山とかそういう洒落たものじゃなく、もっとこう……あいや、やっぱやめときます。 Asagiさんに同意。 「無名の知人」とか名付けまでしておきながら、それが話の中心じゃないってのには肩透かしを食らいました。 あと、「ああ、今日もダメだった。」と「（こんなにいい天気なのに…）」ってどっちも主人公の心の中ですよね？ 全体通しても()が使われてるのはこの一箇所だけだし、妙な違和感を覚えました。
茜 11/11 17:51	いいんじゃないですか？ささやかさがいいですね。 「無名の知人」と「富士山」が並行してるけれど、でも、富士山だけに絞ったら、あたしはつまらないと感じたかもしれません。どっちかって言うと、「無名の知人」の話の方が、あたしは好きだったから。 わがしさんの言うように、もうちょっとマニアックなものだと、その話だけでもふふふって感じだったかも。 そしてBegonianさんの見てたものが気になる今日この頃。
インギリー 11/11 21:19	「無名の知人」という言葉は存在するのでしょうか。 意味がわかりません。 文法とか表現法という前の問題じゃないか！と思うのですが。 皆さん、意味が通じているみたいで、私は一人置いてきぼり。
sum1 11/11 22:9	私も高校の頃、電車の一番後ろから富士山を見ていたので、共感できるところが多い作品でした。 冬場なら都内からでも生々しいくらいにくっきり見えます。 ＞インギリーさん 私は「無名の知人」を、数行手前の「名前も知らない、話をしたこともない知り合い」の言い換えと読みましたが、もっと深読みが必要なのでしょうか？？ 確かに「知人」の意味が「顔が判別できる程度」というのが、日常的な言葉の使い方からするとイレギュラーかもしれませんね。
インギリー 11/11 23:16	長文でごめんなさい。 ＞sum1さん 「無名」というのは、「名もない」とか「名前を知られていない」とか、そういうマイナスのイメージで語るときの言葉です。 この文章での使われ方は、おかしいと思います。 人にはそれぞれ名前があって、お互い名前で呼び合っています。 「無名な知人」という言葉は「名前があるかどうかも知らない、社会の片隅に追いやられた人」というような意味に取れます。 皆さん、どう思いますか。 もともと「名前も知らない、話をしたこともない知り合い」という言葉にも無理があったわけで、それがすんなり受け入れられると「無名な知人」も通ってしまうのでしょう。 「無名な知人」という言葉がsum1さんのような意味だとすると 「ただの顔見知り」とか「無言の顔見知り」とか、そういう言葉があてはまると思います （それが適当かどうかわからないけど）。。
輝 11/12 17:18	ルーティーンの代表選手ともいえそうな通勤通学電車内でのあれこれは、 多くの読み手の「わかるわかる！」を引き出しやすいテーマかと思います。 かくいうわたしも、「わたしの場合は東京タワー・・・」とつぶやきました。 それだけに、どう描くか、仕立てるかを問われそうです。実は難しいのかも。
あお 11/12 20:59	こういう日常生活のなかのジンクスって高校生の時には沢山あった気がするのです が・・・。そういえば最近あまり無くなったなって思いました。規則正しい生活をしていないとできないものなのかも。 とてもなつかしい感じがしました。

354e14thave 11/13 11:33	同じような気持ちになったことあります！毎朝顔を合わせる赤の他人。興味深い関係ですよね。いつもいる人がたまにいないと心配になってしまったり・・・
けろた 11/13 20:46	「無名の知人」についての意見がありますが、私はこの表現が適切と感じました。通勤電車の中では経験ないけど、朝駅に向かう一本道で、必ず同じような地点ですれ違う、「無名の知人」が何人もいたのです。すれ違わないときは「どうしたのかな？」と思いました。それが数年続けば立派な「知人」なんじゃないでしょうか。 富士山がみえるかどうかも、通勤地獄の中でのささやかな「楽しみ」という点で共通するのだと読み取りました。同じような経験があるから共感できるのかもしれません。
sum1 11/14 0:53	ごめんなさい、私も長文になってしまいました。 ＞インギリーさん なるほど、鋭い洞察です・・・。 私の単純な脳味噌は、「名前も知らない」＝anonymous＝「無名」と勝手に理解してしまいましたが、確かに日本語の「無名」にはネガティブな意味がありますね。 インギリーさんの言うように、「無名の知人」とは ＞「名前があるかどうかも知らない、社会の片隅に追いやられた人」 であるとすれば、2段落目冒頭の「苦痛の時間をやり過ごしている」人達という部分が、まさに彼らの悲惨な境遇を描いているところとして生きてくるのかもしれません。 ただ、私はむしろ、賭けに勝って「富士山」を拝めることの幸せを知らない人達に対し、著者が「こんなに素晴らしいのに皆知らないなんて」という意味での哀れみ（？）もあるのではないかと思います。 ただの顔見知りでなく「知人」と呼ぶのは、同じ通勤時間と車内空間を共有する彼らへの「共感」があって、なおかつ「富士山」の感動に「共感」していない多数の知人を目の前にして、著者は「無名の知人」と呼んだのではないかと。 うーん、難しいです・・・。
はつね 11/15 22:50	最近都内某鉄道で似たような情景に出会ったばかりなのでよく分かります。 ただ >私は独自の経験とカンから予測をして、勝負の瞬間に一喜一憂するのだ。 と >ああ、今日もダメだった。 がなんとなくつながらないかな、という気がします。「ああ、今日もダメだった。」という表現からは富士山が見えるかどうか予想をしているのにも関わらず、常に見えることを期待し、予想をしていないように感じてしまいますので。 やっぱり実話なんですかね？
茜 11/15 23:33	「無名の知人」 たしかに。無名の作家とか言うと、マイナスイメージですよね。 でも、あたしは違和感なく読めました。むしろ、この言葉好きでした。 「無名」って言葉には、「名前の分からないこと」って意味もあるそうです。（広辞苑） 「無名の歌手がミリオンセラー」みたいな見出しとか、ありそうじゃないですか。そういうときの「無名」は、マイナスイメージというよりも、「まだ世間が知らなかった新たな」っていう意味合いがあると思うんです。 必ずしもマイナスイメージって決めつけてしまうことはないと思います。
あゆむ 11/17 18:56	無名の知人についてわたしも少し意見をいましょう。辞書を引くととか本来はマイナスイメージを含んだ言葉とかいろいろと言っていますが、言葉とは常に変化するものなのですよね。辞書がどう言ってるか知らないけど、この作品ではたしかにこの言葉で作者さんが伝えたいことが伝わった(とわたしは思っている)ので、それでいいのではないでしょうか。その言葉を使うまでも自然な流れだったし、そんなにとやかく言うべきではないように感じました。 無名の知人の話か富士山の話かにしぼってみてはと言ってる方もいますが、この敢えて話をしぼらないというのもこの作品のよさのように感じました。飾らない自然な文体。読む側も自然体になってしまいますよね。 ところで、雄姿とはなんでしょう。御姿のことでしょうか。

Azalea 11/17 23:50	富士山の話はいらなかったという意見がありますが 私も賛成です。「無名の知人」の話に絞ったほうが よい作品になったのではないかなと思いました。 「無名の知人」というのは名前も知らない人間、大勢のその他多数の人間が、まるで知人のように 顔を毎日合わせていることに対しての一種の皮肉めいたものも感じるのです。 毎日毎日同じように同じ時間の電車に乗り続けている社会の歯車という感じで。 ・・・深読みのしすぎですかね。
Eisen 11/18 2:6	ある言葉が一つの意味しかささないと思われるのなら、それは誤りです。テストか何かで「適当な文を選択せよ」と書かれた設問に対して、「テキトーに選んでいいのか！」と憤っているようなもの。 「無名」という言葉もそうだと思います。もともと只「名の無い」という字面通りの意味があり、そこから派生、あるいは意味が付加されて「いまだ名の売れていない」という表現に使われるようになったのでしょう。 この意味で、作品内での使われ方は間違いではない筈です。 日本では「名」が「名誉」をもさす、なんて話や、そもそもネガティヴな意味を持ちうる語をみだりに使うべきではない……なんて話を始めるなら、この限りでもないのでしょうけれども。
まじょ 11/18 15:31	↑　３コ上へ。 おーい、「雄姿（ゆうし）」くらい知っててくれぃ、ほろさぽ。富士山が泣きます。この言葉の代表選手なのに。
鞦韆 11/18 17:16	通勤電車、というか、ラッシュ時間帯の電車ですが、綺麗に前後から平らに押し潰されると痛みもなく、立っているのも楽で、私はそういう状態に置かれるのは比較的好きだったりします。大概はどこか斜めから押し潰されてすごく痛いのですけれど。 「富士山」の話よりも「無名の知人」の話の方が興味深く、富士山の話は不要だと感じた、という意見には私も同意です。 作品とは直接関係ありませんけれど、ほろさぽずの一人として、雄姿という言葉を知らないあゆむさんに絶句。
あゆむ 11/18 17:46	三個上ってわたしのことですね。 あぁゆうしって読むんですか、知りませんでした。 ぶらんこさんに絶句されてしまった。 すみません漢字はニガテです。
イッパイアッテナ 11/18 20:32	そっかぁ、●●じゃなかったのかぁ。 なんか、あるあるーて共感できました。
でもどり 11/19 0:20	私も通勤電車で富士山が見えるかどうかを楽しむ一人ですので、 共感できる部分があります（みなさん、何かしらゲン担ぎみたいなものをしているんですね）。 「無名の知人」（この表現自体は好きです）と表現しているように、「朝からなんとなく疲れる通勤電車」の中のさやかな楽しみが上手く表現できているように感じます。
鳥 11/19 2:31	なんだか微笑ましいですね。 少なくとも、こういう「賭け」（といっていいんですよね?「勝負」って書いてるし）は 朝のテレビでやってる占いよりはずっと価値があるように思うのは私だけでしょうか?(笑) で、ノエさんも指摘しているように「今日もダメだった」に対して 「じゃあ明日は」があるといいかなぁ、と思いました。 あと、「無名の知人」についてですが、私もこれで問題ないと思います。 例えば「名もなき花」なんて表現がありますが、 これは一般の人がその花の名前を知らないだけであって、 もしかしたら植物学の世界ではとても重要な植物なのかも知れません。 「無名」という表現にはこの主人公がただ彼らの名前を知らないという以上の意味はなく、 そこにポジティブ・ネガティブといった主観を付けて読むのは乱暴な気すらします。
suburbanian 11/19 3:54	「富士山が見えるかどうか」…なんかイイですね 「無名の知人」…経験はないですが分かるような気がします どっちも共感できるんですが、作者さんは本当はどっちのことを言いたかったのかな…？？

貧保 耐三 11/19 9:27	富士山がかぴばらさんを癒しているのかはわかりませんが、通勤電車の窓から見える景色はなんかいいですよね。夕焼けが妙にきれいにみえたりして。私の電車の中での楽しみは変な人を発見することです。（遅刻コメント失敬）
やむ 11/26 2:22	通学で７年間満員電車に乗っていたので共感する部分が多かったです。話としては富士山よりは、自分だけの視点のあるものだとよかったかもしれないと思います。 （遅刻してすみません）
あっきぃ 11/26 5:39	日常の誰もが経験する電車からの風景というところに共感がもてます。富士山じゃなくてもなにかしらそのようなことを経験している人はいるんだろうなぁと思いました。 満員電車だったからこそ起こる楽しみなので、すごく素敵だと思いました。

ＴＯＰへ

窓

合計ポイント：20 Point
作者：ノエ
作者コメントを読む

フレームってあるでしょ？
写真とか絵なんかを入れる枠で、風景の一部を四角とかまるとかに切り取って飾ったりする。
街角の風景の一部だったり、思い出の一部だったり。

四角いフレームには四角い風景。
まるいフレームにはまるい思い出。

寝転がって、逆さまになった部屋の風景を見ていると天井近くの小さな窓が白い壁ので切り取られたフレームに見えた。

四角の空が見えて、雲が流れていくのが見える。
小さな雲は羊の群れをなして。
大きな雲は四角く切り取られて。

四角い空の光がひし形に壁を照らしてく。

白色がだんだん淡いオレンジ色になってく。

反対側の壁にも淡い黄色の光が入ってきた。
まるい十三夜でも、窓を通り抜けると四角くなるんだね。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
あゆむ 11/5 18:10	わたしこの作品好きです。 ふわっとした時間がゆっくりと流れていく気がします。 残念ながらわたしのうちの窓からは雲が見えない。
サンダーバード 11/6 5:41	天井にある窓という点で、そこに出てくるシーンは、宇宙に関係するものばかり。いいですね。小さい窓に広大な宇宙のアンバランスが。

hanson 11/6 13:20	いい文章だなぁと思いました。素朴な内容もそうですが、文章リズミカルなところが詩的で好きです。
きゅうぴー 11/6 17:8	窓をフレームに例えているところ、時間の流れで情景が変わってくる様子が目に浮かぶようで楽しい。肩肘張らない文章がいいですね。
きゅうぴー 11/6 17:9	窓をフレームに例えているところ、時間の流れで情景が変わってくる様子が目に浮かぶようで楽しい。肩肘張らない文章がいいですね。
paco 11/6 21:15	一行目のなんとも言えない問いかけで持っていっています。 寝転がった逆さまの視点は想像では書けない、共感できます。 抽象的だけど、なんというか、淡くていいですね。
インギリー 11/6 22:10	１行目の最後にクエスチョンマークが入っていますが 日本語の文章には入れない方がいいと思います。 話しかけるような文章になっていますが 最後の方、もう少し推敲した方がいいと思いました。
ピチョット 11/7 10:57	白い木造の一室にねころがってすごしているようすがうかんできました。私もこんな風に一日中ふわふわしながら軽くすごしてみたい（？！）白い壁ので切り取られた→白い壁に飾られたではだめですか？
ひぃ 11/7 14:13	そこには私だけの空がある。 そんな言葉が浮かんできます。 空の様子が変わっていく様子がゆったりとした時間を感じさせてくれました。
作者 11/7 21:40	誤字がありますので修正ください m(_"_)m ペコペコ 『小さな窓が白い壁ので切り取られたフレームに見えた』 ↓ 『小さな窓が白い壁で切り取られたフレームに見えた』
contax139 11/7 21:52	最初なぞなぞかと思いました。動いている空の写真がいつでもとれるもの。それぞれにとっての窓がある気がしました。 素敵なお話です。
kirie 11/7 22:50	なんだか、癒されますね。 窓をフレームに喩え、その情景を切り取る表現が好きです、 語り口にしているところも、読み手に軽快な読みやすさを与えていると思います。
ken 11/8 13:19	ほのぼのとしています。四角だけど形って結構大切ですね。
Begonian 11/8 17:4	微妙に引っかかる点も少しだけありますが、いやはや、そんなことを言うのは無粋ですね。 この手の作品は雰囲気が大事、その点この作品はすばらしいと思います。
橘 11/10 11:43	「まるいフレームにはまるい思い出。」 この表現が一番好きです^ ^ その通りで、柔らかく、優しい思い出の一場面になりますよね。 「丸い」ではなく、ひらがなで「まるい」だから、 さらにその効果が増されていますよね。 昼過ぎから夜までの時間、ずっと空を見上げて過ごす。 幸せな時間の過ごし方だと思いました^ ^
vista 11/10 16:2	文章にテンポがあってとても読みやすくてよかったです！！
茜 11/10 22:47	・・・・・じゅうさんや？ 十五夜じゃないのがなんとなく気になりました。十三夜もわりと丸いとは思うのですが。 雰囲気を、もうちょっと丁寧に描写できるかな、と思いました。長々と書きこむ必要はないと思うのですが、もっと工夫された表現なんかがあると、作品のレベルが一段上がるんじゃないでしょうか。
アボガド 11/12 15:52	誰もが経験したことのある情景で、 読みやすい文章で場面に引き込まれる。

イシルドゥア 11/13 22:4	まるいを平仮名にするなら、四角も平仮名がよかったなあとか、「オレンジ色になってく。」→「反対側に黄色の光が入ってきた。」がそのままの流れっぽく読めて、太陽出てる状態で月の光が分かるの？とか、この辺は細かい突っ込みとして、一番気になったのが、最初と最後が相手（多分読者？）を想定して話しかける形なのにそこ以外はそれを意識してない気がして、どっちだと思って読めばいいのさと戸惑ってしまったかな。 形や色を散りばめてイメージしやすくし、柔らかくリズム感がある文章なのは雰囲気作りにも一役買っていてとてもいいと思うんだけど、話しかける形にするならするで一貫させた方がより良かったと思う。僕はそこにすごく違和感を感じた。 僕も、橘さん同様、「まるいフレームにはまるい思い出。」の一文が一番好きだなあ。
Azalea 11/14 0:28	どう切り取るかって感じでしょうか。 ふわっと読めて、テンポのよさもよかったです。 皆さんが言ってますが ＞まるいフレームにはまるい思い出。 という一文私も好きです。　どこかのキャッチコピーに使いたいくらいですね。
星イッテツ 11/16 21:14	ぼけーっと窓を見る時は、すごく豊かで発見のある時間なのだと感じました。
あゆむ 11/17 19:59	hansonさんの言うようにこの作品は詩なのですよね、散文詩。 わたしとしてはこの作品の細かいところに突っ込みを入れるのはよくないように感じました。この作品は完成されています。どこかを直すとリズムが崩れ、ただの作品になってしまうような気がします。 最初と最後だけ話しかけるようになっているのが変だという人がいますが、そうですか？わたしはこれでいいと思います。
鞦韆 11/18 17:20	『まるい十三夜でも、窓を通り抜けると四角くなるんだね。』 という描写を読んで、小学生の頃、「ある程度以上小さい穴であれば、どんな形の穴を通しても、日光は丸い光になる」という理科の実験をやったのを思い出しました。
でもどり 11/19 1:24	なぞなぞ、問いかけ風の出だしが好きです。 さぁ、これから何が語られるのかな？　という気にさせてくれます。詩的な雰囲気も、この時期の読み物にぴったりな感じがします。 つい両手の親指と人差し指で、フレーム、作っちゃいました。
ひぃ 11/20 13:40	言葉の音がすごく心地よくって、雰囲気にもあってました。その辺、韻を踏ませる工夫はよく生きていたと思います。
作者 11/20 22:16	評価ありがとうございます。 リアリティーと雰囲気を両立するのは難しいですね。 読み手はどんな速さで文字を追ってくれるのだろうかと、テンポをそろえるのに苦労したので、そのためリノコメントはうれしいですね。
茜 11/20 23:30	＞十三夜 なるほど。間違えたにしては妙だったので、やっぱり理由があったんですね。 首を傾げてから、一応調べてみて、「十三夜のお月見」なんてものもあるんだって初めて知ったんですが、十五夜のイメージの方が大きくて、十三夜ってあまり聞かないものですから、十五夜じゃ駄目なのかな？と。 あたしは、十五夜って聞いても秋をイメージしたと思います。お月見って秋のイメージですし。でも、確かに、満月では季節感がないですよね。
作者 11/21 0:24	「十三夜」をわざわざ調べていただけてありがとうございます。 そうでうねぇ。あえて「十三夜」にしたのは、やはり季節感に基づくものです。 昔から、「十三夜に曇りなし」という言葉があるように、空気が澄んでいる季節なのです。。 ついでに「十三夜」について、吉田兼好の徒然草の一文をご紹介します。 「九月十三日は婁宿（ろうしゅく）なり。この宿、清明なる故に、 月を翫（もてあそ）ぶに良夜とす。」 樋口一葉も「十三夜」という作品を残しています。
作者 11/21 18:16	まじょ先生。。さきほど「まじょコメント」読んでたら・・・ ん？ 分類は「窓をつくる」だったのですが、なぜかなぁ～？？

まじょ 11/21 19:40	あ、えーと。 ちょっと説明すべきだったかも。 窓を単なる通過点とするのでなくて、むしろ窓自体に焦点をあてた作品群をあそこに並べたのです。 まるい／四角い　というカタチへの注目。 そこがこの作品の中心かな、ととらえ、 それは「つくる」につながる建築家さんの視線と地続きかな、と考えました。 「つくる」グループのラストに配した「赤い逆三角形」のキーフレーズである「窓は空のかけらを部屋に導く」がちょうどノエさんのこの作品と呼応していて、はじまりと終わりをゆるやかにループさせてみたかったのです。
作者 11/21 20:53	あ〜、なるほど。。そうきましたか。。 形に注目したことは、当たりです。 そうですね。 外の風景もしくはその一部が窓を介することで形の変化が生まれることに注目してみました。。 夕景専門の写真活動をしていた時期があり、時間の移ろいに伴って見せる空気の色の変化に加え、フレーミングによって景色の印象がダイナミックに変化する様を経験してきました。 色と形の変化を描写すると云うのは、映像も文章も難しいが故に楽しいものだと思っています。。
mu 11/23 0:45	独特の雰囲気をつくりだした作品。 窓という単語をつかわなくても、その存在を描き出したところがすばらしい。 読みやすくていいと思います。
あゆむ 11/25 3:31	わたしはこの作品が好きです。詩集出すなら読みますというくらいに。 間違いなくこれが一位だと思ってたのですが、違いましたね。 女というお題でもいい作品が見れることを期待しています。この作品でも女というお題がクリアできるように思った。わたしが勝手に主人公が女性だと決め付けているのですがね。
作者 11/25 23:57	あゆむさん。。 お褒めいただきましてありがとうございます。。 詩集ですかぁ・・・・。遠い学生時代はいろんな文章を書いていましたが、本当に久々なんです。誰かに読んでもらうことを前提とした文章を書くのって。 気が向いたら、プロフィールにでも１つばかり昔の文章を載せておきましょうかねぇ。。。。 若いときの文章は独りよがりになりがちだったので、今回は遠くから眺めながら何度も読み返して推敲しましたが、今度は『女』ですよね。。 書き始めるまでが大変。 さぁ、評価はどうなることやら。 辛口のコメントお待ちしています。。 追伸 この文章を「女」のお題にするのは、とても難しいですねぇ。 風景描写で、性を匂わせる言葉や表現を入れたときに、読み手がすぐ横で寝転んで天井を一緒に眺めて時間を過ごしてくれるような文章にどうすればなるかなぁ〜。

ＴＯＰへ

赤い逆三角形

合計ポイント：20 Point
作者：活
作者コメントを読む

「窓は空のかけらを部屋に導く」と偉大な建築家は語った。建物を設計する時、この窓からはどんなかけらを部屋に導こうか、などと、想像することはとても楽しい。しかし今日ではそんな詩的な感覚で切り取られた空ばかりではない。建築物は所有物であると同時に社会資本なので、多くの法律に縛られている。法律は用を規定する。詩的な感覚ではなく現実的な目的が要求される。多くの利害関係者の目的と詩的な感覚、それらは往々にして相容れない。

通りを歩いて、目を建物の4階ぐらいに向けてみて欲しい。ところどころに赤い逆三角形が貼り付けてあるのを見つけられるだろう。窓にあるいは壁に、三角形は貼られている。気にして見るとその多さに驚く。自分の家のベランダにもあるかもしれない。

そこには「消防隊進入口」と書かれている。火災時にはしご車が近寄ってスムーズに進入できるよう意図され、縦横の大きさと、配置が建築基準法で規定されている。奇妙なことに、消防法ではないのだ。

消防隊に聞いてみた。火事の時、どこから入りますか？－どこからでも！
赤い三角からは入らないのか？－どこからでも！

彼らは建築の法律で用意された赤い三角形には特に頓着しない。火事は非常事態。割ってでも壊してでもベストの場所に突入するのだ。わざわざ準備してくれなくても、こっちの欲しい場所はこちらから申し上げます、と来るのだ。

そんな逆三角形でも、無ければ建築基準法を満足できず、建築することができない。設計者はしかたなく、法律で定められた範囲内で最低限の数をしぶしぶと配置する。そこから切り取られる空のかけらって、一体どんな形なんだろう。

一方で、建築を官庁が許可するには消防の「同意」が必要だ。消防法にも建築を規定する項目がたくさんある。スプリンクラー、泡消火設備、消防用水槽などなど、火災時を想定して建物規模に応じて装備することが明文化されている。

消防士たちはさらに、法に規定された以上のことを、「指導」の名の下に要求してくる。消防隊が入りやすいようにガラスを割りやくすること、（泥棒も入りやすい！）隊員が飛び込む時怪我をするので窓台は低くすること（子供が落ちるぞ！）などなど、彼らにはまだ建設されていない建物の図面が、自分が飛び込んでいく、炎上する修羅場としてありありとイメージする訓練が施されているのだ。

盗難保険を扱う会社はシャッターをつければ保険料を下げるという。火事の時進入しやすいようにシャッター開放用の特別な装置をつけろと消防は言う。西日が入るから窓はいらないといっても、基準法で必要な場所には消防隊が入れるように外壁に扉をつけなければならない。だから壁と同じ石やタイルを貼り付けた扉が設置

される。隣の家が火事になった時に火の子が飛び込まないようにガラスに網を入れよ、と建築基準法は言うけれど、それじゃあ消防士は壊して入れない。そこで外側にもハンドルがつく。

こんなやり取りを繰り返すうちに、部屋に導きたかった空のかけらの形なんて、すっかり思い出せなくなってしまう。建物が出来上がって、差し込んできた陽光を手に受けて、「これだったっけかなあ」と思ってしまう人も多いということだ。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
インギリー 11/5 21:30	漢字が多い。 まるでプレゼン用の原稿か報告書のようだ。 とても楽しんで読むという気分にはなれません。 コラムというのは、もっと気軽な読みものだと思うのですが。。
あゆむ 11/5 21:57	わたしはそれほど漢字が多いとは思わないのですが。 結構読みやすいと思いますよ。 窓というものを消防の面から考えてみるいいコラムなのではないでしょうか。
わがし 11/5 22:2	ふむふむ。これは1304文字だそうです。 もっと多く感じますねえ。 ゆっくり時間があるときに、じっくり読むタイプの読み物ではないでしょうか。ウェブでたくさん作品が並んでいると、どうしてもほかと比べてしまいますね。 私は読んでいて、へえ、と、へえボタンを何度も押してしまいました。
ノエ 11/6 22:43	『そこから切り取られる空のかけらって、一体どんな形なんだろう。』の１文が浮いちゃったかな？
Asagi 11/7 1:23	文章の表面は堅苦しいけれど、読んでいくと不思議とリズミカルでユーモアに満ちた、気持ちいい文章だと思います。「法律で定められた範囲内で最低限の数をしぶしぶと配置する。」とか、製図台に向かって図面を引く設計者さんの苦悩が想像できてしまって、なんだか笑ってしまいました。 　消防隊のための進入口を用意しなさいとあくまで建前を重視する建築基準法と、どこからだって入らなきゃいけないでしょう人の命がかかってるんだからと主張する消防法のスタンスの違いが面白いです。俺たちのための進入口を用意してよー、って言うのかと思ったら、逆なんですね。 　それから最後にちょっと気になったのは、「これだったっけかなあ」と思ってしまう”人”って、設計者？
ピチョット 11/7 14:34	赤い逆三角形と窓ということで、あくまで壊すことを目的とした窓について設計士さんと消防士さんとの対比は面白いと思いました。設計士さんの「空のかけらを部屋に導く」窓についての意見もきいてみたいと思いました。
Begonian 11/8 17:32	「かけら」の行だけが、どうもスッと入ってこない。 それ以外はとても楽しく読めたのですが……
ken 11/10 20:13	赤い逆三角形は私も疑問でした。ちゃんとした理由があるのですね。行政としての消防署の指導も同感です。
大黒様 11/12 10:5	比較的楽しく読めました。内輪ウケなのかもしれないですが。。。 窓のお題にはちゃんと答えてるし、いいと思う。
コーサク 11/12 14:30	主体の意図の違いから生じる成果物の歪み。 そういう象徴は赤い逆三角形以外にもまちにたくさん潜んでいるのだろうなと思いました。

Azalea 11/13 1:16	なるほど、複数の立場の異なる法律がおかしなことになっているわけですね。 ただ、それぞれに主張は確かに正しくて、安全のためならある意味し方が無いのかなあと読みました。 （特に火災の場合は、近隣に被害が及ぶので勝手なことはできませんし） 難しい話が、コミカルにわかりやすく書かれていて、とてもよかったと思います。
茜 11/13 18:59	消防隊員さんが素敵です。「どこからでも！」って返答がナイス。 事件は現場で起きてるんだ！みたいな勢いでしょうか。読んでいて楽しませてもらいました。 消防の人も建築の人も保険会社も法律を作る人も、それぞれに立場考え方があって、きっとなかなかベストは見つからないものなんでしょうね。 建物の４階ってことは、ある程度高い建物につけるんでしょうか？逆三角形。（そういえば、あたしの出身の町って、一番高い建物が４階建ての小学校だった気がする）
ほろほろ 11/16 2:17	あの赤い三角形、ずっと気になってたんですよ！ 『いざというときのためのものなのかしら・・・。』という、 ひっじょうに大ざっぱなモヤモヤが晴れてスッキリしました。 そして肝心の消防隊員はお構いなしとは、なあ。へ〜〜。 面白かったです。 ひとつ、とっても欲ばりな事をお願いするならば、 詩的な建築を好いている作者さんの割には、 文章に詩的な華やかさが欠けているかな、と感じました。 別に形式的に詩を書けといっているわけではなくて、 幻想的な余韻を文章に織り込むことができないだろうか、と。 法律という現実と、詩的な建築への願望の汽水域を 文章で表現できれば面白いと思うんですよ。 難しい注文だとは思うんですけれど。
クリリン 11/16 16:18	勉強になりました。 少し説明的になっているのでもうちょっと主張的なことが聞きたかったです。
あゆむ 11/18 0:12	コラムらしいコラムのなかでもいいほうなのに意外とコメント数が伸びないのはなぜだろうか。 逆三角形が疑問だったと言う人もちらほら。わたしはそんなのあったかなぁと思っている元高層マンションの住民。 ほろほろさんの言う詩的な華やかさがほしいというのには疑問。そんなのいりますか？この作品はこれで完成されているようにわたしは思いました。 ところで偉大な建築家ってだれのことでしょう。なぜ、名前を出さないのですか。 あと、タイトルはどうかと思う。逆三角形が主題というわけでもないでしょう？
Eisen 11/18 1:49	不思議な後味の作品です。 法や規則を批判しているようでいて、でも否定している訳でもない。日常に埋もれるささやかな条理を、A3に拡大コピーして突きつけられたような感じを受けました。 どんな感じだろう。
鞦韆 11/18 5:13	読み物として純粋に面白いです。着眼点と、話の持って行き方が上手くて。真面目な語り口と、そこに織り込まれるユーモアのバランスがちょうど良くて、読みやすいと感じました。 しかし、最終段落の落としどころが、どうにもすとんと落ちてこない気がしました。思う人も多い、と言われても、そのような経験をしたことのない人の方が、たぶん多いと思うので。そこだけ、あれ？って感じです。 そう言えば、以前どこかの講義室で見た気がします、赤い三角形の内側。
まち 11/18 10:7	現実的な目的がいかに迫ってくるのかを読みやすく表現してくださっているのが印象的です。 建築に関わっていない人にもこれだったら伝わるだろうし、このようなプロセスがもっと明らかになってくれるといいのになぁと思います。
Julio 11/18 12:8	建築基準法が設計者、利用者のいずれに対しても不幸にしているということを再確認出来るコラムでした。そんな矛盾だらけの基準法でも設計者は、少しでも空間を良くしようと頑張ってしまうんですよね。見え難い問題を例を出しながら、展開させていて良かったと思います。

イッパイアッテナ 11/18 20:5	さくさくっと、読める文章だと思いますよ。 消防と建築、普段意識しない、正直知らなかった。という方面から、窓を語っていたので、読んでいて新鮮さを得られました。 実用を追求していった先に美って残るの？という作者の意見もなるほどずしりとした問いかけで心に残りました。 建築家って、こういうこと考えて生きているんだねぇって、変に気どりやな建築学科のやつの話が少しだけ理解できたかもしれません。
いそしぎ 11/19 0:5	大変勉強になりました。建物って誰のためのものなんでしょうね。「どこからでも！」のひとことが好きです。
橘 11/19 1:58	百年記念館もそういう基準を満たしているのに感心した自分(^ ^;) コラムらしいコラムとして楽しく読ませてもらいました。 組織ごとにそれぞれ譲れないものがあって、そこに生じる矛盾。 傍から見てると呆れながらも面白いですが、 板挟みの当人は大きな悩みどころなんですね。
やむ 11/26 2:27	雑学として、とても興味深い話でした。建築というのはいろいろな利害とかを含みこんでいて、見方によって違った側面が見えてきて面白いと思います。 窓というテーマにも直接答えていてよかったと思います （コメント遅くなってすみません）
SAWAA 11/26 5:26	コメントが遅くなってすいません。 常にあの赤いマークってどんな建物にもついてますよね。 私もついつい目がいってしまう1人です。 ファサード命の建物ですらどうどうと点在させているものには多少の残念感すら抱きます。 みんながつい気になってしまっている魅力的な題材を取上げているのですから、 説明だけではなく、そこに自分なりのエピソードが入ったら良かったと思います。 「空のかけら」とか、そこから膨らむ世界がいっぱいある気がします。

ＴＯＰへ

「社会の窓」

合計ポイント：20 Point
作者：paco
作者コメントを読む

「お前、社会の窓が空いてるぞ～。」

幼少期にズボンのチャックが空いていると、決まって学友にこう言われたものである。何故だか知らないが、物心ついた時には「社会の窓=ズボンのチャック」という呼称が世間に定着していた記憶がある。

今ではあまり聞かれなくなったが、実はこの呼称、昔のNHKラジオの番組名称にちなんでいる。この番組の趣旨が、社会の矛盾を暴き出すというものであり、それが転じて「中に大事なものが隠されている」という意味からズボンのチャックの隠語として定着したようだ。

　この「社会の窓」には苦い想い出がある。
小学校四年生の時、同じクラスの幸代ちゃんにほのかな想いを寄せていた私は、クラスの席替えで幸運にも、その娘と通路を挟んで隣になることができた。それまでほとんど話したこともなかったが、席が近くなったことにより、少し距離が縮まった。掃除の時間なども先生に隠れてお喋りをするような仲になったのだが、この娘の無邪気なお節介により事件は起こってしまった。理科の授業中、私のチャックが空いていることに気づいた幸代ちゃんは、こともあろうか先生に向かって、「先生、〇〇クンの社会の窓が空いています。」と叫んでしまったのである。当然、クラス内は大爆笑の渦に巻き込まれた。無邪気さほど残酷なことはない。気まずくなった私は、その後その娘と距離をとるようになってしまい、自然と淡い恋心も色褪せていった。

あれから十数年の歳月が経つ。苦い想い出は、いつしか青臭いネタ話に変わってしまった。しかし、果たして今、知り合いの「社会の窓」が空いている時、面と向かって注意できるかどうかと冷静に考えてみると、少し自信がない。どの程度の知り合いか、自分との上下関係など、様々な条件を鑑みて状況判断を行うと思うが、自分がこそっと耳打ちすればその人が大勢の前で恥をかかなくてすむということも十分あり得る。これは誰にでも日常に起こり得る、非常に悩ましい問題である。

そういう意味では「社会の窓」という呼称もあながち間違いではないかも知れない。ズボンの股間部についた奇妙な窓。その窓が公衆の場で意図せず口を開けた瞬間、目撃者の正義感と遠慮が火花をあげてせめぎ合う。それは文字通り、その人の社会性を試されているようである。

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
あゆむ 11/5 18:16	社会の窓というくだらない言葉をここまでしっかりした文章にできるのはすごいと思います。これぞコラムといった感じ。 ただ、幸代さんはどうしてわざわざ先生に言ったのでしょうね。これは無邪気の一言でかたずけちゃいけない気もします。
わがし 11/5 18:36	面白いし読みやすいと思います。 やっぱり大人になると、あいていても無視、というところが、大人の大人たる所以、なのでしょうかねえ。
橘 11/6 17:18	テーマは「子供→大人」と移り変わるときに、人にへの接し方が「無邪気→正義感・遠慮etc.」 といったように複雑化していく、ってことでしょうか(・・*) 題名から「ギャグかな？」って思ったんですけど、実は中身は結構まじめな話で、 その全体的なギャップが面白かったです(^ ^*) 細かいところを言わせていただくと… ・改行を使用した方が見やすくなるので、意識してみては？ ・コラムの核には影響ないんですけど、「社会の窓」のルーツが少し説明不足な気が(・・;)
きゅうぴー 11/6 18:14	「窓」のお題をいただいたとき、必ず誰かが書くだろうと思っていました。でも嫌みのない文章で納得いく内容でした。ただ正義感と遠慮は、社会性なのか、人間性なのか、その両方のような気がします。
イッパイアッテナ 11/6 21:0	そうですよね!? と、思わず共感を覚えました。話の流れも非常に読みやすく、最後のやや堅苦しい内容をそこまできっちりと読ませてくれる自然さもあって、一気に読みこなすことができました。 さすが、院生さんだなぁ、っとそのレベルの高さに感動です!? （論文調というか、である調だったので、細かいところで読みづらさがあったので、そこを小説などで使われているような表現で読みやすくしてもらえたら、っていうことをちょっと思いました。）
ピチョット 11/7 11:32	「目撃者の正義感と遠慮が火花をあげてせめぎ合う。それは文字通り、その人の社会性を試されているようである。」そんなに大げさにかんがえなくても・・・って気がしました。 （笑）
Begonian 11/9 0:44	やられた。上手すぎでしょ、これ。
がらがらどん 11/9 14:26	読みやすくて、面白かったです。奇妙な窓、確かにこんな窓は他にないですね。
バートルビー 11/9 15:48	教えてあげることが正義感のように読めますが、 社会化が進行すればするほど、「開いてますよ」って 言えなくなるよ、という意味なら、 ちょっと違うのではないかと思います。 社会の窓の由来は初めて知りました。

茜 11/11 14:24	終わりから二段目の大事な部分が、読んでいてちょっとつまづいてしまいました。なんとなく、言わんとするところがよく分からなくなってしまった、というか。最後の段落を読んで、納得はできたのですが。 子供の頃の話から、いきなり今冷静な話に戻ったのが、ちょっと急だったのかも知れません。もう少し、子供のころの延長線で居間について考えてる、って感じだとよいのかも。 「正義感と遠慮が火花を上げてせめぎ合う」と大げさに言ってしまったのですから、実際にせめぎ合わせてみてはいかがでしょう？ 前の段落で、「どの程度の知り合いか」「上下関係」だけじゃなくて、もっとごちゃごちゃ考えた後に、最後の段落だったら、確かに火花上げてせめぎ合ってるって感じも増したんじゃないでしょうか？ いわゆるコラムらしいコラムで、楽しませていただきました。
チャオズ 11/13 23:5	なるほど。鋭い視点ですね。目から鱗です。
ほろほろ 11/16 3:23	きれいな結びで大逆転、ですねー。素晴らしい。 野暮な指摘ですが、 社会の窓は「空く」でもいいと思いますが、 チャックは「開く」ものですよね。
King　Power 11/16 14:14	男だらけの東工大では、共感できる人が多そうな話題ですね。 ただ、「意味ありげな、深そうな事」を言おうとしている感じがしすぎる気が。。。
クリリン 11/16 16:22	ぼくこのコラム見ながら社会の窓開いてました。
Azalea 11/17 22:40	面白いです。 導入部から最後の結論まで流れの組み立てもよく 最後の結論がしっかりとまとまっていて読ませる内容になっている すごく完成度が高いと思いました。 できるなら、社会の窓の由来をもう少しだけ掘り下げるか この部分をなくして最後の部分に少し厚みを持たせるかすると もっとよくなったと思います （が、これ以上よくなるのかなあと若干不安気味です。）
あゆむ 11/17 22:43	＞あかねさん というかの前後の、と。逆ですよね。 と、他の人のコメントの誤字を指摘してみる。 なんで幸代さんに違和感感じたのがわたしだけなのだろう。わざわざ先生に言うのかぁ？実際に言ったんだからしょうがないじゃんと言われたら何も言い返せませんが。
RIRI 11/18 1:2	結論への過程もセンスも素晴らしいと思いました。 下ネタ(？)　→　少年時代の思い出　→　「社会の」とは何か？ という一連の流れが先読みできない展開でかなり上手に成されていたかと。
Julio 11/18 10:50	私も最初同じタイトルを考えましたが挫折しました。私では社会の窓から内容を膨らませることが出来なかっただけに、幼少の切ない経験から社会における人間関係への展開は良かったです。
鞦韆 11/18 16:49	社会の窓ってそういう由来の言葉だったんですか、へー。 下らない話を真剣に書く、というのは良いですよね。下らない話をふざけて書くと本当に下らないものになりますが、真剣に書けば面白い話になる。全体的に纏まりのある良い作品だったと思います。読みやすいですしね。
レロニラ 11/18 21:45	今回のお題に対して最もベタなテーマでしたが、それを社会性の話に持っていく技術とセンスに圧巻です。 特に最後の段落のまとめ方がうまいと思いました。 ですが、社会性の話がもう少し掘り下げて書かれていても良いのかなと思いました。 体験談を織り交ぜて語るというスタンスを取りたいんだろうけど、体験談がメインになっちゃってる気もしました。
いそしぎ 11/19 0:9	直球なテーマでしたが、非常にバランスよくエピソードと主張が織り込まれていると思います。

す氏 11/19 0:17	社会の窓を話題に、幼少の体験と現在の自分自身とを織り交ぜ最後もうまくまとめていると思います。各まとまりが、くどくなくそれでいて共感を覚えさせる十分な内容があり、面白く読ませていただきました。 私は、遠慮に負けてしまいそうです…。 正義感、持ちたいですね。
Eisen 11/19 0:36	真面目になにを語っているのかと思いきや。いや、本当に真面目なのかしらむ。いやいや、ネタですよね？いやいやいや。 　やたらにシュール（日本的な意味）で素敵です。
貧保 耐三 11/19 9:11	窓と聞いて、「社会の窓」というワードは思いつきませんでした。社会性を試すもの、という風に捉えたことがなかったので、なるほどな感じです。（遅刻コメント失敬）
桜子 11/26 1:44	誰もが思っている、素朴な疑問「社会の窓」の語源を導入部に用いて、気を引かせたところで、自分の社会の窓におけるエピソードがゆらりと進んでいくところに、物語に引き込まれる要素を感じた。最後に二つの世界を一つにまとめている３文がとてもよかったです。
やむ 11/26 2:32	短い文章の中に、小学生の時の思い出から、大人の人間関係まで詰め込んであって、しかもさらりと読みやすくまとめてあると感じました。 （コメント遅くなってすみません）

ＴＯＰへ

Last Soldier

合計ポイント：16 Point
作者：RIRI
作者コメントを読む

夢を語るときの山崎の横顔は眩しかった。

「俺はいつか水泳でオリンピックに出場して、金メダルを獲ってみせる！」

子供のような純粋な眼で、子供のように単純な言葉を連ねるだけの、それでも本当に羨ましかった宣言。

しかし今、面会謝絶となった扉の向こうで、彼はその目を閉じていた。

山田が学園に戻ると、陸上部エースの山下が意識不明で運び出されていた。

「くそっ！　全滅か！！」

生徒会長の山野は悔しさのあまりグラウンドに箒を叩きつけた。

「会長！　俺に行かせてください！」

友の仇討ち。山田はそれだけを望んでこの場所へやってきたのだ。

「山田君か……。今は藁にも縋りたい気持ちだが、帰宅部の君にはその藁ですら荷が重すぎる。残念ながらその提案は受け付けられない」

「山崎は、今も意識が戻りません。たとえ戻ったとしても、あいつはもう……」

レントゲン写真で見せられた山崎の白い肺は、一介の高校生でも理解できるくらいボロボロだった。
山崎はもう二度と、水泳ができないのだ。

「……そうか。友を想う気持ちか。だが失敗すれば君も同じ末路を辿るんだぞ。それでもいいのか？」

「はい！」

一縷の希望を託されて、山田は旧校舎へと足を踏み入れた。

「ちなみに山田君、期末の素潜りは何点だった？」

「７１点です」

「そうか。１分あるのならそれで構わない」

案内されたのは４階に位置する薄暗い男子便所。

「話は至って単純。中に入って窓を開けて換気をするだけだ」

この学園には、いつからか誰からも見向きもされなくなったトイレが存在した。そしてそのトイレは、数十年の時を経て魔窟と化していた。悪臭は一呼吸で意識を瞬断し肺を腐らせ、カビは触れる全てを変色させ破壊し尽くした。体長がマイクロメートルで記録される細菌達は群れを成してあらゆる獲物を付け狙い、ゴキブリも鼠も、そして人間さえも、この空間に進入することは出来なかった。

「報告によれば、室内突入後４０秒程で視力聴力ともに使えなくなる。ゴーグルや耳当ては破損した際に危険だから着用しないほうが良い。１分程で肌が変色し、触覚を失う。窓を開けられなかった場合の生還は想定しないようにしてくれ。ほとんどの者は扉の前で力尽きている」

一度は焼却案も検討されたが、旧校舎の思い出を守りたいと願った多くの生徒の支持もあって、今年の大掃除になって初めて清掃のための精鋭部隊が結成された。しかし部隊は壊滅。山崎と山下は運良く救助された数少ない戦士だったのだ。

（そして俺は、精鋭でも何でもない、ただの帰宅部だが……）

親友の人生を奪ったこの魔窟を、山田は許すことができなかった。

「突入！！」

ドアを開け、彼は魔界へと駆けおりる。

「グッドラック！　山田君！！」

その声援を合図に、扉は静かに閉ざされた。

窓までの道のりは険しかった。帰還を許されなかった戦士達が、そこかしこに折り重なっていた。脇の一人はすでに緑色の固形物と化し、壁には血痕も発見できた。ダイイングメッセージだったのだろう。半分以上はカビに侵食され、解読は不可能だった。

山田は窓に手をかけた。しかし窓は動かなかった。数十年分の錆のせいだった。力を込めるが開かない。急に視界が暗くなる。腕が軋む。何も聞こえなくなる。酸素が欲しくなるが、ここに人間の求める酸素は無い。しかし諦めない。振り返らない。最後まで。気合を入れる。全力で。やがてソレはけたたましい音を伴って削れ落ちる。もはや山田の意識は消えかけていた。今落ちたのはガラスなのか、それとも別の塊なのか。頬を撫でる一条の風を感じながら、戦士は穏やかな眠りについた。

作品印刷　　コメント印刷
作品に対するコメントを下さい。
コメント登録

投稿者	コメント
kirie 11/5 18:25	面白いですね。最初の段落でてっきり青春ものかと思い込んでしまい、いい意味で騙されました。 所々、設定に無理があるのでは？と感じましたが、こういう作品は気にしたら負けだと思っているので、ラストまで突き抜けた点には拍手を送りたいです。

わがし 11/5 18:31	物語は好きだ！！！ 山崎と山田がごっちゃになる私は、読み手として力がなさすぎだ！！！
あゆむ 11/5 21:50	すごいですね。不思議な作品だぁ。 笑うべきのような怖い作品のような。 会長はたたかわないタイプなんですかね。
インギリー 11/5 21:53	わがしさんのおっしゃること、もっともです。 私も、何度も読み直してやっと把握できたくらい。 山のつく名前が多いのは、何か意味があるんでしょうね。
わがし 11/5 21:59	＞インギリーさん ＞山のつく名前が多いのは、何か意味が この作者さんのご本名が山口さんだ、とかっていうことでしょうかねえ（すみませ ん・・・） 作者コメントを待ちましょうか。
あゆむ 11/5 22:34	＞山のつく名前が多いのは、何か意味が 戦士たちの亡骸の山とかだったらいやだな。 わがしさんの本名に山がつく説はちょっとまてですね。
ノエ 11/5 23:58	読み手が登場人物を整理しやすいように配慮していただけるともう少し楽しめたかも。。
ピチョット 11/8 12:42	この手の文章は苦手なのですが、印刷してよみました。 窓は何を意味していたのか？う～ん、ごめんなさい わかりません。
Begonian 11/8 22:30	えぇぇぇーー！？ 読んでる間に蚊帳の外感をこんなにも感じた作品は久しぶりです。 はぁ……脱帽です。色々と。
イッパイアッテナ 11/8 23:51	えっ、えっ、ぼく、山〇なんですけど。 突入しなきゃいけませんか？ 僕なら、入り口から窓ガラスを狙撃します。下に居る人を避けておいてくださいね。 いやぁ、このテンポ大好き。
紫雲 11/10 22:29	のちのバトル・ロワイアル2である
Bloomoon 11/10 23:15	生きて帰ってきてほしかった！！やまだぁぁぁぁぁ！ （この話の後、目覚めるのかもしれないが、そのシーンが読みたかった、好奇心で。）
茜 11/15 0:29	うあああああっ！青春ものだと思ったのに！ ・・・・・最初にちょっと入って行きかねて、なにこれ？って感じだったのですが、読み返すと結構面白いですね。たまにはこういう作品も混ざってていいんじゃないかと思います。 うん、楽しかった。 あ、ちなみにあたし山口県出身です。（だからなんだ）
ひぃ 11/17 21:26	読者を引き込んでくれるようなテンポがいい。そういう意味で読みやすい作品だと思う。 ただ、最後の「錆」に現実に引き戻される気がするのは気のせい？
あゆむ 11/17 21:34	やっぱりこの作品はコメディということでいいのですよね。 そうじゃないとしたら細かいとこでいろいろ気になる。 おもしろいとは思うけど、好きではないといったところ。
Azalea 11/17 23:26	ばかばかしさに乾杯です。 何をしているんだろう・・・？と読者をひきつけてからの展開が 本当にうまいなあと思います。 焼却案の却下の理由が面白いですね。 外部への飛散とか何とか言って完全封鎖かと思うのですが（あほ ＞紫雲さん さらに受けました。 これが最後の一行には言っていたら完璧だったと思います（笑

tkm 11/18 13:23	おもしろいですね。物語を途中から始めることで強引にこの世界の設定を認めさせて、こちらが把握しきる頃には物語を終えてしまう。ただ内容として強引な部分はなく、読み終えた時に、それこそ風が吹き抜けるような感覚を得ることができたので、それだけ引き込まれていたのだろうなと感心しました。
鞦韆 11/18 13:45	私なら、窓の外側遠距離から窓を狙撃します。扉を開けるのも危険みたいですし。窓を開けるのが目的なら、窓はどこか外側に繋がってはいるはずなので。 バカなことを真剣に書く、というギャグの技法は使い古されたものですが、それでもまあ、笑えるのでいいと思います。 私も、登場人物の名前が山〇、という形式に統一されている理由は気にかかりました。その一点においてのみ、ちょっと読み辛かったので。
lemontit 11/18 22:58	とにかく面白い！！ 表現も多種多様で、うまい.. 自分もこんな面白い文章書けたら良いなぁ。
いそしぎ 11/19 0:35	私も山田の無事を信じます。さらに急に我が家のトイレの汚れが気になってしまいます。文章の強引さが好きです。
suburbanian 11/19 4:27	あぁ、すごい！ 本当におもしろい！ 昆虫の擬人化、ガリバー王国。 巨大生物の陰謀のようなこの状況。 私はこんな空想（妄想）をもちながら、一気に読みました。 続編待ってます！
イシルドゥア 11/19 23:44	全体的な熱いノリが良かったのはもちろんとして、特に最後の段落が上手かったと思います。一文一文が長くなって短くなってまた長くなっていく。このテンポがラストの盛り上げに一役買ってるんじゃないかなあと。 それにしても、まさか山〇の理由がそんなところにあっただなんて！ 多少読みづらいって問題はあったのかもしれないけど、その目の付け所は面白いと思います。酷い作者だなんて自虐する必要ないですよ！　立派なエンターテイナーです。
イッパイアッテナ 11/21 21:29	ちょ、山の由来は、死体が山積みからですか..... 別に、山がつく名前は関係ないわけですかぁ へぇ、ふーーん、ほぉ、そしてしょぼん。 (わかる人は、笑ってください。)
mu 11/23 0:56	なんだこれは。という作品でした。 最初の読み出しから、予測する物語と全く違う方向に進む展開にびっくりしました。 こういうのもアリかもしれない。目からうろこです。

ＴＯＰへ

イギリスの廃墟　日本の廃墟

合計ポイント：13 Point
作者：紫雲
作者コメントを読む

しばらく前にイギリスに行ったことがある。ある時高速バスに乗っていて、景色をぼんやりと眺めていた。場所はどこだか覚えていないが、都市部を抜けて郊外っぽくなってきたあたりで5階建てくらいのビルが突然立っていた。その建物は結構しっかりしているものの、大部分の窓が割れていて、屋内には何かの残骸らしいものしかなく、間違いなく廃墟だった。

さらにロンドンの中心部にも、建物はしっかりしているのに窓が割れている廃墟がいくつかあった。それらは外周を鉄板で囲まれていて中には入れないが、取り壊す様子もなかった。とはいえいつまでも廃墟にしていても仕方がないので、おそらくのちのちリニューアルして別の用途で使われるのだろう。事実、古い建物の上物だけ交換したような建物がたくさんある。

ふと、窓が割れている建物（というか廃墟）は日本国内ではあまり見ないな、と思った。この近くでも目黒駅の隣で旧バス営業所が廃墟になっている。しかしそこの窓ガラスは全然割れていなかった。これは勝手な想像だが、窓が割れていない廃墟はまだ廃墟としては新しいものだろう。それ以前に廃墟はほとんど本でしか見たことがない。

日本では建物がいらなくなったらあっさりと破壊して駐車場にするなり、新しいビルを建ててしまう。しばらく前に廃墟がブームになったが、このブームの背景として廃墟があまり存在していないということがあると思う。廃墟はめったになく、しかも明日にでも取り壊されるかもしれないというあたりにノスタルジーだか何だかを感じるのかもしれない。
廃墟が割と遍在しているイギリスでは廃墟マニアは存在しているのだろうか。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
geogia 11/5 21:49	気負うことなく、さらりと読むことができました。 あと、読んだ後、推論をめぐらす事ができて2度おいしい。
わがし 11/5 21:55	確かに日本に廃墟はないですねえ。 簡潔にまとまっていると思います。読みやすいです。

ほろほろ 11/6 1:16	窓というテーマで廃墟の窓の割れ方に着想を持っていった事、素晴らしいと思います。 イギリスは確かに廃墟にすらむしろ歴史を感じますし、日本にちょっと訪れた廃墟ブームも、中世チックな古さへのノスタルジーな気がします。 良いところに目をつけましたねえ！ しかしながら、せっかくここの点に着眼できたのだから、 もっと自身の視点を掘り下げて、余人の追随を許さない所まで 持っていってほしかったですねえ。 たとえば ・１行目「場所はどこだか覚えていないが」 　→ぜひ詳細を思い出してください！ 　ここにきっと『廃墟』を高々１ショットのネタから高める 　素材が埋まっていると思うんですよ。 ・日本の廃墟ブームへの言及。 　→ぜひ、廃墟ブームに乗っかった人の立場を想定して、 　廃墟のどこが良いのかをもう少し掘り下げてみてください！　　「ノスタルジーだか何だか」の『何だか』の部分に 　しっくりくるピースがはまると良いと思います。 ・最後。 　現在の結びだと結論の大部分を読者に放り投げてしまった印象が強いです。 　上述した２点をしっかり書く（素材を集める）と、 　自ずから作者さんのカラーをもっと出した結びに行きつくと思うんですよね。 この辺りをより書き込むと、自分の経験をエレガントに織り交ぜたコラムとして一級品のものができると思いました。
paco 11/6 20:40	他の作品に比べて、より視覚的に訴えかけてきます。 読者の頭に情景を浮かばせて、 さらに読み終わった後で何か考えさせた時点で勝ちですね
ノエ 11/6 23:49	ほろほろさんと同じく、わたしも、１行目「場所はどこだか覚えていないが」はうそでもいいから（？）具体的な場所の記述が欲しいと思いました。 対比で用いている日本の廃墟は具体的な場所の記述があるので、あわせたほうがいいと思います。。
ピチョット 11/7 13:31	廃墟の窓の発想が面白いとおもいました。 もう少し読み手を意識してくれるといいと思います。 ロンドンから目黒駅の隣とかずいぶんとぶなぁ・・・。
スマイリー 11/7 22:54	アメリカのわれ窓理論を持ち出すまでもなく、日本の廃墟もこれからの人口減少時代にどう対応するか重要な課題ですね。ドイツのように都市の縮小政策を取り入れる必要があると思います。イギリスの割れた窓の廃墟の映像はしっかりと心に刻んでおく事が大事ですね。
ken 11/8 13:29	イギリスの廃墟が目に見えます。窓ばかりでなく、イギリスはレンガ造りだったり石造りだったりして、より廃墟らしいのでしょう。
Begonian 11/8 23:7	こ、コメントしづらい……。 確かにロンドンの廃墟などつい想像してしまいましたが、それもすぐに流れてしまいましたし、最後も最後で、えーいきなりそんなこと言われてもー、って感じでした。 もっと深いところまで展開して欲しかったです。
がらがらどん 11/10 12:20	日本でも地方に行くとひどい廃墟がたくさんあると思います。最後の行はその前の行と話が合っていない気がしますが、筆者も廃墟マニアのうちの１人である(あった)ということを匂わせているのでしょうか。
sum1 11/11 17:35	＞日本でも地方に行くとひどい廃墟がたくさんあると思います。 確かに東京と地方では随分事情が違いそうですね。「日本国内」という表現は果たして地方も含めてのことだったのでしょうか？ あと、割と中立的な「希少性」等ではなく、あえて「ノスタルジー」という表現を用いているところに、何かただならぬ思い入れを感じます（やはり、がらがらどん様の仰せの通り、筆者＝廃墟マニアなんでしょうか？？）。 本当に、読んだ後から色々考えさせられますね・・・

茜 11/14 0:5	「明日にでも取り壊されるかも知れない」ってノスタルジーなんでしょうか？懐古って言葉とは何かが違う気がしたのはあたしだけかしら。 「これは勝手な想像だが～本でしか見たことがない」のくだりであったり、かもしれない、とか、だろう、ばかりが連発されていて、まるであたしの実験のレポートのような。（ぇ） もうちょっと調べてみたり、話をふくらませたりできると、よかったでしょうね。（と、自分にも言い聞かせてみる）
pooh 11/14 23:22	日本でほとんど廃墟を見たことがありませんね。 廃墟といっても空き地とかしかイメージできないですが、そこは廃墟の定義はどうなっているでしょう。
go19 11/16 23:7	読んでいて、筆者が眺めている景色と、バスに乗って外を眺めている筆者の姿、両方の情景が浮かんできました。自分がこういう文章を書くためには、どう書くべきか、また読み返して考えてみます。 「場所はどこだか覚えていないが」というの記述によって、そのときのバスに乗っている筆者の方が、「景色をぼんやりと眺めていた」ことがより情景として鮮やかになっている気もします。
鞦韆 11/18 5:25	廃墟をイメージしようとして、取り壊されている途中のビルしか頭に思い浮かばなかった私は、間違いなく東京人だな、と思いました。 イメージを喚起するタイプの文章であるだけに、そのイメージが茫洋としたものになってしまった私にとっては、なんだか落ち着かない感じの読後感になってしまいました。すんなりとは読めるのですが、話が頭に入ってこないというか。
あゆむ 11/18 15:34	あかねさんのコメントを見て笑ってしまった。 それはいいとして、この作品って結構好評なんですね。わたしはたしかに読みやすいけど、結局何がいいたかったのと思ってしまった。 この近くってどこよと言いたくなる。まぁもちろん大岡山なんだろうけど。

ＴＯＰへ

大きな窓

合計ポイント：13 Point
作者：がらがらどん
作者コメントを読む

　建築会社に勤めているT氏のところへ、A氏の家に大きな窓を作るという工事の仕事が回ってきた。さっそくT氏はA宅に行くことにした。

「本当にここに大きな窓を作るんですか？」
「ああ、でっかいのを頼むよ」
「ここに窓を作っても、これといっていいことはありませんよ」
「困るねぇ、君。私は客なんだよ。・・・というのも意地悪だから教えてあげよう。風水だよ」
「風水？」
「そのとおり、私は最近風水にはまっているのだ。よかったら君も読みたまえ」
なるほど、その本には大きな窓を作ることが金運アップにつながると書いてある。T氏は、世の中には変わった人がいるものだなと思いながらも、窓の工事をすることにした。

　かくして、A宅に大きな窓が完成し、数ヶ月が経った。そんなある日、T氏がぼんやりニュースを見ていると、A氏の家が映し出された。
「・・・の夕方、Aさん宅に侵入しているところを、窃盗容疑で逮捕されました。P容疑者は、風水の本の著者として知られていますが、これまでにも数件、大きな窓から侵入するという手口を使って犯行を行っていたと供述しており・・・」

作品印刷　　コメント印刷
作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
わがし 11/5 13:16	面白い。短くて読みやすい。
インギリー 11/5 17:10	名前がアルファベットだと、特に何人も出てくると読みにくいと思います。 物語は、よくあるような内容だし。 きついこと書いてしまってごめんなさい。 最後の落ちが、いまいちというか、落ちてないと思います。 とっかかりの「建築会社に勤めている…」というのも入っていきにくい。

あゆむ 11/5 17:23	古典的なオチをつけましたね。 アイデアはいいと思うのですが、オチが早すぎる気がします。 舞台設定したあとすぐにオチではあまりうけないのではと思います。
茜 11/5 22:39	古典的なショートショートとしては成功しているのでは？と思いました。 最後に「あー」って思ってしまったあたしの負けかしら。 でも、確かに名前とか人物関係はちょっとこんがらがりました。
ノエ 11/6 23:28	施主と建築会社の二人の関係を考えると会話の調子はもう少し違うんじゃないかぁ？ せいぜい大学の先輩後輩の関係程度に感じられる。。
ピチョット 11/8 11:39	ベリーショートショートのような気がします。 もう少しひねりを加えてもらいたかったぁ・・
Begonian 11/8 16:58	ＴＡＰ？ ……タップ？ いやいや。 まぁ、それはさておき。 ちょっと短すぎ、なのかな。加速しきる前にブレーキかかったというか。 他の方もおっしゃってるように、アルファベットの名前とか設定の甘さとかがその原因でしょうね。
輝 11/8 17:28	創作ものを書き慣れていらっしゃるのだなあ、と、 その方面がからきしダメなわたしは、まず敬意を表します。 ありそうな話といえばそうなのかもしれませんが、この短さは買い！このテので冗長なのは退屈に感じます。 ノエさんのコメントを読んで、 口調を変えることでT氏のキャラクターを変えてみるのも面白いかなと思いました。 ちょっと風変わりな顧客に目しろくろ、大汗かきかき懸命に対応するような生真面目キャラとか。
紫雲 11/8 19:12	せっかく美味しい死亡フラグなんですから、もうちょっともったいぶって引き伸ばしても良かったと思います
鞦韆 11/9 1:31	これだけ短い作品の中でアルファベット名がみっつ、は確かにちょっと読み辛いかも知れません。 そしてノエさんの指摘通り、会話の雰囲気は、彼らの関係には合っていないような気もします。 しかし、これだけの短さの中でしっかりとああなるほど、と思わせる落ちを持ってこられるのは素直に凄いと思います。 ところで。仮に日本人の名前として考えると、『P』容疑者って相当珍しい名前ですよね。名前として付けられたアルファベットの選択には何か意味があるのでしょうか。
ノエ 11/9 12:13	アルファベットの名前が話題になっているので、私なりのコメント。 これだけ短い文章の中で３人の登場人物を入れるということはテクニックが必要ですが、その点、混同しやすいアルファベットの組み合わせ（Ａ，Ｂ，ＣとかM，Ｎとか）を使用せず、Ｔ，Ａ，Ｐという組み合わせを使ったところはなかなかのものだと思いました。 私の場合は、あえてＰ容疑者は『容疑者』で済ませて、ＴとＡは、「　」の中の言葉にキャラクターをつけるか、Ｔ→書き手、Ａ→客、としてアルファベットを一切使わないかってとこに落ち着かせると思います。。 皆さんだったら、どんな解決方法に落ち着くのでしょうか？
ポン 11/9 15:36	これが１分程のコントの台本だとして、映像にしたら面白いと思います。
バートルビー 11/9 15:51	なんで風水本の著者はAさんが自分の本に影響されて大きな窓を設置したことが分かったのでしょうか？
ハイパー・ワイハー 11/12 11:17	いや、純粋におもしろいと思いますよ？ たしかに、アルファベットではなくて、田中とか佐藤とかにしたほうがいいかもしれませんね？

Eisen 11/14 1:42	アルファベットを仮名とすることの利点の一つは、人間らしさが無くなることです。誰とは言わないが、なにがしかの物語。そう設定できる。 　例えば、かの有名な夏目漱石の「こころ」に登場するk氏。あれは敢えてアルファベットで呼ぶことで、彼から人間性を剥奪しているのだと思っています。 　ただそれは、ある程度の長さを持った文章の話。コラムのような短文だと、あまり有効には働かないでしょう。むしろ他の方々がおっしゃられているような、欠点ばかりが目立ってくるようです。
茜 11/15 19:8	＞名前 「容疑者」は「容疑者」のまま、「Ｔ氏」は「ある男」とか「男」とかにして、「Ａ氏」は……これはこのままでのこしてもいいかな？ 何も名前をつけなくても、役柄だけであらわしちゃってもいいかな、と思ったのですが、どうでしょう？ 下手に苗字とかつけちゃうと、やっぱりこんがらがったり、変なイメージがついたりしますよね。アルファベットは、最善でなくとも悪くはない選択だったのかと。 ちなみにあたしは、ＴとＰがごっちゃになりました。 （あと並べたらＡＴＰになるなあ、とかどーでもいいことを考えたり）
はつね 11/15 22:46	オチがはっきりとしていて面白いと思います。 >名前が・・・ あえてぼかすことでキャラクター付けをしないというメリットもあると思います。明治～昭和初期の作品のいくつかにはそういった作品も多くあったと思います。 個人的にはA氏はともかくT氏には何か元ネタがあるのではないかと思いますが・・・。
King　Power 11/16 14:12	読みやすく、内容も理解しやすいと思います。 ただ、ありがち、な感は否めません。 創作センスがありそうな匂いを感じるので、チャレンジングな作品を楽しみにしています。
あゆむ 11/17 21:27	わたしは人物がアルファベットなのはそれほど気になりませんでした。こんだけさっと終わる文章だとそんなことまできにしないものじゃないかなぁと思った。 Ｐがイニシャルの人、たしかに珍しい。わたしの知り合いにはいないなぁ。 ＞バートルビーさん ニュースで報道されるくらい知られているなら、全国的に売られているということでしょう。そうだったら、それを取り入れている家がちらほらあってもいいでしょう。
Azalea 11/17 22:52	書き方が星新一 風ってところでしょうか。（アルファベットなのも） 落ちまでなにが書かれているのかわからず そして、読んだ瞬間にわかるという とてもいい形だと思いました。
イッパイアッテナ 11/18 20:29	おぃ、Aさん!? その落ちは予想できなかった。(よくある落ちなのにね。)
ノエ 11/21 11:49	作者のコメントを読んで 落ちが読んでいる途中に悟られてしまうとつまらない作品になってしまいますけど、よくできた小話のように悟られる前にすとんと落とすというスピードに仕上がっていますね。 個人的には、書いているときに、悟られないような工夫・伏線をはったりとか考えるのが好きですが。。。
紫雲 11/21 12:26	死亡フラグとは、映画などでこのあと良からぬことが起きることが予想される登場人物の行動です。 例をあげると、映画で「ここは俺に任せて先に行け！」と発言した人はたいてい死にますよね。これが典型的な死亡フラグです。 何が言いたかったのかといいますと、「大きな窓を作ることが金運アップにつながる」という記述は、このあとA氏が大損しそうだと薄々感じさせるのだから、もうちょっと話を引っ張ったほうが楽しんで読めたのではないかということです。
やむ 11/26 2:35	うまいですね。 この短さがミソだと思います。オチのニュースの淡々とした語り口も、説明的な文章が不自然にならなくてとてもよいと思います。 （コメント遅くなってすみません）

ＴＯＰへ

窓際族

合計ポイント：12 Point
作者：シマエナガ
作者コメントを読む

　職場では、窓を背にして座っている。世に言う「窓際族」ではないつもりでいるのだが、かつて部屋の中ほどにいた頃に比べれば、手を動かす量は随分と減った。オレは現役だ！と思っているのは本人だけで、とっくに「真性・窓際族」なのかも知れない。
　窓際族の利点は、パソコンの画面が他の人から見えないことだ。仕事をしているふりをして、インターネットを見ていても分からない。手が空くと、ついつい趣味のサイトなど見てしまう。公序良俗に反するサイトは規制がかかっていて見られないが、そんなものはなくてもネットの世界は実に面白い、などと調子に乗っていると１時間くらいは簡単に過ぎる。ネットは、実は窓際族をあやすためにあるのではないだろうか。
　こうした実態は側から分からないし、また誰も気にしてはいない。何をしていても組織に大した影響がない、というのが窓際族の窓際族たる所以であり、だからこそ邪魔にならない窓の前に座らせておけばよい、ということなのだろう。
　さて、窓際のデメリットは暑さ寒さに苦しめられることだ。猛暑の日には、背中からじわじわと熱気が押し寄せてきて、昼下がりなどブラインドを下ろしても座っているのもつらいほどになる。
　一方、寒い日は朝から冷えっぱなし、上着を着ないととてもやっていられないし、手もかじかむ。キーボード打ちには指出しの手袋が必須アイテムである。夕刻ともなれば、背後に迫る夜の厳しい冷気にそぞろあわれを催し、いそいそと家路につくことになる。
　どうやら窓際は、おじさんたちに肉体的・精神的プレッシャーをかけて早期帰宅を促進し、ついでに退職も早める役割も担っているような気がしてならないのだ。

　真後ろの窓の外では大規模な再開発ビルの建設中である。少しずつ少しずつ背が高くなっていく巨大なクレーンが４本、せっせと資材を運び上げている。
　ある時、クレーンの運転席－これも相当に高いところにある－の上に風速計が付いていることに気づいた。確かにあれだけ高くなると、風の影響を受けるに違いない。でも下手をすればオレの頭の上に倒れてくるのではないか？！と少し怖くなったりもする。
　ビルが完成すると今は見えている公園の緑も見えなくなる、でも完成するまでこの席にいるかどうか分からないし、などととりとめのないことを考えながら、相変わらずちょっと仕事をしてはネットサーフィンをし、またちょっと仕事をしてはコラムを書く今日この頃である。

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
わがし 11/5 18:9	物語チック（？）に書き進めても楽しかったのでは？　哀愁ただよわせながら・・・。
unknown 11/6 15:15	「真性・窓際族」と書くとなんだかカッコよい感じがしますね。 前半の最後の文の、「～ような気がしてならないのだ。」という表現にちょっと違和感を感じました。 なんだか深刻な問題について述べているような印象を受けました。この後さらにこの話が続きそうな感じもしました。 「どうやら」で始まっていることもあり、「ようだ」で終わる方がしっくり来るような気がします。
きゅうぴー 11/6 17:47	状況が手に取るようにみえ、安心して読める文章だと思います。ただ一言、窓に向かって座れば、窓際は最も仕事がはかどる場所だと思うのですが。
みつきんぐ 11/6 17:57	窓際族と聞くと、中高年あたりの人だと思いますが、何だか若々しさにあふれているように感じました。 おじさんの秘めたるエネルギーでしょうか？ 物語が少し中途半端な感じではありますが、捉え方がおもしろいと思いました。
paco 11/6 20:59	クレーン車の上の風速計のくだりの所は細かい発見があり、リアルでした。 窓際"族"というくらいだから、 他の窓際人の方々との関係性も描いてあると一層いいと思います。
ピチョット 11/7 15:9	なんとなく中年の悲哀を感じる作品でした。 窓から「窓際族」の実態を題材にされている のもおもしろいと感じました。 窓際族のメリット・デメリットをあげられ、同級生の 友達からの手紙のように読んでしまいました。
橘 11/8 17:29	窓際を部屋の後方席にすれば、大学も同じだなぁと思った橘です^ ^; （ちなみに自分も後方族ww） オフィスの中の日常ですね(・・*) ホントはいけないことなんだと思いますけど、ゆったりとした日常の描写が好きです(^ ^*) 教室の場合、どこにどんな人が座るのか、だいたい決まっているそうです。 それをオフィスに移し替えて、 「中程の席の同僚は、もう２時間以上画面とにらめっこしている」 「出入口付近の住民はトイレに立つ回数がなんとなく多い」 （実際は全然わからないですけど…） なんてことを窓際から分析していたら、より面白くなると思いました^^
めふめと２世 11/9 17:4	再開発ビルという新しさ・力強さを象徴するものが窓際族のおじさんの生態と対比的に織り込まれているところがいいな～と思いました。
かちかち 11/11 0:36	偉くならないと窓際には座れないですよね。
Begonian 11/13 1:15	こういうくだらない考察、好物です。 個人的にはもっとだらだらと続けてもらっても良かったのですが、たぶんこれぐらいの長さが一般的には正解だと思います。
354e14thave 11/14 0:38	のんびりしてるサラリーマンはいいな、という願望で、本当は正反対の、いつもプレッシャーがかかってて忙しい方なのではないか、と勝手に推測しました。当たってますか？
pooh 11/14 23:34	猛暑の日に、窓際に座るのはつらいです。 同感同感！ けど、窓際の席が人気ですね。

茜 11/15 0:36	「新生・窓際族」なんて言ったら、もっとイメージ変わるかも？ いや、それは置いといて。 最初の数行にリアリティを感じて、そのあとはどこか距離を置いたというか、窓際族らしさがないな？という感じがしました。なんかこうもうちょっと窓際族っぽさ？みたいなのがあふれていると面白かったと思います。 わがしさんの言うように、文章に哀愁漂わせるとか・・・・・。
星イッテツ 11/16 21:29	世の中にはもちろんいろんな人がいるけど、一つの会社の中にもいろんな人がいて、いろんなことを考えながら仕事の時間をすごしてるんですね。徒然草のようです。
Azalea 11/17 22:27	窓際族の人ってこんなに明るくすごしてるのでしょうか。 ちょっと違和感がありました。 いつ肩を叩かれるかわからず、子供は、妻は……と びくびくおびえながら、それでも必死にすごしていくというのが 彼らのイメージだったので・・・。 妙に表現がリアルなところ、本物はこうなのかなとも思いました
ほろほろ 11/18 2:5	僕は、窓際族さんの心情が見事に描けているなあと思いました。 明るさというよりは、諦観ですよね。 いや～、沁みるわ～。
あゆむ 11/18 15:21	橘さんが後方族なら、わたしは前方族です。 まぁそれはいいとして、この作品は結構おもしろかったですよぉ。 窓際族ではないつもりでいるがと言いつつ、窓際族の視点で語っていく。あなたはまちがいなく窓際族ですよ。 他の人もいっているように随分明るい窓際さんですよね。日当たりがいいオフィスなのでしょうか(二つの意味で)。
鞦韆 11/18 16:29	利点とデメリット、で対比しているのが不自然に感じます。デメリットと対比するならメリットで、利点と対比するなら、ええっと、なんでしたっけ…。 ともあれ、読みやすい文章でした。私の部屋は夏は暑く冬は寒い、季節の変化を気温で感じることが出来る素晴らしい部屋なのですが、冬は本当にキータイプに手袋が欲しくなりますね。
イッパイアッテナ 11/18 20:27	「真性・窓際族」のネーミングセンスがいい!? これが今はやりのちょい悪オヤジというやつでしょうか。 いえ、古典的なダメおやじです（しょぼん 読んでいるこっちまでひきこまれそうな一人語り。堪能しました
いそしぎ 11/18 23:55	あまりにも切ない… と、強くそう思いました。 とても読みやすいです。
シュトルムティガー 11/19 0:18	窓際族の悲哀を感じました。 しかし、このようにのんびりできるなら窓際族も少しいいなと感じました。毎日仕事に追われ、家にも帰れないような生活とどちらが幸せなのだろうと考えました。
イッパイアッテナ 11/19 11:10	・・・今日は、平日ですよ。 このコメントの速さ、窓際族の本領発揮というやつですね。 (ぼ、ぼくがコメントしているのは休講だからですよ。えぇ) コメント、とても感動しました。働いている大人の人って、やはりかっこいいです。(親父の背中とでもいうのだろうか。)
ひぃ 11/20 14:17	こちらは空きコマですよ。えぇ。（二週間に一回なもので…） 作者コメントでもいいこと言ってますね。それを本文中に書きこめる余地はなさそうではあるけど、作者コメントも合わせて『作品』というような印象を受けました。
あっきぃ 11/26 5:46	窓際族はメリットとデメリットがあるんですね。 メリットは知ってましたがデメリットには気づきませんでした。まるで本当に会社で窓際族をやっているかのような書き方をされているのがビックリでした。

ＴＯＰへ

I can ...

合計ポイント：12 Point
作者：鳥
作者コメントを読む

「じゃあね」
そう言って、妹の智子は部屋を出ていった。
僕は窓際に歩み寄り、外を眺めた。

今日は気持ちいいほどの快晴だ。
こうして部屋にいるのがもったいないほどである。

眼下には芝生の広場がある。
横切るようにはしる小径には、
車椅子に乗ったお婆さんとそれを押す中年女性の姿があった。
二人は楽しそうに話をしていたが、
お婆さんの表情が僕には少し引っかかった。

遠くには港が見えた。
岸壁には貨物船が停泊しており、
大きなトラックがせわしなく出入りしていた。

空は真っ青で、雲一つない。
太陽が少しまぶしいが、その青い空間に目をやると、
とんびが一羽飛んでいた。

そのとき僕はふと気付いた。
自分でもよくわからないうちに、
こんな薄暗い、無機質な部屋にいるようになったけれど、
べつにここにいる必要はないのだ、と。
あの高い空のもと、青々とした芝生の上を駆け回れるのだ、と。
僕は自由なんだ、と。

ナースステーションに看護士の阿久津が血相を変えて飛んできた。
「精神科の2304号室、誰もいないんですがどういうことなんですかっ?」
「おかしいな、鍵はかかってたんだろう?」
「ええ。でも、窓が開けっ放しだったし、そもそも格子がなかったんですけど?」

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
わがし 11/5 18:10	とてもいいと思います。私は物語が好きだ！ タイトル、日本語でもいいのでは？？
あゆむ 11/5 18:35	ちょっとぞくっとしてしまいました。 わたしとしてはのんびりな雰囲気のまま終わってほしかった。 お婆さんの話ってなんだったのでしょう。
インギリー 11/5 21:46	なんか、よくわかりません。 物語　なんですか？　ごめんなさい。
ノエ 11/5 23:3	阿刀田高的な雰囲気がありますね。 でも、文章を流し読みして見ると、作者の心の情景が時々飛び飛びの箇所がある点気になりました。
bagi 11/6 22:22	とても読みやすいです。でもやはり、お婆さんの存在が気になりました。なぜ、表情が引っかかったのでしょうか。
プーギン 11/7 10:29	結構好きです。 でも、みんなとおんなじ感想で、おばあさんの表情が引っかかったのはなぜでしょう？ その答えを見せないまま、そして主人公がどこへ消えたかも答えは出さないまま、ポンッと終わってみせようという意図だったのかもしれませんね。 あと阿久津さん、固有名詞で存在感がありすぎかも。返事したのはだれだろう、となってしまいます。
ピチョット 11/7 14:3	なぜ窓に鍵がなくてドアに鍵をかけるの？ 2304号室だけなぜ格子がないの？といろいろ疑問がでてくる。 そうだテーマが窓だから？・・部屋の鍵をこわして屋上へ・・・ということもありだぁ～と。 でもごまかされるくらい文章が読みやすかった。
茜 11/7 21:3	妹さんの存在や、おばあさんの表情は引っかかりつつも、なんとなく雰囲気にのせられて読んでいたのですが、最後の段落でぱっと夢から覚めました？ この設定は何なのでしょう？ ここまでの雰囲気に比べて、ここで妙に説明的な会話が入ってくるのは、ちょっと場違いに感じました。 例えば、からっぽの病室で、カーテンがゆらゆら風に揺れてるような、そんなシーンだけで終わらせたりとか。ここまでの雰囲気を殺さない、できれば生かすような落とし方が欲しいです。
みつきんぐ 11/9 1:0	最初は、ほのぼのとしていて好きな雰囲気だったのですが、最後がなんだかよく分かりませんでした。 格子はどうしてなかったのでしょうか？ おばあさんの表情はどうして引っかかったのでしょうか？
鞦韆 11/9 1:24	長文コメント、失礼します。 興味の対象が移るから視点の移動が行われるのだとしたら、お婆さんの表情が引っかかっても、そこでお婆さんに対する興味はそれほど生じなかった、ということなのでしょうか。 それとも、彼の持つある種特異な性質が、一見興味を持っているように見えるものからの視点移動、という、時系列が連続していると捉えるとどこか不自然に見える描写の根拠であったりするのでしょうか。 ともあれ。 人は、一般的には、普通に生活する限りでは余り上を向かない生き物だと言われています。視点の移動が下から遠くへ、そして上へ、という流れが自然だったからこそ、そのような視点の移動のさなかの、一見不自然に見える点へ目が向いたのかも知れません。 他の方も言及しているように、作品の内容自体に謎は尽きませんが、なにとなく、謎だと思わせたら勝ち、という方向性の作品のような気も、します。そういう意味合いにおいては、私は負けているわけなのですけれど。

ポン 11/9 15:48	窓を通しての風景などがよく表現されていて、自然と頭にイメージが広がってきました。 良い作品ですね
Begonian 11/11 11:41	…？ ……！？？ 最後の段落が理解できませんでした。 そもそも格子がなかった、ってただの病院側のミス？ 唐突過ぎてなにがなんだか。 とりあえず窓の格子を外したのは智子で、兄がそうするように仕向けたんだというブラックな妹を期待します。
ほろほろ 11/12 1:41	躁状態にある人間の心理なのかしら、と読みました。 眼下には芝生の広場、遠くには港が見える病院。 とても日本の風景とは思えない都合のよさ！ でも名前は智子！　阿久津！ 『2304号室』って、すごい大病院だなあ！！
kunipi 11/13 15:38	題名うまいです。 読み終えて 「あー。 たしかこんなシーンのある映画を見たなあ、 Ｉｃａｎ．．．」。 テーマとしては ひょっとすると重いものなのかも しれません。 「Free　as　a　bird」 こんな歌詞を思い出した 作品でした。 面白かったです。
チャオズ 11/13 23:2	うん、終わり方がイメージを掻き立ててくれますね。
けっちゃん 11/14 21:14	「・・・格子がなかったんですけど？」 って、疑問文で聞かれてもねぇ。「・・・」の方がいいのではないでしょうか。 何階なのかわかりませんが、きっと元気に走り回っているんでしょうね。だって、阿久津が窓の下を見ないわけないですもの。
ひぃ 11/15 23:14	オチのつけ方がもう少し…という感じ。そこまでの「僕」視点の話はうまいと思うから、その雰囲気を残しながらオチへ行ければ良かったんじゃないかな？ ちなみに、「４」のつく部屋って病院にあるかな？とか思ってしまったのは、私だけでしょうか？
King　Power 11/16 14:22	読者を引きつける終わり方は、いいと思います。 途中は、だらだらしすぎているかんじがして、いまいち好きになれません。
かぴばら 11/16 14:39	ある芸能人のことを思い出してしましました。 情景描写はきれいと思いましたが、この部屋は何階なんでしょうか？ 2304から想像すると、23階かもと思いましたが、そうするとおばあさんの表情までは見えませんよね。
ロココ 11/17 0:36	I can…「fly」ってことでしょうか！？とんびが一羽飛んでいるのをみて→気付いた、という流れになっていたので、そうかな、と。 想像力をかきたててくれる、面白い文章だと思います。このラストから音楽が流れてきて物語が始まりそうな気がします。

あゆむ 11/17 23:39	I can flyなのでしょうかってそれはそうでしょう。このタイトルはオチのためのものですしね。 主人公の行動が不自然なのはわざとかもしれませんね。精神の病にかかってるのだから不可解なことくらいするでしょうよ。たぶんお婆さんの表情に疑問を感じたのは、お婆さんがひどく不自由に見えたからでしょう。わたしはなんでこんなとこで生活してるのと感じていた主人公の視点から見るとそう見えたのでしょう。 最後に格子がないのは、もちろん主人公のせいであり、阿久津さんが下を見なかったのは、部屋のドアを開けたときに異変を感じ急いでナースステーションに駆けつけたからでしょう。 精神病の主人を通して、作者さん自身の気持ちを言おうとしてるのではないかと思った。わたしはどうしてこんな生活をしてるのだろう、そんな疑問が頭から離れない。 2304号室だったりするのは話を嘘っぽくするためにわざとかな。
ローズ 11/18 2:17	え？“ 自由 ”に飛び出したんですか？何か不安を感じますが…
レロニラ 11/18 22:29	皆さんと同じ感想でお婆さんの表情が気になりました。 最初のほのぼのした雰囲気と比べて、後半は前向きな展開なのか事件性のあるものなのかが曖昧ですっきり出来ませんでした。 あと最後の段落前は２，３行空けた方が良いかと思います。それまでと場面と視点が大きく変わっているので。
橘 11/18 23:16	鬱病は、何にでも万能で、周りから人気があるような、 いわゆる「完璧な人」ほどなりやすいそうです… 主人公の無気力感というか、自分の状況を飲み込めていない様子、 それが上手く表現できていると感じました(・・*) 最後の段落は、少し雰囲気が変わってますね… 種明かしのワザとらしさをもう少し隠せればよいのですが…(- -;)
Azalea 11/18 23:23	最後についてですが これはこれでよかったんじゃないかと思います。 もっとオブラートに包む手もあったかと思いますが これもひとつじゃないかなあと。 こうやって、一気に読者を突き落とすような感じが この作品の肝なのでは？ このままふわふわと終わってしまってはまずいと思うのですが。
でもどり 11/19 0:55	外側の世界への希望か、内側の世界への絶望か、彼（精神科2304号室の人？）が、なぜ飛び出したのか。 背後にあるメッセージを幾通りも考えられるのが好きです。 ただ最後の阿久津さんのセリフをもっと緊迫感のあるもの（もしくは、心から不思議がっているような）にしてほしかったです。
ノエ 11/20 0:18	作者のコメントを読んで。 視線の動きを意識されているようですが、最初のコメントにも記しましたが、１台のカメラのパン動作ではなく、カメラの切り替えのように視線が瞬間移動しているように思われ「動き」を表現することが弱かったという印象を持ちました。 文章のテンポと視線の移動スピードを合わせるのは難しいですね。。
鳥 11/20 13:38	＞ノエさん コメントへのコメントありがとうございます（何） 書いたときは「視線の移り変わり」と考えて書いていたのですが、 やはり別々のシーンと読めてしまうことは否定できないですね。 作者の気の短さが表れたのかw、慌てて執筆したせいか（2時間ぐらい、推敲ナシ）はわかりませんが、 もうちょっと視線移動の速度を計算すればよかったかな、と反省しきりです。

ノエ 11/20 22:55	コメントのコメントのコメント（何々？）ありがとうございます。 2時間でこれだけ書けるとは、、、。 私なりに何度も読み返してみたのですが、もとがいいので各段落の最後の文が次の段落に繋がるように修正するだけで流れができるように思いました。 たとえば、おばあさんの段落では、最後の文に風景（たとえば公園の木々）を入れ、次の段落の最初は「そのおくには港が見えた。」なんてどうでしょうか？ テンポにかんしては、文体を見ると「いった」「眺めた」「快晴だ」・・・。 全体的に統一されているのだけれど「である」で立ち止まった感があります。　わたしだったら「ほどだ」かな。。 などなど、読み返すと磨きが増すと思いますので、次回はぴかぴかに磨かれた作品期待しています。
桜子 11/26 1:58	なぞを残す、考えを自由にさせるという点で面白い作品だと思います。なんだったんだろう？こうじゃないか？と想像することって小説などでは面白い点だと思います。書き手にはしっかりと想定した事実があって、そこをちらみせする。そして読み手が一文一文を手がかりに書き手の事実に歩み寄る・・・。そんなやりとりがとっても面白いと思います。それをうまくやるというのは難しいのかもしれないですけれど。得に短い文章では。

ＴＯＰへ

閉所恐怖症

合計ポイント：11 Point
作者：輝
作者コメントを読む

夫は狭いところが好きだと言う。
テレビの狭小住宅番組に感心し、自分も穴蔵みたいな書斎が欲しいと言う。
私は狭いところは苦手だ。
気道に自信がないので、酸素の少ない状況は想像するだにおそろしい。

閉所恐怖症の気があると自覚したのは、ギザのピラミッドの中だった。
遠くからでもその巨大さに圧倒されてしまう古代の石の建造物。
まさかその内部に入る日がこようとは。
通路は細く狭く、時に身をかがめて上らねばならない。
イギリスの炭鉱で働かされている少年のような心持ちになり、不安が高まる。
冷たい汗をかきかき到着したのは、四方八方を重苦しい壁で囲まれた部屋。
空気孔はあったというが閉塞感に落ち着きを失い、ガイドの解説も耳に入らず、
そわそわ、うろうろ。
早く脱出させてくれと願った。

もしも、あのピラミッドに窓があったなら。
ためしに透明なガラスのはまった穴をひとつ、あけてみた。
たちまち外から新鮮な空気が流れ込み、強烈な日差しも、忍び寄る闇も見える。
ひとつ、またひとつと、上下左右に数え切れないほどの窓をつくってゆけば、
土埃にまみれたらくだ色の洗濯物がはためき、
素朴なエジプトむすめが恥ずかしそうに手を振る
・・・と、そこまで想像したら、
ピラミッドが怖くなくなった。
窓があるというのは、かくも有り難きこと哉。

ルーブル美術館にガラスのピラミッドをつくった人は、
もしかしたら閉所恐怖症なのかもしれない。

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
ノエ 11/6 0:32	安心して読める文章でした。 最後の２行、なくてもよかったかな。。
hanson 11/6 13:12	読みやすかったです。視点も面白いと思いました。 ちょっとだけ引っかかったんですけど、 「イギリスの炭鉱で働かされている少年のような心持ちになり…」 誰もこの経験はしたことないと思うのでもっといい比喩があると思います。
インギリー 11/6 21:40	私の夫も狭い場所が好きです。 一人で考え事をする商売だというのもありますが。 だから、旦那さまの気持ちが理解できると思います。 うちの夫は、自分の部屋を持っていて、そこで仕事をし、寝起きもしています。 閉所が好きな人と嫌いな人が結婚してしまって、大変ですね。 閉所が好きだから、旦那さまはピラミッドの中に入ろうと言われたのでしょうか。 ピラミッドは、ただのお墓。死者が眠っているところです。 ミイラは文化遺産だとか貴重な資料みたいに歴史の教科書に載っていますが そこに眠っている人にとっては迷惑なこと。 だから、ガラスのピラミッドは止めたほうがいいと私は思います。 イギリスの霊柩車は、お棺が入る部分がガラス張りになっています。日本の霊柩車も、考えてみればよくわからない造りですけど。
ピチョット 11/7 10:40	閉所恐怖症という症状が、おそろしいとか そわそわうろうろというところのみでしか伝わらないので もう少し恐怖感をかんじさせてほしかった。
ken 11/8 13:22	僕もピラミッドで同じ感覚がしました。但し、閉所というより石の圧迫感ですが。普通のピラミッドとガラスのピラミッド、対照が面白いです。
Begonian 11/8 17:41	ピラミッド妄想の行が微笑ましくて、ちょっと和んだ。
ノエ 11/8 17:51	時間があったのでせっかくの”最後の２行”をどうしたら活きるか考えてみました。 書き手がどこにいるのかが記述されていないけれども、回想もしくは書き手の居場所をルーブルにして、最初に挿入するとまとまったかもしれません。 かなり難しいですが・・・。 それと、「イギリス」という国名は特定する必要がなければなくした方がよかったと思います。 インギリーさん＞ ピラミッドはお墓ではないというのが最近定説になっています。
がらがらどん 11/10 12:5	妄想の部分が気に入りました。ピラミッドにたくさん窓があったら、昼は暑くて夜は寒いだろうな・・・なんてもらい妄想してしまいました(笑)
Azalea 11/10 15:28	窓の大切さを痛感しました。というお話なのでしょうけど みんなが閉所恐怖症ではないので、 その不安、恐怖がなかなか伝わってこないので もうちょっと伝えてほしいなあと思いました。
茜 11/11 17:56	そういえば、まじょ邸の本棚とオーディオ（テレビだったかな？）の隙間に、誰かが入り込むのが恒例みたいになってたことありましたね。なんとも入りたくなる隙間でした。 さて、狭いところが苦手だから、窓があるといい。というあまり目新しい感じもしないお話でして、余り淡々と終わってしまうと、上手く伝わり切らないような。もっと独自の体験に基づく部分とか、膨らませるとよかったんじゃないでしょうか。

あお 11/12 21:6	読みやすい文章でした。 私は狭い空間に入り込むのが好きなのでこの感覚はよくわからないのですが。 閉所恐怖症と窓という発想が面白いと思いました。
チャオズ 11/13 23:1	確かに、ピラミッドは窓が無いからこそあの雰囲気が醸し出せてるのかもしれませんね。
RIRI 11/18 0:38	ピラミッドに入った経験が無いため、窓があった場合の妄想シーンで情景がうまく浮かびませんでした。閉塞感については遊園地の室内アトラクションのような感じだろうかと思って読みました。 おそらく軽いノリで読めるのがウリなのでしょうが、個人的にはそれだと印象が弱いかなといった感じです。
ローズ 11/18 2:12	窓から差し込んできた太陽の光はまるで一線の希望のようです。監獄にある小さな窓も囲まれている人たちに一線の希望でも与えるんでしょうか。
鞦韆 11/18 13:58	私は閉所に恐怖を感じないので、閉所に恐怖を感じる感覚を共有できなくて、なんだか置いてけぼりにされたような印象を受けました。イギリスの炭鉱で働かされている少年の感覚がどういうものなのかも、いまいちイメージできませんし。 最後の二行に関しては、もしかしてここから話を広げて作られた話なのかな、とか感じました。なんとなくですけれど。
あゆむ 11/18 16:3	ギザつまらなす。 ピラミットの話が出てきたときに、あぁピラミッドに窓があったらなぁとか言い出すんだろうなと思って読んでみると、まさしくその通りで、なんだよと思った。 ルーブルの話には興味がわいたので、その話を詳しく聞きたい。
橘 11/18 20:21	話の素材が面白いなって思いました(・・*) 〇〇恐怖症って、そうじゃない人から見ると不思議に思えたり、 その人が少し可愛く思えたりしますよね＾＾ 話をもう少し膨らましてみてはどうでしょうか？ 例えば、旦那さんと作者サンの反応を比較してみたり、 状況描写や心理描写にもう少し深く踏み込んでみて、 狭く薄暗いピラミッドのなかで、不安感が募っていく、 そんな場面にチャレンジしてみてはどうでしょうか？
イッパイアッテナ 11/18 20:22	閉所、大好きです。 しかし、ピラミッドの中から、素朴なエジプト娘が恥ずかしそうに手を振っていたら、ファラオもオチオチ眠っていられませんね。 (というか、その想像力、感服です。)
lemontit 11/18 22:23	ピラミッドと窓を連想し、すごく面白い文章でした。 ピラミッドの中に入り、自分の恐怖感をもっと読者達に 伝えて欲しかった… 最後が意外という結末になっていますが、ガラスのあるピラミッドを 見に行きたくなりました。
レロニラ 11/18 22:47	私は皆さんと逆で最後の２行は好きですね。 ユーモアを感じました。 無理やりかもしれませんが妙にまとまり感があるかなと。 あゆむさん＞ つまらないというコメントはひどくないですか？ 適当に書いたような文章ではないのに…
す氏 11/19 1:12	最初に「夫」と「私」の対比を持ってくることで、作者さんの「閉所恐怖症」が印象付けられ上手いと思いました。 ただ、ピラミッドに窓を開けていく想像の部分が上手く、明るいイメージを強く想起させて、前に書いている恐怖感をにぶくしているのかもしれないとは思いました。 最後の２行はなくても文章は完結すると思いますが、私はこういう終り方は好きです。タイトルが最後の行にくることにもなるので、窓あけのところで終わるよりしっくりくると思います。
suburbanian 11/19 3:42	狭いところが何となく落ち着く僕は貧乏性なのでしょうか。 ただの引きこもりなんですかね。

あゆむ 11/19 23:35	すみませんでした。 軽はずみでのコメントをしてしまい、みなさんに迷惑をかけたようです。今度はこんなことがないように気をつけます。
イシルドゥア 11/20 20:55	閉所が好きな人ここにも一人。 ギザのピラミッドの話、僕は昔の話だと取れましたよ。ただ、僕の方は、夫さんとの話の途中での回想みたいな感じだと取ったので、そのまま夫さんが再登場しなかったのが逆にあれ？ってなりました。だから、多分まじょ様の言うように夫の話が無い方が入りやすかったかもしれません。 締め方がタイトルともつながってＧＯＯＤだと思いますが、ガラスのピラミッドの話も少ししてからだともっと膨らんでよかったと思います。 ピラミッドはお墓とはいえ、実感だったんだから仕方ないとは思います。絶対実感から書いた方が面白いですから。それにしても、こういう閉所の例も中々ないですよね・・・僕なら、地元の石見銀山とか。うわーい、世界遺産（なぜか地元自慢） それにしても、エジプト娘・・・写真に代金請求とは中々にしたたかなことで（笑

ＴＯＰへ

まあ　どーでもいいけど

合計ポイント：11 Point
作者：インギリー
作者コメントを読む

　洋式トイレの普及とともに、男性でも座っておしっこをする人が増えているらしい。
洋式トイレの低い便座は男性が立って小用を足すのに不向きだ。その位置に飛ばすのは、特に大人の男性では難しく、汚してしまうことが多い。

　ところが49歳になる夫は、その意見に大反対なのである。
「立小便は男のロマン、男の勲章だ。」
という。その影響か、現在高校生になる息子は幼稚園のころから立ってするようになった。

　犬の場合も、オスは立って片足を上げ、おしっこするのが定番だ。やはり、立小便は男のロマンなのだろうか。

　さて、夫のもう一つのこだわりにパジャマのズボンがある。彼は家で仕事をすることが多く、仕事着はパジャマと言っても過言ではない。そのため、お気に入りのパジャマでないと仕事がはかどらない。

　そのパジャマのズボンが前開きでなければならないというのだ。
パジャマにしろ洋服にしろ、男性用のズボンには股のところに小さな開きがある。「社会の窓」という名前の、それが彼には大変重要なものらしい。

　ただ、最近のパジャマはメンズと書いてあっても社会の窓のないものが増えている。バーゲンで確認せずに買って、窓のないパジャマだったことが何度もあり、そのたびに夫は怒る。

　私にすれば、どうでもいいことなのだ。息子もパジャマに関しては何も思わないようだ。学校のジャージに窓がついてないので慣れてしまったのかもしれない。ユニクロでスウェットスーツを買い、それをパジャマ代わりにしている。

　生協のカタログでパジャマのところを見ていると、メンズには必ず「ズボン前開き」「ズボン前閉じ」と但し書きがついている。夫のように前開きにこだわっている人がいるのだろう。但し書きのおかげで最近は買いものの手間が省け、私は助けられている。

　理科の窓でもない、国語の窓でもない、算数の窓でもない、社会の窓。そこから何が見えるのだろうか、社会の窓。我が家の家訓として
「立小便、社会の窓は男のロマン。」
と言い伝えられる日がくるかもしれない。

　単なる甘えたがりの我がままと言えばそれまでだが、最近私は、そのこだわりが結構気に入っている。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
わがし 11/5 18:22	結論とタイトルが離れてるような気がします。 「一見どうでもいいと思われること」が実は気に入っているのだとすると、 やはりタイトルは重要だと思いますがいかがでしょうか？？ このタイトルだと、「どどどんななげやりな内容が書かれているのか」と 一瞬構える感じになります。どうでしょう？？
ノエ 11/5 23:48	『ユニクロ』という単語はないほうがいいなと思いました。 ブランド名や固有名詞は読み手それぞれに異なったイメージがあると思うので、ここの作者の文章を邪魔するように思えます。
hanson 11/6 13:30	面白いとおもいました。つまらないことにこだわる人って、見てて楽しいですよね。冷めた「私」が淡々と述べている感じがまたさらに面白みを加えているように思えました。 ただ、”わがし”さんのタイトルに違和感というのは共感できますね。
橘 11/6 18:0	テーマは「男のくだらないことにこだわるクセ」でしょうか？(^ ^;) たしかに、男にはそういうクセがありますよね〜。 それを女性の視点から見ているところが面白かったです(^ ^*) ただ、そのこだわりに理解は示していないのに、 どうして気に入ってるのかな？って自分も思いました(・・;) 「こだわりの対象」は理解できないけど、「こだわっている夫」を気に入ってるのでしょうか？ そこの理由を最後の段落に入れた方がよかったかな、と自分は思いました(・・*)
ピチョット 11/7 16:58	タイトルどおりの感想になってしまいました。 社会は教科名というとらえ方にもちょっと・・・ 井戸端会議風なことをいまさらのように文章にした ような気がしました。
茜 11/7 20:53	タイトル、これはないかなあ、と。 中身だけ読めば、なんだか日常的でいい感じなんですが、タイトルのせいで読む前に「どうでもいい」って気分にさせられました。ちょっともったいなくないですか？ 自分の父親が立ってるのか座ってるのか知りませんが、掃除する身にとってみれば、座ってもらえるほうが良いのかしら。こだわるなら自分で掃除しろ、とかね。（でもこのお父さんはそんなことしそうにないですね）（パジャマくらい自分で買えるでしょうに）
けっちゃん 11/8 19:13	タイトルにつられて、読んでしまいました（後悔しているわけではないですが）。皆さんが書いているように目に付くタイトルなので、もし作者さんがそれを意図していたのなら、アリかと思います。 個人的には、男が立ってするのはただ単に座るのが面倒なだけだと思います。ただ世の男性に一度、下半身裸でタチションすることをお勧めします。いかにハネているかが体感できます（経験談）。
バートルビー 11/9 16:6	タイトルに関していろいろでていますが 夫に「ささいな男のこだわり」があって 最近、まあそんなところも可愛いなと思うけど、 やっぱり女の私にとって前が開いていようが開いていまいが 「どーでもいい」ので、このタイトルはまあいいんじゃないでしょうか？

go19 11/11 8:23	go19 はダジャレはあまり好きではありませんが、この本文にこのタイトルは良いと感じました。ダジャレが嫌いな go19 なら、いっそ「どーでもいーけど」というタイトルにしたかもしれません。 このタイトルでは、本文に何が書いてあるのか予想のしようが無いことは、一般的にはちょっとよろしくないと、石田は考えています。けど、この本文を読んだ後にタイトルを読むと、良い味がしてくるので、石田はこの場合は良いと感じました。 読み終えた後、（大の大人であるはずの）「夫」の甘えや我がままを受け容れる、「私」の気持ちが伝わった気がして、ちょっとうれしい気持ちになりました。 あと、この文章は物語ではなく、本文の「私」は、作者の方ご本人だと読み取りました。
Begonian 11/12 1:21	もう少しタイトルに時間をかけてあげて下さい。 字数的には全体の１％程度ですが、全執筆時間の１０％をかける価値はあると思います。 というか、もっとかけてもいいと思います。 まあ、本文にかけた時間よりもタイトルにかけた時間の方が長い、なんて経験もあるぐらいタイトル凝り性だからこんなこと思うのかも知れませんがね。
ハイパー・ワイハー 11/12 12:45	どーでもいいのか、気に入っているのか。 どっち？？？
茜 11/15 19:32	……。 ……ダジャレ？ あ、このタイトル、そー言う意味なんですか？（やっと気づいた）
作者 11/15 20:9	go19さま 茜　さま タイトルのこと、わかってくださって涙が出るほど嬉しかったです。ありがとうございます。
ほろほろ 11/16 2:57	かわいい旦那さんですね。 旦那側と妻側の双方の言い分がわかる、 そしていい塩梅にくだらない、ほんわかした話でした。 この旦那さんなら、 恐らくかわいいエピソードには事欠かないと思うので、 その辺りをもっと書き加えると よりほんわかできていいのではないでしょうか。
みつきんぐ 11/16 19:29	なかなか面白い見方だなーと思いました。 確かに、タイトルにちょっと違和感は感じてしまいますが、内容の意外性が際だつかな、と思いました。
星イッテツ 11/16 21:17	私は男でありながら、社会の窓を使っていませんでした。 いつも小便をするときは、ペロッとパンツ・トランクスを下ろしていました。これからは正します。 立小便、社会の窓は漢の浪漫ですね。
Azalea 11/17 23:38	タイトルが投げやりなのがちょっと残念です。 もっといい題名をつけられたのではないかなあと思います。 最初に読む印象がかなり変わりますので・・・。 （後で駄洒落とコメント見て気がつきましたが。・・・う～ん） こういうこだわりを持つ人も多いかと思いますが この小さなこだわりについていくという姿がいいのかなあと思いました。
鞦韆 11/18 13:52	『犬の場合も、オスは』、という表現に、じゃあメス犬はどうなんだろう、というのが気になりました。私は、犬は全てああいうものだと思っていたので。 まあ、どうでもいいんですけどね。
あゆむ 11/18 16:55	ｇｏさん(石田さん？)のコメントを見て、えっ駄洒落ってなんのことと思ってタイトル見直してもやっぱりわからない。わたし駄洒落認識能力が低いのね。駄洒落の説明させるのもどうかと思いますが、さくこめで教えてくださいお母さん。 この作品って大学生の娘さんは登場しないのですね。娘さんもどーでもいいと思っているのでしょうか。 ちなみに、わたしもパジャマが前開きだろうがどーでもいいと思っている人です。

イッパイアッテナ 11/18 20:7	立ちションベンは男のロマンだ!? というか、座ってやるやつは男じゃない。 俺も、そんなかっこいい親父になりたいです!?
す氏 11/19 0:41	駄洒落にはすぐ気づくことができました。なので違和感無く文章を拝見できたと思います。 日常的な題材で面白いです。タイトルに「どーでもいい」と書くことで、結論部分の「結構気に入っている」という変化が逆に印象付けられる（と、読ませていただきました）点も、私はありだと思いました。
ノエ 11/20 0:10	作者のコメントを読んで。 『窓（お題）』との駄洒落であるとのことですが、すこし読み手に対して不親切だなと云う印象を受けました。 多分、「この文章は窓と云うお題に対して書いた」という説明がなければ成り立たないと思いますので。。 それと、女性という立場でかかれてありますので、文体や言葉はもう少し柔らかくてもいいかなと思いました。。
インギリー 11/20 22:12	ノエさま ＞「この文章は窓と云うお題に対して書いた」という説明がなければ成り立たないと思いますので いえいえ、そういうことは　ありません。 文の中で挙げた二つの事例は「女性にとっては、あまり関係ない、どうでもいいこと」なので、そういう意味も含めてタイトルをつけました。 みなさん「どーでもいい」と書くと、ぶっきらぼうな投げやりな印象を持つかもしれませんが、必ずしもそうじゃありません。 わたしが書きたかった意味は「わたしにとって、右でも左でも、どっちでもかまわない」というものです。 …「でも大好きよ」と最後に書いて、丸く治めているつもりなのですが。 この授業に参加しているのは男性が多いだろうという推測のもとに、書きました。 東工大の院生は、日頃理屈を商売道具にしていると思いますが、それはどんなときでも基本となる日本語がしっかりしていないと議論になりませんね。 たくさん本を読んで（それも、今どきのベストセラーじゃなくて、日本文学全集のようなものから）日本語をしっかり身につけましょう。 そうすれば、言葉遊びも楽になるんじゃないかな。 ちなみに、夫は理屈を商売道具にしてます。これは、みなさんの作品を読んだ夫からの伝言でもあります。 わたしは物書きを仕事にしていません。趣味で書いているだけですが、読むことも書くことも好きです。
茜 11/21 1:49	「どうでもいい」って、大抵投げやりですよね。 「どーでもいい」ってなると、さらに投げやりに感じます。 「まあ、どーでもいいけど」なんて言われて、この先に、本当はどうでもよくない話が待ってるとはあんまり思いません。 確かにどうでもいい話。でも、それが好き。だったらそれは、「どうでもいいけど、どうでもよくない話」なんですよね。 そういう、微妙なニュアンスがもっと感じられるような題名だとよかったなあ、と思います。 文章からは、そういったニュアンスが、よく表れていると思うのですが。 「どうでもいい、はずなのに」とか、だめですか？ ちょっとかわいげがあっていいかな、と思うのですが。

あゆむ 11/22 21:31	駄洒落ってそこにかかっていたのですか。最後の太文字のとこにかかっているもんだと思って失敗でした。改めてこのタイトルについて考えてみると、どちらでもいいという思いをタイトルに込めるのはいいと思うし、込められていると思います。ただ、御題が窓の場でないと駄洒落はうまく機能しないですよね。 あと、どうでもいいかもしれませんが、インギリーさんは偏見で理系をみてませんか？理系っていってもいろいろな人がいるわけで、必ずしも国語力が弱い人ばかりではありません(わたしは弱いですが)。 これはわたしの個人的な考えですが、日本語がそれほどしっかりしていなくても議論はできるし、小説も書けると思っています。たしかに、どう表現するかは重要になってくるとは思うのですが、それよりも伝えたいと思っている内容のほうが重要だと思っているからです。物語を書くにしたって、たくさん言葉を知らなくても、自分の中である言葉だけで十分に書けると思いますが。
インギリー 11/22 22:44	＞あゆむさん 「インギリーさんは偏見で理系をみてませんか？」 の質問について。 そうですね。私がコメントした中に「喧嘩売ってるんじゃないか」と思われても仕方がない言葉がたくさんあります。 ごめんなさい。 理系の人と結婚して20年が過ぎました。 日頃の愚痴とか不満を、ここで書いてしまったのかもしれません。 自分は毎日理屈を山のように言っているのに、聞き手の私が少しでも理屈を言おうものなら怒ります。 人の理屈を聴くのは嫌だと言うんです。 でも、NHKのニュースでさえ間違った言葉遣いをしていると画面に向かって文句を言う…そんな夫を今では尊敬しています。 我が家の蔵書は1000冊を超え、家の中は本だらけ。百科事典は、子供用のものを一そろいと、大人用のものを一そろい。我が家の財産です。 持ち家も車もないけど、本がたくさんあるというのが自慢です。 夫が頭の中に引き出しをたくさん持っているのは、たくさんの本のおかげだと思います。 …というわけで、あえて苦言を呈しました。 たぶん、不愉快な思いをしている方が多いと思います。 あゆむさんの、今後の作品に期待しています。
あゆむ 11/23 4:4	なるほど、たしかにたくさんの本に触れればそれだけ引き出しが増えるのは確かでしょう。本が多い家というのはいいですね。わたしも家に書庫があればいいななどと思っていますが、実現するのはいつになることやら。 インギリーさんの発言で気になったのは喧嘩うってるとかそういうことではなくて、理系と言う枠にひとくくりにしてしまってるのが気になったのですね。乱暴な発言して怒られたわたしが言うのもなんなのですが。 なんというか、仲のいい夫婦なんだろうなと思いました。仲が悪いといちいちその人のことに関心を持たなくなりますからね。 とりあえず、わたしには作品を出す権利が無いのです。
インギリー 11/23 8:16	あゆむさん 失礼しました。 作品じゃなくて「コメント」の方でしたね。 これからも、鋭い、面白いコメント期待しています。 「理系をひとくくりにしている」のこと 私の書きかたが悪くてごめんなさい。 「理系」というのは、夫との日常会話からイメージする「理系の人」です。そのままの文章を書いていらっしゃる人が多かったので「24時間一緒にいる、あれだ」と思ったら、ひえ～となってしまったのです。 まあ、それは（そういう大学なんだから）仕方がないことなのですが。 すみません、独り言を書き並べて。 理系にも、いろんな人がいるというのは、わかります。 夫に「工学部と理学部を一緒にするな」と言われたことがありますし、同じ分野の研究をしている人とも「あんなんと一緒にするな」と言われます。

インギリー 11/23 8:18	関係ありませんが、今日は21回目の結婚記念日です。 何もお祝いしません。ははは。
茜 11/23 11:56	＞インギリーさんとインギリーさんの旦那様へ。 おめでとうございます。 形には表わさなくても、お二人が心の中でちゃんと「おめでとう」をかわしあっていますように。
インギリー 11/23 18:7	茜さま お祝いのコメントをありがとうございます～ 結婚記念日が祝日だと、毎年お休みになるからいいですね。といいながら、外食するとか、ご馳走するとか何もないんですけどね。 ちなみに、昨日は夫の誕生日でした。 一つ年をとって悲しいと言ってます。 すっかり白髪になり、見た目は六十代だと言われます。はははは。かかりつけの内科の待合室で配っていた「65歳以上はインフルエンザの予防接種が無料です」というチラシを、躊躇しないで手渡されました。 本人は「これは、きっと全員に配ってるんだ」と心の中で納得して受け取ったら、向こうの方で「あなたはまだ若いですから」と、もらわない人がいたのです。 ショックな顔して帰ってきました。あ～あ。。 私が結構年齢より若く見られるので、親子に間違われたこともあります。実際は3歳しか違わないんですけど。
インギリー 11/23 18:11	心の中でおめでとうを交し合っている… そうですね。そうかもしれません。 また新たな1年が始まったって感じです。 まあ、毎日のように「だーいすき！」とか言われてるし。 私が夫に「今日のあなたは、一段と男前」と言うと 「何か頼みごとでもあるのか」と言います。実際、そうなんですけど。
茜 11/24 21:40	＞インギリーさん 「さま」なんて、くすぐったくなっちゃいます。 みなさんのことは「さん」付けで呼ばせていただいているので、インギリーさんも「さん」で呼ばせていただいてよろしいでしょうか？ エピソードをお聞かせいただいて、思わず微笑んでしまいました。 素敵なご夫婦ですね。 この作品を読んだ時も、良いご夫婦なんだろうな、と思っていましたが。予想以上でちょっとびっくりです。
インギリー 11/25 9:44	それでは　茜さん ほほえましい夫婦と言われて、嬉しいんですが やっぱりずっと一緒にいるというのは、ちょっと大変。 スリリングというか何というか 本が書けるくらい、いろんなことを言ってくれます。 おかげで、私も少しは理屈に強くなりました。
茜 11/25 10:29	はい、では、遠慮なくインギリーさんと呼ばせていただきますね。 貴重なお話ありがとうございました。
インギリー 11/25 12:33	茜さん わたし、なんか全然質問に答えてないですね。いつも書き込みが終わってから反省します。 どうぞ、インギリーさんと呼んでください。 自分の作品にコメントをもらえるのが、こんなにわくわくするとは思いませんでした。 私は、外国人支援をしている公共の施設でボランティアをしていて、広報誌を作っています。 毎月発行される中から年に3度は地域の回覧板に入るので 読んでくれる人は、たくさんいるんですけど、それを読んだ感想はあまり聞いたことがなくて、暖簾に腕押しの気持ちが続いていました。 こちらの講座に参加することができて、本当に良かった。まじょ先生に感謝です。

船長 11/25 18:21	インギリーさま お誕生日おめでとうございます。 宇宙空間は時の流れかたも異なりますので、 日々、若者たちと交流して、 ますます若返ってくださいますよう。 今後ともよろしくお願いします。 心の花束を添えて　　船長室より
インギリー 11/25 21:55	船長 お祝いメッセージをありがとうございます。 若い男性からお祝いされるなんて、夢のようです。 これからも楽しい時間を過ごしていきましょう。 あと2時間で誕生日が終わっちゃいますが、幸せな1日だったと思います。
インギリー 11/25 21:56	ごめんなさい。 あなたが男性か女性かわからないのに「男性」と書いてしまって…
インギリー 11/26 9:6	今気がつきました。 船長というのは、まじょ先生のことでしたね。
あゆむ 11/30 21:58	誕生日おめでとうございます。遅くなりましたが、わたしからもお祝いの言葉を。 ところで年をとるってうれしいですか？わたしはまだ20代だというのに年をとることが嫌でたまりません。
インギリー 12/2 21:39	＞あゆむさん お祝いメッセージをありがとうございます。 なんか、息子から言われてるみたいで、くすぐったい感じ。 年を取るのは…なんか全然実感なくて。 毎年自分の年齢を数えては「私じゃない。」と思います。 実を言うと46歳になったのですが、（私は）そう思ってません。 お化粧もせず、身の回りは全然構わないのですが 初対面の人に「20歳の娘がいる」と言うと、みんな驚きます。 きっと本人に自覚がないからでしょうね。 20歳のころに46歳って聞いたら、ものすごくおばさんだと感じたものですが。光陰矢のごとし…かな。 私は24歳（25歳になる2日前）で結婚して、すぐに子どもができたので、20代30代は子育てで終わってしまいました。 あゆむさんは、これから明るい未来が待っているのですから、そんなに悲観しないで前向きにいきましょう。
あゆむ 12/2 23:57	親の誕生日を祝っていたのははるか昔です。年をとるとだんだんと親から遠くなっていくのですね。 年をとると、この一年でわたしは何をやってきたのだろうなど考えて悲しくなってしまいます。でも、今まで生きてきた三倍はまだあるんですよね。そんな下ばかり向いていてはいけないかもしれません。 わたしは娘さんのと同い年なようですね。わたしのお母さんも年の割りに若い気がする。

ＴＯＰへ

明日

合計ポイント：11 Point
作者：kunipi
作者コメントを読む

昨日の次は今日がきて
そして今日の次は明日が来る。
少なくともそう思っていた、
いやむしろそれが当たり前のことだと思っていた。
とくに深く考えることもなく。

秋の土曜日の夕暮れ、
母ちゃんが死んだ。

俺は、最初父ちゃんから震える声で
「母ちゃんが交通事故で、
救急病院に運ばれたから。
とにかくすぐ来てくれ」
とケータイに連絡が入ったとき
「入院か。何が必要かな。」
なんてことを考えていた。

会社の独身寮から私鉄とＪＲを乗りついで
自分の育った町の救急病院へたどりついてみると
母ちゃんの顔には、白い布がかけられていた。

定年退職したばかりの父ちゃんと
大学３年で就職活動をはじめたばかりの弟の顔が
母ちゃんの顔にかけられた布と同じくらい白い。
俺は何が何だかわからなかった。

オレニハアシタガクル
ケレドカアチャンニハコナイ

その日の夕方、自転車に乗って
買い物にでかけた母ちゃんは
商店街の細い路地から一時停止をせずに
飛ばしてきたバイクとぶつかった。
そして救急車で病院へ運ばれた時にはもう息がなかった。
ほぼ即死だった。

打ちどころが悪かったんだなと思う。
本人も自分が死んだことを
まだわかってないんじゃないだろうか。
特売のたまごを買い忘れたって
今にも起きだしそうだ。

オレニハアシタガクル
ケレドカアチャンニハコナイ

その翌日から
まるでベルトコンベアーに乗せられたかのように
物事がスムーズに進んでいく。

「ご遺族の方におかれましては・・・」
セレモニー会社の担当者は、悲しみの顔と
ビジネスの顔をうまく調和させて
いつの間にか「ご遺族」となってしまった俺たちに
今後の段取りをてきぱきと説明していく。

悲しいかって？
喪主の父ちゃんに代わって
親戚の世話係となった俺は、
いま、この瞬間に悲しいと思う暇がない。

それよりも
母ちゃんが死んだことで、
本当に悲しいと思っているやつは
今この場所にいったい何人いるんだろう。
そのことのほうが俺はずっと悲しい。

オレニハアシタガクル
ケレドカアチャンニハコナイ

きれいな月が遠慮がちに出ている。
夜風が涼しい。
ほんのひと月前の暑さがうそのようだ。

会社の同僚の吉田と河野が
仕事帰りに通夜の会場へ駆けつけてくれた。
喪服姿の俺を見つけると
「カズ。かける言葉が見つからないよ。」
吉田は涙声で言った。
「手伝えることがあったらなんでも言ってくれよ、な。」
河野は俺の肩をとん、とたたいた。
「忙しいのに、悪いな。来てくれてありがとな。」
俺は二人に向かって頭をさげた。

オレニハアシタガクル
ケレドカアチャンニハコナイ

朝。
むせるくらいの線香の煙。
部屋の窓を少しだけ開けて朝の空気をいれる。
本日の「ご遺族」の予定は告別式。
そのあと火葬場へ向かう。

実感はない。
でもそういう順序になっている。

もうすぐお別れ、か。
たまらなくなって
俺は、棺の小さな窓を開けて、
母ちゃんの顔をみた。

母ちゃん、なんていうか、俺。
今までありがとな。
なにもしてやれなくって
ほんとごめん。
母ちゃんには来なかったたくさんの明日、
俺がその分生きるからさ。

小さな声でそう言って
俺は棺の窓をそっと閉めた。

オレニハアシタガクル

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
わがし 11/5 13:25	タイトルと内容があっていて、いいと思います。実際自分の母がなくなったら、私はなんて言うかなあと思いながら読みました。
インギリー 11/5 17:22	私は、今年の４月に三途の川を渡りかけたので、お母さまの気持ちが少しわかります。きっと心残りだったことでしょう。 ただ この文章は涙が出ない…というか、悲しみがあまり伝わって来ない。母を失うという一生に一度の体験を、もう少し言葉数を増やして表現できないかなと思いました。説明口調をカットして、気持ちの伝わる文章を書く努力をした方がいいと思います。
あゆむ 11/5 17:54	説明口調なのはいいんじゃないでしょうか。 母が死んだ。たしかに俺さんには悲しいことなんだろうけど、突然だったのと葬式やらでいそがしかったせいでいまひとつ、その事実を実感していない。その感じがでてるようにわたしは思いました。 たぶん、俺さんはまだ母の死に対して涙を流していないんじゃないでしょうか。
わがし 11/5 18:29	そうですねえ、私も一番最初に読んだとき、この主人公の人は、まだ 悲しんでない気がしました。 なのに物事だけが淡々と、まるでそうしなくちゃならないように、 過ぎていってしまう。 それで、あっという間になんだかお別れの場面になってしまった。 その時に、なんて言うか、ですよね。 おそらく、流れに乗ってしまって「じゃあまたね」的なものに なってしまうのかもしれないと一瞬思いました。 「でもそういう順序になっている。」ということだと思います。
parakeet 11/6 15:53	読み終わった後で、 「あれ？窓はどこだ？」 と思って探してしまいました（笑）

ノエ 11/6 22:35	カタカナを効果的に使おうとしているところはポイント高いです。 なので、できるだけ他の単語でカタカナを使わない方が強調できたかも。。『ケータイ』など不用意にカタカナを使っているので障りのカタカナと他の段落とのコントラストが弱くなった気がします。
ピチョット 11/7 11:54	窓のテーマから人生最後の棺の窓とは思いつかない 発想で面白いとおもいました。それに母ちゃんと自分がダブって ちょっと悲しい気分に・・・。でも逆もないこともないよね。 気をつけましょう！
めふめと２世 11/7 14:19	周囲の行動を主人公が恐ろしいまでに客観的に見ている点が、母の死を消化できずに悲しさすらも沸いてこない悲しさを表現しているように思いました。「でもそういう順序になっている。」とあるように、母を処理していくシステムに対する乾いたアイロニーを感じます。 最後の「オレニハアシタガクル」もカタカナなのが、怖さと強さを感じますね。
イッパイアッテナ 11/8 23:35	実話というか、実体験を元にしたのかなぁ。 たぶん、自分のじいちゃんが死んだとき、それをコラムに書くとしたら、こういう形のものが書かれていたんだと思う。 二年前に死んだじいちゃんの記憶を妙に思い起こされる、そういうコラムでした。 共感というかシンパシーというか。 オレニハアシタガクル　この一文がほんと、せつない
プーギン 11/9 6:38	さめた文章が、深い悲しみを感じさせます。主人公は、この後しばらくたってから、突然泣いたりするんだろうな。何でもないときに、わっと涙が出るんだろうな。 そうだね、棺桶の窓は、人生最後の窓なんですね。。
けろた 11/9 18:41	プーギンさんもコメントしているとおり、悲しみにひたる余裕もないほど身内の死ってなかなか実感できないんだと思います。 私は淡々と読みながら、涙がじわーっと出てきました。 最後の「棺の窓」でまた涙が出ました。 淡々としたものほど涙が出ちゃうのは最近の傾向です。ちょっとひねてきたのかもしれませんが。
Begonian 11/9 23:55	あー、明日が来ちゃうー。 日付が変わる直前の時間帯ってなんだか、なんというかこう、ねぇ？ そう思いません？ 全体的にはあっさりしてるから、何度も出てくるカタカナの言葉が余計にくどく感じられます。 言葉が多くなればなるほど、そこにある気持ちは薄く感じられてしまうものです。 最小限の言葉に、最大限の想いを、いかに詰め込むかがこの手の作品の勝負所だと思います。
茜 11/11 15:3	なぜだか、無性に実家に帰りたくなりました。 伝わってくるのは、悲しみという「感情」よりも、ただ、「喪失」という事実。感情的に言われるより、ずっと、あたしの中に深く染み込んで来ました。 お葬式の部分だけ、ちょっと余計に感じられました。 ここ、の部分を少し削った方がいいかもしれません。 「特売のたまごを買い忘れたって」というのが、みょーに生活感というか、リアリティあふれてあたしは好きです。
Azalea 11/14 0:24	すごくぞっと来ました。 リフレインの部分がすごいですね。 人間の死について考え直しました。 お葬式って死を認識するためにあるんでしょうね・・・
星イッテツ 11/16 21:23	僕も今までに何人かの大切な人ともう会えなくなるということを経験しました。一番悲しいのは、自分がもうその人と話とか何もできないこと。けど、”母さんに明日が来ない”ということは、俺が生きているから成り立つこと。ということで最後のとこは共感でき良かったと思います。

鞦韆 11/18 15:17	今まで誰も指摘していないかな、ものすごく、一つひとつの表現によって作られるテンポがいい作品だと思います。 『セレモニー会社の担当者は、悲しみの顔とビジネスの顔をうまく調和させて』とか、その辺りの表現はすごく上手いと思います。 頭の中で発音しながら読んだ時に、すっと収まりの良い言葉の並びになっていると言うか。 『大学３年で就職活動をはじめたばかりの弟』を持つ兄の言葉にしては、言葉遣いがやや幼い…というか、若い？印象を受けますが、それも味でしょうか。
あゆむ 11/18 16:11	この作品にこのタイトルってあっているんですかねぇ？ タイトルだけ爽やかな気がわたしはしたのですが。
daikonsalada 11/18 22:57	悲しい思い出にも窓があったらいいですね。なかなか難しいです。
でもどり 11/19 0:37	いつになったら窓が出てくるんだろう・・・。 と思って読んでいたら、きましたね。ここぞというタイミングで。 最近父親が亡くなった親友がいて、その彼と俺をダブらせて読んでしまった分引き込まれた感もあるのですが、それを差し引いても、グッとくる文章でした。 あえてカタカナで書いたところにポイントを置く方もいらっしゃいますが、個人的にはそうしない方が良かったかな。と思います。一瞬何て書いてあるかわからなかったもの で・・・。
Eisen 11/19 1:23	悲しんでいない、なんてコメントを易々と書ける人の気が知れません。 たとい文章からその匂いが嗅ぎ取れなかったのだとしても、言って良い言葉ではないでしょう。 私の経験と酷似した内容で、それゆえ逆に、あまり深くは読みいれませんでした。 苦しすぎて。
ノエ 11/20 22:31	いくつかのコメントで、「悲しさが伝わらない」旨ありましたが、 わたしは、この作品に非常にリアリティーを感じました。 本当に悲しいことは、悲しむことさえも禁じてしまうほどの衝撃があります。 そっけなさと、淡々とした文章が宮沢賢治の妹の死に対して詠んだ詩「永訣の朝」を思い出させ、わたしは凍りつきました。 あと、わたしのコメントに対して「おぉ！」と思っていただきましてありがとうございました。
茜 11/21 1:31	＞作者さん ごめんなさい。割と年がら年中実家帰りたいと喚いてます。 いまだにホームシックが治らないようで・・・・・。 でも、この作品を読んでいると、本当に、次はいつ会えるんだろう？ちゃんと会えるんだろうか？って気になって、嗚呼、帰りたいなあって思いました。 両親には、ちゃんと親孝行するまで元気でいてほしいですよね。 そう思わせる力のある作品だと思います。
kunipi 11/21 18:20	＞ノエさん まず、この同一の語句のリフレインは 今年の春に読んだ絲山明子さんの 文章にあったので、手法としては そのパクリです。 そして、書いた後に 自分でも宮沢賢治の「永訣の朝」に 似てるなあ、と思いました。 あの詩は「兄と妹」ですよね。 それは別のコラムで盛り上がって いるからいいとして（笑）。 私が主人公を「俺」にしたのも たぶん「男と女」「生と死」を 無意識に対比していたのかもしれません。 ずうずうしくも 大御所と自分の作品を 比較してみました。

kunipi 11/21 18:36	＞茜さん 親の存在って、 そばにいるときには なかなか気付かないものですよね。 でも、それは離れてみて 初めて気づくことですから。 私も大学入学するために引っ越して 初めての夜、親の持たせてくれたおにぎりを ひとりで食べた時に、ひしひしと 感じたものです。 実家　is　waiting　for　you！
ノエ 11/21 21:5	いやぁ〜、パクリとおっしゃいますが、完全に自分の物になっていますね。。 脱帽ですよ。 リフレインを生かすにはそれ以外の文章がしっかりしているからこそです。
kunipi 11/22 22:53	＞ノエさん ありがとうございます！ カタカナって何気に 意識しないと 使わないですからねー。 ううう。わたくし 次のお題の 女に苦しんでおります。。 難しいなあ。
kunipi 11/22 22:54	＞ノエさん ありがとうございます！ カタカナって何気に 意識しないと 使わないですからねー。 ううう。わたくし 次のお題の 女に苦しんでおります。。 難しいなあ。

ＴＯＰへ

建築「窓」物語

合計ポイント：11 Point
作者：スマイリー
作者コメントを読む

建築は柱や梁、壁、そして天井や床など、多くの部材からできている。「窓」も建築を構成する重要な部材のひとつだ。「窓」には光を採りいれる採光機能や空気をいれ換える換気機能があるが、その他にも心理的な役割がある。会議場のような集中力が求められる空間にはあまり「窓」は設けられない。逆に、精神的な開放感を与える空間には大きな「窓」がある。高層ビルのスカイラウンジや展望レストランなどがそうだ。

また、「窓」は装飾としても重要な役割を果たしてきた。教会でよく見られるステンドグラスを施した「ばら窓」がその代表例だ。「窓」を設けるには天井や壁に開口部をつくるための技術が必要だ。中世の教会建築では、ヴォルト天井やアーチ構造、フライングバットレスなど、大きな「ばら窓」をつくるための技術が開発された。まさに教会建築の発展は、この「ばら窓」をつくる技術の発達と軌を一にしてきたともいえる。

現代建築では鉄筋コンクリート構造や鉄骨構造が発達し、構造的にはほとんど何の制約もなく「窓」をつくることができるようになった。そしてガラスの製造技術の発達により、非常に強度の高いガラスが誕生し、巨大な「窓」を実現した。また、全く歪のない透明ガラスが製造されるようになり、外界に広がる風景をそのまま内部に取り込むことが可能になった。

世界的な建築家の安藤忠雄さんが設計した作品に、北海道トマムの「水の教会」がある。中庭にある池の中央に鋼鉄製の十字架が立っており、大きな「窓」を通してその光景が目に入る。「窓」はその風景を絵画の額縁のように切り取り、そこにはあたかも一枚の絵が飾られているように見える。同氏の手になる香川県・直島にあるベネッセハウスでも、シンプルな「窓」が、美しい瀬戸内の風景をみごとに映し出す。歩を進めるとその風景画は少しずつ表情を変えていく。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
ノエ 11/6 0:3	窓に関する丁寧な説明がされていますが、最後のベネッセハウスの窓について「シンプル」の４文字のみの説明になって尻切れトンボになったのが残念。。

Asagi 11/7 1:24	扱っている題材がおもしろいだけに、うーん、おしい。 安藤忠雄さんの作品のこと、もっと前面に押し出していいと感じました。調べてみて初めて知りましたが、どちらもすらりと伸びた線が生きている建築で、文章による描写もとても素晴らしかったので、さいごの結びにちっとだけ出すだけなんて、もったいない。 二つの建築物からもっとイメージをふくらませるとか、あるいは思い切って文頭に持ってくるとか。そこから本論に導いていくやりかたでも、自然につながるんじゃないかな、と思います。
ピチョット 11/7 10:21	建築家志望さんでしょうか？ たんたんと窓をのべていて「窓」の静かな説明が 写真集をみているようです。
わがし 11/7 15:8	そうですね、きっと、いろいろ盛りだくさんなのでは、と思います。窓の機能を説明して、その上で一つ（か、二つか・・・？）の事例に関して、これはこうでこうでこうだから、と言うと、説得力あり、なのでは？？ ばら窓の説明とかもっと聞きたいよー。水の教会の説明ももっと聞きたいよー、と思います。
pooh 11/9 16:35	「窓」について、古代から現代まで、物理的な役割から精神的な役割まで文章が進んできて、よかったと思います。これから窓がどのように変化していくのでしょう。
Azalea 11/10 15:19	窓そのものを題材にした作品でその方向性も 中で扱っているもの一つ一つも面白くてよかったです。 ただ、もっと述べることを絞ってみてはいかがでしょうか？ たくさんのことを（それぞれが面白いですが）入れてしまうと 1500ではまとまりきりませんので。
ken 11/10 20:5	淡々とした説明文。窓が理解できました。
紫雲 11/10 22:26	わかるようなわからないような表現が笑えます。 建築関係の文章って大抵こんな感じですよね。
茜 11/10 22:28	うーん、ちょっとものたりない、という印象でした。話としては、面白そうなんですが、「面白い」にはまだ足りない。わがしさんの言うように、「もっと聞きたい」と思いました。淡々としすぎたのかも知れませんね。 具体的なのは最後の段落だけなんですよね。むしろこのあたりから、具体的な話にふくらんでいくと思っていたので、あっさり終わってちょっとがっかりでした。もっといろいろ語れそうなのに！
Begonian 11/11 12:2	え、終わり？ いやいや、きっとＣＭが入るだけさ。 スクロールすれば…… ぬわー！終わってるー！
大黒様 11/12 10:12	確かに、これで終わりか？と思いました。建築が好きなのはわかりました。 終わりを終わりらしく落としてください。
コーサク 11/12 14:48	「窓」というタイトルのレポートみたいな印象。話としては興味があるので、この話を素材として広げてくれたら良かったです。
橘 11/13 16:45	コラムとしては正統派な作品ですね(・・*) とても興味深く読ませてもらったんですが、やっぱり少し物足りない気が… 例えば「ばら窓」であったら、建築的な観点に加えて、 「キリスト教的には、ステンドグラスにこんな意味が込められてる」 といったようなことが書かれていたり、 あとは作者サン自身が「ばら窓」をみてどんなことを感じたのか 、 そんなことを入れてもらえればと感じました(・・*)
けろた 11/13 21:7	整然とした読みやすい文章です。最後の「シンプル」さは、「水の協会」の窓と同様に、瀬戸内の風景を引き立てるための役割ということですね。うまいと思います。

ほろほろ 11/16 2:5	どうしても淡泊な文章に感じてしまうのは、 「これを書いているあなたは何者なのか」 というのが染み出していないからだと思いました。 もしあなたが建築家なら、 昔、ガラス窓を作る技術がどんなに大変だったかに深い視線を注ぐでしょうし、 もしあなたが歴史学者なら、 ガラスの時間的な変遷を流れるように綴る事でしょう。 芸術の鑑賞が好きならばその眼が文章に映るでしょうし、 批評家なら痺れる論理展開が文章のスパイスになるでしょう。 その辺り、作者さんの視点が今一つ定まっていなかったかな、と感じました。
ローズ 11/18 1:57	ガラスの発明すばらしいですね。そして、建築上の応用はもっとガラスの価値を実現できたと思います。
tkm 11/18 13:16	ヴォールト天井やアーチ構造、フライングバットレスなどの技術は教会建築の内部空間の天井高さを高くするためでは？つまり天へ少しでも近づこうとする意味を空間に込めて、内部空間を劇的なものにすることによって祈りの場としての崇高性を高めたのであって、そのために天高を高くしていった。すると教会にかかる力も増大するのでその負荷を地面にスムーズに伝えるための諸技術なのだと思いますが？
鞦韆 11/18 14:28	それで、結局なにが言いたいんですか？ 段落ごとに短い纏まりで、間にもきちんと改行が設けられている。構成としては読みやすいはずなのに、なんだかやたら読み辛くて目の痛くなる文章でした。レポートのような、という表現が上で出ていますけれど、正にそれと同じことを私も感じましたね。漢字が多用されていて、表現も硬質。それでいて、論点が絞りきられていない。読み終わっても、なんか色々書いてあったけど、結局何が言いたい文章なのか分からなかったな、という印象で終わってしまいました。 知識の程度が作者さんと同程度の人にとっては、それぐらい知ってる、で終わってしまいそうだし、同じ専門の一年下の学生向けに書いた文章、みたいな？対象がひどく狭い印象を受けます。
あゆむ 11/18 15:3	結構不評なようですが、わたしは割りと好きです。 この作品が何を言いたかったかって、それは、窓から見える景色っていいよねってことでしょう。読者を説得させるというより、一緒に窓から見える景色を楽しみませんかというお誘いのような作品だと感じた。
Eisen 11/19 0:33	～た、～だ、あるいは動詞の言い切りの形。語尾がそれら一辺倒だと、凄く味気の無い文章になってしまいます。 　また、こういう主旨の文章の場合であれば、接続詞は率先して入れるべきでしょう。一文ごとの関連性をつかみにくく、なにを言いたいのかがうまく伝わっていないようです。 　こういう技術的な面で、かなり損をしているなぁ……というのが印象でした。
鳥 11/19 2:18	興味深く読ませていただきました。 「『窓』も建築を構成する重要な部材のひとつ」とあるように、デザインをする建築家にとって「窓」は建築表現上のポイントになると思いますが、 実例が安藤忠雄さんだけでなく、ほかの建築家の作品もあるとよかったと思います。
suburbanian 11/19 3:47	「窓」の実利的な目的が丁寧に解説されていますね。 水の教会に関する解釈も共感できました。（実際に行ったので。） ただ、残念なのが「窓」の情緒的な解釈についても聞きたかった…。 リルケの『窓』っていう詩、知ってますか？ご参考までに。
mu 11/23 0:41	わかりやすく、読みやすい作品。 最後の段落で主観的な感想を述べるならば、もっと感動を伝える饒舌な書き方をしてもいいかなと思いました。その他の段落とコントラストをつけるためにも。
桜子 11/26 1:39	建築の部位として、窓の機能や役割が多角的に述べられているが、そのつながりがあまりみられず、一つ一つが独立してしまっている。４つの要素が何かの視点で繋がっていれば更によいのではないでしょうか？

ＴＯＰへ

次元変換機能

合計ポイント：11 Point
作者：サンダーバード
作者コメントを読む

自分の仕事の１つに業務設計と呼ばれるものがあります。
業務設計は、今までの業務のやり方を変更するための設計書を作ることになります。
設計書を作るには、業務をよく知らないと作ることができません。
設計するにあたっては、業務を知ることから始めます。

このときに心がけることは、目をつぶって業務の１シーンがイメージできるまで理解することです。
その１シーンは、静止画や動画だったり、色もモノクロからフルカラーまでと理解度によって異なります。
共通しているところは、なぜか１シーンが平面の世界になっているのです。
実際の業務の場は、立体空間で行われているにも関わらず、自分の思考空間内では、平面化されているのです。
この平面化される理由について考えてみたいと思います。

色々、この理由を考えてみると、ひとつ気がつきました。
それは、１シーンに枠があったのです。
自分の部屋の中を見渡すと更に気がつきました。
写真盾の枠、額縁の枠、パソコンの画面の枠など、画像の周囲には、枠が多いのです。
枠の中は、立体空間が平面になって表現されているのです。
どうやら枠は、人の脳に働きかける機能を持ってしまったようです。
それは、立体空間を分割し、その枠内を平面化させるという次元変換機能です。

この次元変換機能の特徴を調べてみると、この機能の形状（枠）は、ほぼ、長方形になっています。
長方形以外では円形があるぐらいです。
その大きさも２m四方範囲以内のものです。
枠の材質は、色々あり、枠と周囲の関係で素材が決まっています。
そして、ほとんどの枠は、その枠に無色透明な板がはめ込まれています。
透明板の素材は、ガラスやアクリルが主流です。
恐らくこの次元変換機能の心臓部は、
枠の面が平面であると認識できる枠の形状にあると考えられます。
いびつな枠だったり、透明版が平面ではなく凹凸があると、次元変換機能は機能しなくなるようです。

この枠が持つ空間を分割する機能は、この枠を空間に置くことで、
枠の手前と向こう側を分割して、連続空間内に不連続空間を作り出し、
枠の手前にいる人に、枠の向こう側の空間とは異なる空間に居る感覚を与えるのです。
その枠の縁が幅広く、特に縁が枠を覆う壁のようになった場合、その空間分割機能は、効率よく働きます。

ところが、枠の大きさが極端に大きくなる場合、次元変換機能や空間分割機能は働くとは限らないことがあり

ます。
およそ人の身長の3倍以上の大きさに成ると、枠のそばにいる人の視界の外になるため、
例え枠があったとしても枠の機能は働かなくなるのです。
もし、機能させたいならば、視界に入るところまで枠から遠ざかることで、機能は復活します。

次元変換機能を考えてみましたが、枠そのものは、もっと多くの機能が隠れているように感じます。
例えば、物事を考えるときの「枠組み」などは、奥が深そうです。
どこかの機会でまた、考えたいと思います。

つづく。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
インギリー 11/5 22:57	すっごい理系の文章。 「関係者以外立ち入り禁止」の立て札があります。 まじょ先生は、こういう文章がお気に入りなのでしょうか。
めふめと２世 11/6 16:10	個人的な感覚からの気づきを過剰なまでに展開していく内容と色の無いきれいな文体との対比が面白いなと思いました。クラッシックな印象を受けます。
ノエ 11/6 22:57	次元変換機能の特徴の段落はかなり無理やりっぽく感じ、安っぽいＳＦチックになってるような気がしました。 この段落がなければ、まとまった文章に仕上がっていたと思いました。
ピチョット 11/7 13:50	窓→枠→次元変換機能と進んでいるとおもいます。 無理やりの感もなきにしもあらずですが、あくまで気づきの 文章でよいと思います。 枠組みのほうまでの考えをきいてみたい気がします。
ひぃ 11/9 21:38	作者が『枠』に対して色々考えたんだなぁってことが伝わってくる。でもそれだけ、内容はどうも頭の上を通り過ぎていく。 語り口のスピードを少し下げたら読みやすくなりそう。（しっかりとした言葉が無駄のない速さで流れているのだけれど、読み手のイメージがそれに追いつかないんじゃないかなって思う。）
スマイリー 11/11 1:8	最近、内視鏡手術のモニターで球面状のものが開発されたそうです。思考の枠組みも柔軟に考えるといいかも知れませんね。
Asagi 11/11 16:18	平面が立体であるかのように認識する”次元変換機能”には、4つの要素が必要、と読みました。 ・平面のまわりを囲む枠があること ・枠がいびつでなく、長方形の形をしていること ・凹凸のない無色透明な板に覆われていること ・平面が視界に対して極端に大きくないこと 　作者さんの文章はそのように条件を整理して教えてくれる部分がもなく、それが、わかりにくい、という印象を与えてしまったのだと思います。 　読み手としては、ひと続きの文章から論旨をひとつひとつ見つけだしていくしかないので、とても不親切な文章でした。系統立てて整理してみたら、すごく興味深い話になったのに。 　思考の概念を文字に落としこむのは、かなり難しい作業だったと思います。それを、ひとつの文章にまとめあげようとした作者さんに、拍手。でも、その説明のしかたには、もうすこし工夫が必要だったように思いました。自分の心の動きをそのまま文章にするのは、一つの書きかただとは思うのですが、他人への説明に、もうちょっとのご配慮を。

	それと。人間の感覚みたいな大きな話に広がっていくのもいいのですが、作者さんのお仕事の業務設計というものの内容も、もっと知りたかったです。というより、そのテーマだけでも、十分に一つの作品が書けてしまうかも。
Begonian 11/13 2:2	自分の仕事として業務設計の話を振ったのだから、当然その話をするのかと思えば、別の話。 それなら始めっから振らないで下さいよ。 その「別の話」がこれまたやけに面白いもんだから、余計最初の振りが……。
354e14thave 11/13 11:18	「枠」と次元の関係をおもしろい視点で捉えられていると思います。書かれていることの部分部分が一般的事実なのか、個人的意見なのかを明確にすると、もっとよくなると思います。
茜 11/13 19:26	で、業務設計はどこに？ というか、最初は目を閉じて思い浮かぶ話だったのが、窓で切り取られた風景の話になっちゃってませんか？ なんかそのあたりでこんがらがりました。一つ一つの話は分からなくもないのですが、本筋が見えず。 変なすり替えをせずに、普通に窓の次元変換機能について述べてよかったと思うんですが。 ＞インギリーさん 変な言葉がところどころ入り乱れてますが、ただ単に理系っぽいだけで、それっぽさを味わうものかと。立て札感じるほどのものでも・・・・・とあたしが思うのはあたしが理系だから？ あと、まじょ様のお気に入りとここに載ってるのは無関係だと思いますよ。
てん 11/15 13:57	「なぜか１シーンが平面の世界になっている」という導入を疑いつつも（お仕事にされてるので事実だとは思うのですが）、窓そのものについて考えるとこう書けるのかと感心しました。 理系の内容なのかということについては、あまりそうは感じないのですが、特に第５、６パラグラフは頭を整理しながら着実に読んでいかないとわかりにくいかもしれません。 このあたりが理系とされる理由なのでしょうか。
紫雲 11/15 20:4	業務設計の話は後の話と全然関係がないなら、思い切って削ってしまってもよかったと思います。 中途半端に触れてしまうと、みんなそっちばっかり気になってしまいます。
sum1 11/17 21:31	初見時は、理系といいますか、何かの数学の定理を証明しているかのような印象を受けましたが、読み返してみると「機能しなくなるようです」「感覚を与えるのです」など、実に主観的な文章だと思います。 論理の流れを追おうとすると、著者の意見に共感できない箇所で思考停止状態に追い込まれるところが、「一見さんお断り」的な雰囲気を作り出しているのかもしれません。 ところで最後に「つづく。」とありますが、この先はどのように展開するつもりなのでしょうか・・・。
Azalea 11/17 23:46	もっと「枠」について語ってもらえば それだけでよかったような気がします。 思考が平面だっていうのも確かに、と思ってしまうことなのに （俯瞰的な見方をするとか、平面的に見ることは結構多いはず） うまくまとまっていなくて、とてもわかりにくいです。 いっそAsagiさんがやっているような 箇条書きのような形を示してしまって、 そこからはじめてもよかったのかもしれません。 個人的にはこの文字数で収めるのはなかなか難しいのではないかと思いました。
鞦韆 11/18 17:52	すっごい理系の文章、というコメントが付いていますが、内容も、選択されている言葉の並びも、ぜんぜん『理系の文章』ではないと思います。と理系視点で思うということは、もしかして、理系の人には理系の文章ではないように見え、そうではない人には理系の文章に見えるような文章なのでしょうか。うーん、わかりません。 Asagiさんのまとめが分かりやすくて助かります、が、私の読みとは微妙に違いました。私は『平面が立体であるように認識する”次元変換機能”』ではなく、『立体を平面状に切り取る”次元変換機能”』として読みました。 ともあれ、別にこのようなまとめが存在しなくとも、話の展開には全く無理がなく、順序立てて条件が挙げられているので、そんなに内容が頭に入ってこないとか、上手く纏まっていないとか言われてしまうような文章かなあ、と思いました。論理的思考に基けば、普通にすっと読めないかしらん。

	つづく、が非常に気になります。この話から、いったいどんなつづきが。
あゆむ 11/18 18:43	インギリーさんのいうように関係者以外立ち入り禁止な気がする。わたしもがんばって読んでみたのですが、よくわかりませんでした。ただ、おもしろそうな予感はした。理系以外立ち入り禁止なのだとしたらわたしは中に入れるわけですが、入れなかったので、たぶんちがうと思います。立て札を超えておもしろさを感じてる人もいるようなので作品としては成功だったのかもしれません。 わたしも立て札を超えて中に入りたい。
イッパイアッテナ 11/18 20:18	つづくんかぃ
unknown 11/18 23:1	窓の機能的側面について考察するという観点は、非常に面白いと思いました。 ただ、最後に言いたかった事をまとめる段落がほしいと思います。 Asagiさんもおっしゃっていますが、内容を整理する部分を作ることで、関係者以外お断りという感じがやわらぐのではないでしょうか。 理系っぽいかどうかについては、「機能」という言葉がそう感じさせるのではないかと思いました。 ただこの言葉はこの文章に合っていると思いますし、理系っぽく感じさせるところがこの文章の味なのだと思います。
Eisen 11/19 1:54	理系だ文系だで切り捨てるのは大嫌いです。専門用語に満ち満ちて意味の取れない、自分勝手な文章なら別ですが。 　それはそれとして、かなり面白い作品でした。目の付け所が違う。それだけに、他の方もおっしゃられている通り、中部での冗長の感が惜しまれるところです。。
琥珀 11/25 20:50	主観的感想ですが、「窓」の中で私がもっとも強く惹かれた作品です。もったいないのは、論点が絞り切れていなかったこと、一般論（見方）を気にしすぎてしまった点です。 　「枠」という形態と、「ほとんどの枠は、その枠に無色透明な板がはめ込まれています。透明板の素材は、ガラスやアクリルが主流です」という指摘をつきあわせていくと、何か立ち現れてくるものがあるような気がします。論理が破綻することを恐れず、ダイナミックに書いていただければと思います。趣味的コメントでごめんなさい。次作を期待しております。
あゆむ 12/3 0:6	なんでそういうことを作者コメントで書くのですか。作者コメントは作品やその作品へのコメントについて語る場だと思うのですよね。コメントたちに対する意見や学生コメンテーターたちに対する意見なら、どうかというコメントがあったときその場所で言うか、提示版で言うかの方がいいんじゃないでしょうか。 わたしへの批判ならどこででも受け付けます。

ＴＯＰへ

窓

新しい宇宙へようこそ！

セッションの終わりごとに、いただいたすべての作品についてコメントする「まじょコメント」をお届けします。
受講生さん、一般参加でお迎えしたかたがた、そして学生コメンテーターほろさぽずと３グループそれぞれが精力的に活動して、花も実もあるコメントが各作品にぎっしりすずなりになっているこの状況で、もう新しい読みの余地などほとんどなく、よって私の出番はないと言ってもよいのですが、むしろないと言ってしまったほうがラクできてよいのですが、それでも屋上屋を架すような、窓上窓を開けるような「まじょコメント」をお届けする趣旨は〈総合性の追求〉といったところでしょうか。

この場では、各作品を個別の独立したものと見るのではなく、いったん全44作品をある指針のもとに、いくつかのグループに分けて位置づけた上で、それぞれの作品世界を訪ねてみようと思います。いわば見取り図を作ってマッピングし、全体を俯瞰してみよう作戦。
なるほど、こんな視点で見れば、あの作品と自分の作品は意外と近いのか、とか、いやもっといいマッピングができるでしょ、とか、他の作品との関係性や、全体の趨勢をつかむ手がかりにしていただければ幸いです。

さて本論へ――

34 vs 10。
予想以上のアンバランスでした。前者がリアル窓、後者が比喩窓。
つまり「窓」というお題を、実際に家や乗り物に開いている窓としてとらえた作品が、比喩的な用い方をしたものの３倍以上だったという次第です。もう少しヴァーチャル派が多いかなと予想したのですが、初回だからみなさま、お題の解釈に慎重だったのかもしれません。

ここで目次。

リアル窓
　１　窓から見る
　２　窓を開ける/閉める
　３　窓をつくる
　４　窓にいる

比喩窓
　１　パソコン
　２ 社会の窓
　３ 心

リアル窓

それでは大多数を占めたリアル窓派から。
そのリアル窓をどうするのか、〈行動〉を基準に４つに分けてみます。
まずは、窓から「見る」。これは内から外を眺める場合と、逆に外から内を覗く場合に大別できます。
ついで、よりアクティヴに、窓を「開ける」もしくは「閉める」。
いやいや、もっとアクティヴに窓を「つくる」んだ、というのが３つめ。建築関係の話題が中心でした。
さいごは、ひっそり窓辺にたたずんで、窓に「いる」。窓周辺の空間に着目した作品たちです。

１　窓から見る

８vs４。
ちょうど２：１の割合でした。窓から見る場合、家の中から外を、乗り物の中から景色を、というように、より広い世界を眺める視線と、逆に外から内へと狭い世界を覗き込む視線と。
やっぱり広々と視界が開けたほうが気持ちいい？

１－１　内から外を

輝く夜の窓

フランスはボルドーの白夜を出発点におきます。なぜなら、技巧が入る前の文章の原型、と読めるからです。
いつまでも明るい異国の夜空の輝き。同じことを慣れたもの書きさんなら、もっとじょうずに、もっとありありと、そしてもっとウソっぽく飾り立てるのでしょうけれど、そうせずに坦々と、自分の中の茫漠たる記憶をゆっくりたぐり寄せつつ、いっぽうでなまじ言葉の鋳型に押し込めてしまうと思い出の輝きが失われてしまうのではないかと恐れつつ、慎重に慎重に語っていただいたという印象です。
だからラストの「今日この頃」が浮いちゃうんだろうなあ。ここだけ既成の技巧の借り物。「そう思っています」と自然体で良かったのに。

クロと窓

同じく幼い頃の記憶から。ああでも、これはたぶんフィクションですね。いまどき「海沿いの小さな窓がある古い屋根裏」ですから。ヨーロッパ中世風？
クロは失ってしまった童心の象徴なのかな。すべてをクリアに見せるべきとは言いませんが、読者の思い入れをここまで誘っておきながらクロの運命が謎のままというのは、未完成感が否めません。
それと詩のスタイルにして、文頭揃えましょう。律儀な一字下げは読みにくいだけ。
……で区切るのも無粋なので、べつの工夫を。

窓からの眺め

いきなり冒頭にダメ出しを。「幼少の頃」って自分のことに使うのはヘン。「ご幼少のみぎり」というように、他人への一定の敬意が前提の言葉なので。「幼い頃」でよい。
で、こちらも幼い頃から語り始めて、その後の人生への展開へという前２作と共通の構成を持つのですが、ボルドーもクロもなくなって、つまり固有名詞が消失して、一般化されたぶん、おもしろみも消失してしまったように読みました。
「海に近い町には海に近い町の、山に近い町には山に近い町の、そして都会には都会の」って、子供向けの言葉覚え絵本じゃあるまいし、「寒風吹きおろす稚内」みたいに、具体的な情景を点描してほしかったです。それだけの人生経験のあつみをお持ちであることが全体からしっかり読みとれるだけに。
論旨のブレも難点か。「広い」から心なごむのか、「多様」だから癒されるのか。どしんと富士山さえあればいいのか、霧島も阿蘇もだいじなのか、論点の切り分けを明確にしたい。

景色と私と窓。

思い出から離れて現在形へ。
最近のこの外恋しさは何だろう、と自己分析してみたら、という展開までは良かったのですが、その先、ラッシュ時電車の例だけでさっさとまとめに入ってしまったところが、やっつけ仕事になってしまった感。地

下鉄は？という大合唱が起きること目に見えてますよね。
　コメントのなかで出ていたように、窓越しの景色が与える影響について、「もしかしたら私だけかも」などとあいまいな逃げを打たずに攻めていけば、ユニークな論点提示ができそうです。

　折良く電車が来たところで、乗り物篇、行きましょう。がたんごとん。

通勤電車の楽しみ

　キーワード「無名の知人」が効いてますね。論争も呼び起こしましたが、朝の通勤電車に特有の現象の一端をうまく言いあてていると思います。近い言葉は「戦友」かな。
　そして兵士がひとり、大きな富士山を相手にささやかな勝負をする。
　ただ「勝負」とある以上、こちらからのアクションも欲しかったところで、「見える/見えない」でなく、「見えるか否かを予想」→「あたり/はずれ」とルールを変えてみたりすれば「私は独自の経験とカンから予測をして」というフレーズも生きるのでは。

日本の車窓から

　より遠くへ。青春18切符で。
　コメントで名フォローが入った由比近辺の光景が話のポイントと読みました。
　実感がともなった語りで共感を誘ったのに、あーあ、ちょっとしたサーヴィスのつもりの「余談」が、大反撃をくらって撃沈してしまいましたね。まあ、世の中そんなもんです。ご用心。
　そのおかげで目立ってないけど、このタイトルももっと内容に即したものにしてほしかった。列車の名前を入れてみるとか。それだけで印象が格段に違います。

　そして世界へ。

閉所恐怖症

　いきなり「気道に自信がない」で躓きました。合気道？　と全く関係ない単語が脳裏をかすめ。
　夫なんかほっといて、ピラミッドから入ったほうが、すっきり読者を引き込めたと思いますよ。せっかく現地へいらしたならば、もっと閉塞気分を臨場感ゆたかに語って。
　それと、「もしも、あのピラミッドに窓があったなら。」のくだりの時制があいまいなのが気になりました。冷や汗かきながら現地で？　それとも「あの」とあるので現地を去ってから？
　ルーブルまでつなげた発想がユニークだっただけに、ギザのピラミッドとガラスのピラミッドの対比から話を導いて、狭いから落ち着く←→開放感にやすらぐの対立軸を意識しつつ展開すると「窓」の存在価値まで論旨の射程が届きそうです。そうしたら夫さん再登場の余地も生まれそう。

【お詫び】
　この作品について学生コメンテーターのひとりによる不適切なコメントがあり、受講生さんからのご指摘までいただいてしまったこと、作者さん・レロニラさん、及びこの場にご参加くださっているみなさまにお詫びします。
　コメンテーターどうし、日夜コミュニケーションして、自らの姿勢の確認につとめているのですが、こうして時折未熟な部分が露呈してしまいます。ただちに「書き手への敬意を」と注意をうながしました。
　今回のことも糧にして精進してまいりますので、どうぞご海容の上、今後ともまた不適切と思われることがありましたらご遠慮なくご指摘ください。謹んでお詫び申し上げます。

　さいごは未来への思い。

僕の家の窓

　竹下通りっぽかったり、ヘッドライトの列だったりする冒頭のバラバライメージ。きっとこれは「窓」と見せかけて、大きな「テレビ画面」なんだ！　とオチを期待してしまいましたよ。ハ・ズ・レ。

妄想なんだ。でも妄想にしても、第１段落のバラバラ感が解けません。じつはたいしてイメージを煮つめずに出してしまった？　第２段落がとても魅力的なだけに、ほんともったいない！
カツラの樹の夢、かないますように。

１－２　外から内を

こちらの視点を選んだかたは、閉所恐怖症の逆で、狭いところがお好きなのかも!?　４作品です。

私のお気に入り

あ、ピーターパンだ、って思いました。空から子供部屋の窓を目ざしてゆくっていうイメージが重なって。
マグカップにぬいぐるみ、写真と具体的なモノを並べて、爽快な動きで見せた夢の描写と読みました。
死や別離は感じなかったなあ。むしろ、気持ちよく空中遊泳していても、「いつでも帰れる」という安心感が夢色にふわっと届いた印象です。

仔犬の恩返し

マリさんってば目立ちすぎ、主人公じゃないくせに。
作者ってば御都合主義すぎ、運命の再会をさせるなら、もちっと前半で伏線張りたい。
そんな不満を和らげてくれるのが、ラストに登場した犬の覗き込む視線。だからこの「覗き込む」グループに入れました。
いいお話なのにもったいない。すべてを見せすぎ。再会の予感、せめて再会の瞬間くらいで止めておけば、読者も一緒にわくわくできたと思いますよ。
その読者の気持ちに即して言えば、最終段落は工夫の余地ありかな。これでもか、って幸せを見せつけられると、人は引くものなのです。。。しあわせの予感、それだけでじゅうぶん

マド

古いところではヒッチコックの『裏窓』か。
マドがいっぱい。人生もいっぱい。そのわくわく感がもっと醸し出せれば、都会批判も効いたのでは、と思います。
カタカナのマド。たぶん人の心を象徴するものと置こうとしたのが、初期の執筆意図なのでは？

目が、目がぁ～

まったくもう、タイトルだけでコメント・キングをさらいましたね～。
ねぼけ気分の一瞬の勘違い。「意外と冷静な僕」とか型どおりながらも、ユーモラスな描写が読みやすかったです。
次はぜひ、なかみで勝負してくださいませ。ナニ？　目は心の窓？？　そーいう言い訳は許しません！

２　窓を開ける/閉める

７vs１。
窓を開ける派vs閉める派の比率です。やっぱり窓は開けたいよね。

窓をあけて
窓を開ければ
窓は開くもの、開けるもの

こう3つ並べると何だか窓の活用形ですね。

窓をあけては、すがすがしさを届けつつも、数学教授だったというご老人のお話がその文脈のなかで生きて

いないように読みました。
　フィクションのようにも感じるのですが、たとえフィクションにしても、その人が生きてきた人生への尊敬が感じられない容赦ない描写で、それを敢えてするならば、自分自身をも刺すような展開にしないと、読み手に何らかの感懐を届けられないのでは？
　行間から、ああはなりたくないよね、というつぶやきが聞こえるように読まれてしまっては作者さんとしても本望ではないでしょう。

　窓を開ければは、風を取り入れたいという願いの減少を指摘しつつ、流行のKYで落としたところが巧さでもあり、かつ議論が集中した箇所でもあり。
　所詮、きれいな論証は不可能にしても、もう少し関連性を詰めたかった。たとえば、寒い国の人間と暑い国の人間では、どちらがコミュニケーションじょうずなのでしょう？　といったふうに。

　窓は開くもの、開けるものは、列車の窓が開いていた時代の空気を知っているかたからの回顧談。
　どうしてもこうした話題は、ありがち、と片付けられてしまうのですが、人と人とのコミュニケーションへと話の幅を広げることで、人生経験の重みを感じさせてくれました。
　みどりの窓口、そうだったのかとマメ知識。

　実感から出発して、次はフィクションを３つ。

I can ...

　と言いつつ、いきなり謎作品です。
　I can fly!　と叫んで脱走しちゃったもようなのですが、だから？
　とりあえず智子ちゃん幇助説に一票を投じて作者さんの登場をお待ちすることにします。

コモリン

　良かったです。読後感ほっこり。
　コモッテイル。その閉塞感が、コモリンという人格にみごとにまとまっていて、それをどうにかしたいという仲間達の思いやりが、さいごにそっと窓を開けさせる。
　ホコリっぽくて、でも爽やかな風が吹き抜けてゆきました。

Last Soldier

　同じ学園モノですが、こちらは、はじけた！　スピード感に拍手。
「山」だらけの謎は？　きっと、出席番号順に突撃するんですよ、うん。あとにまだワタナベ君がいるからだいじょうぶ！

ここで、窓を開ける＝いいこと、という固定観念を覆したユニーク作品をひとつ。

抜歯

　ホラーです。「江戸時代の罪人が」と突拍子もないたとえをもってきて、その「感覚に近い」と説明されたくだりに笑いました。作者さんてば、前世は江戸時代の罪人だったのか？　と。
　どうもこの作者さんは、比喩は想像力の幅を示す道具として使っておられるようで、それはそれで持ち味ですね。窓を開けたらコールタール。ふつう思いつきません！
　そんな個性がみごとに輝いて１ポイント差の接戦を制しての首位、おめでとうございます!!

　さいごは、窓を閉める作品です。

明日

　喪失感というもののカタチをていねいにかたどっていただきました。
　もらい泣きした人多数と推定。

練り込まれた個々の表現から立ち上げられたリアリティに脱帽です。

３　窓をつくる

眺めたり開けたりするだけじゃ物足りない。
何てったって、ここはものつくりの本場。作っちゃおうぜ、と建築家さんたちの御登場で、大賑わいの10作品となりました。趣向を凝らした窓のあれこれをどうぞ。

まずは総論編を２つ。

窓

タイトルのそっけなさとは裏腹に、やさしい語りかけですっと気持ちに寄り添ってきます。
言葉数は少ないけれど、いえ少ないだけに、作者さんと一緒に寝ころんで、ふうわりと見せていただきました四角い十三夜。

建築「窓」物語

いやほんとにコチコチの総論ですね、これは。どこが「物語」？と思ってしまいましたよ。
水の教会もっと見せて、というコメント陣に同意。
豊富な背景知識をお持ちでしょうに、もったいないです。

では、あんな窓、こんなMADO、窓めぐりの旅へ。
海外篇が３つです。

魚の目

まずはイギリス。
書き出し巧いなあ。「築６０年で新しい」、英語セリフがはじけます。そこから展開してイブニング・グリーンで夢心地に。
夢から醒めて霞ヶ関のオフィスビル。ここを肯定的におさめるように工夫すれば、読者さんたちの印象がまるで違ったと思います。

イギリスの廃墟　日本の廃墟

もひとつイギリス。割れた窓に着目したところが独自性。
未完成でツメが甘い部分も多いけれど、いい論説へと展開してゆく若い芽をたくさんふくんだ小品と読みました。廃墟ブームのわけ、なんて、まだまだ奥が深そうです。

ゴヘンカン・ソウチ

飛んでイスタンブール（←古っ、と自主ツッコミ）。
アイスクリームへ行ってしまうとは、そのぶっ飛びぶりに唖然（←褒めてる）。
でも、現地のにおいが感じられないので、せっかくの考察が宙に浮いてる感。せめてトルコのアイスクリームの味、教えてくださいな。

日本篇も３つです。

家の窓

掃き出し窓の技術の変遷。歴史的に語ったところがポイント。
ああ懐かしいなあと読む世代と、へえそうなんだと読む世代の、両方にちゃんと通じるよう説明も行き届い

ています。
　ただ、着地の「まーこれは合理的に考えてやむを得んな。」が、やはり乱暴な印象ですね。このあと、御自身の好みを開陳、など個人トークに入ってゆくなら、こうした言葉づかいで親しみを演出ってのもアリだとは思うのですが、「了」と堅苦しく締める直前ですからねぇ。

出窓の思い出

　幼い思い出、出窓のここちよさ。そこはとてもここちよく伝わってきます。
　長じてベランダに「出世」して、でも仕事に疲れたときは、ちょっと昔なつかしむ気分になって。
　ラスト1行「出窓からの景色の方が、ずっとずっと、よかったな。」 を私はそんな軽い感懐と読みました。
　でも、このフレーズがラストに置かれたことと、「ずっとずっと」という強調が効き過ぎて、なぜー？　タクヤ兄ちゃんとの間に何があったのぉ？？　と読者さんたちが妄想をかきたてる結果になってしまったようで。
　みんな妄想しすぎ！　いくら「妹」だからって……

台所の窓

　いいお話だなあ。タテガキにして、しんみり読みたいなあ。
　ラストシーンに至るまで描写が行き届いて、完成度の高さはピカイチでした。
　建築家さんとご主人にはさまれて透明な存在だった奥さんが、ふっともらしたひとことから、どんどん存在感を増してゆく。その流れが緻密に構成されています。
　気づけば冒頭の気弱なつぶやきのあと、奥さんは「肩をピクッ」、たったそれだけしか行動せず、ひとことも発してすらいません。なのにラストの「顔がぱっと輝く」で読者はああ良かった一緒にほっとします。いや、なかなかの構成力！
　この銀メダルは値打ちものです。一見読みにくいレイアウトであったにもかかわらず、ストーリーにこめられた思いをみなさまがきちんと受けとってくださったという読み手さんたちの熱心さのあらわれでもあると思います。おめでとうございます！

　無国籍篇です。

大きな窓

　ぶじにオチたかな？
　ニュースのナレーションで真相開示という手法が陳腐なのが気になりましたけど、うん、シンプルなのは好印象。

赤い逆三角形

　建築家シリーズ、私のいちばんのお気に入り作品がこれです。
　現場を踏んでおられるかたの実感がそくそくと伝わってきます。掲げた理想と現実の落差に日々とまどい悩みつつ、それでも理想の旗は降ろすまいぞと足元を踏み固めるように語られた言葉と読みました。

４　窓にいる

　外を感じつつ内側、窓辺は不思議な空間。そこに身を置いた作品が４つです。

窓際族

　あれぇ、窓際族ってけっこう気楽そうなんだね、もっと歯をくいしばってタイヘンなのかと思ったよ、とコメント欄にみる学生さんたちの認識の変化が興味深かったです。
　それだけリアリティがしっかりともなったトークだったのですよね。これでウソだったら、若人を騙した罪

は深いぞ〜。

窓拭きのおじさん

　かたや窓の外。こちらはみんなが、こんなのありえない、とフィクションと確信しましたね。
　フィクションと置いた上で、窓を内外でのささやかな交流という設定はおもしろかったのですが、こまかな言葉づかいが気になりました。キャリアウーマンさんに「女の子」はあんまりだな、とか。

　さいごは、ほとんど窓無視！　の作品を２つ。

わたしをとかしてくれるまで

　冷蔵庫じゃなくて冷凍庫だってば！ とコメント欄に何度ツッコミを入れようと思ったことか。
　作品のたたえるおだやかな、でもせつないメッセージは、たぶんそれを求めている人の心にだけ、ゆっくりと浸みてゆくんだと思います。
　「許し」という言葉から宗教的な厳粛さを受けとりました。

飛び降り自殺

　ラストはコメディで。
　わはははは。「死にきれない」とかきくどくジャージさんの泣き言に大笑いしました。
　殺伐たるタイトルをクリックしたら、こんなお茶目なジャージさんが御登場なんて、なかなかに小粋な演出です。
　「私とお前は彼氏と彼女か！」。ひょっとしたら、そうかもしれません。３－１の文字の上に銅メダルをかけてあげて、おふたりで末永くおしあわせに！

比喩窓

　さて少数派。窓を比喩的な意味合いで用いた１０作品です。

１　パソコン

　いや、こんなに少ないとは。
　窓といえばウィンドウズ。日々おつきあいの深いこの窓に、みんな何を写すのかな、と期待したのですが、テレビ画面を含めても、たったの３作品にとどまりました。だいじょうぶか情報化社会？

Windows

　いきなり殺伐と包丁。しかも古びてたりしたもんだから、みんな時制を推定するのに悩んでしまいました。数日なのか数年なのか。そこはやはり説明が必要だったのでは。
　展開が比較的簡単に読めてしまう。それこそ学部１年生の「殺したがり」世代（あ、怒られるかな？）のコラムに頻出する設定ですので。
　それを念頭にもっと刈り込み、空いたスペースにもっとこの「私」の個性を埋めていったら、殺意のカタチ、暴発に至るまでのクレッシェンド、ありきたりでないものができてゆくと思います。

抑圧の窓、自由奔放な窓

　思い出の歌の調べとともに。
　文章上の難点ではないのですが、作者さんがあまりにも無前提に現状肯定的なところが引っ掛かりました。
　「ああ、人間の可能性はどこまで広がっていくのだろう？？ 」なんて、うんそうだよね、と小学生でも頷いてはくれないと思うのですが。

窓とはかなり離れますが

　いやそんな遠慮がちのタイトル付けなくても、しっかり「窓」してますよ、テレビっ子さん。
　メモ書き風の読みにくさはありつつ、ていねいな書き込みで個人史がしっかり立ち上がってきています。ただ、「どこでもドア」で落とすというラストが不発の感。

２　社会の窓

　いや、こんなに多いとは。ばっちい話だから思いつきはしても、みんな敬遠すると思ったのに。３作品到着。

社会の窓
「社会の窓」

　どちらも就職前の今の時期だからこそ、という思いの開陳ですね。
　社会の窓のほうは、それこそ朝陽のまぶしさで社会へと羽ばたこうとするういういしさを、
　「社会の窓」のほうは、もっと具体的に知り合いに注意すべきかどうかの悩みを語源への推測を交えつつまとめて思考のあとを。
　がんばれ就活組！　と応援メッセージでまとめておきます。

まあ　どーでもいいけど

　タイトルがダジャレなんて、とコンテスト途中で絶句しました。
　男のロマン！　それを女性の側から肯定的に語ったところが、いい味わいです。家族のあたたかみがそのまま伝わってくるようで。
　ただ、ちょっと直接的な表現が、文字にするとナマナマしすぎて、「用を足す」くらいの抑えめなほうが読みごこち、よろしかったのでは？

３　心

　いよいよ最終コーナー。心という抽象的なものに喩えた４作品です。

次元変換機能

　お仕事の実感から立ち上げたところは良いのですが。「枠」ねえ。もっと証拠→結論といった形に整えてほしかった。これでは論旨が読みとれません。
　世の中すべて二次元さ、と言ってるのと同義、ではないのでしょうけれど。

自己紹介

　おそらく自分史を語ってくださったのだと思うのですが、生理的な感覚を直撃してくる言葉づかいがそうとうに読み手を選びますね。
　表現レベルは高いと感じつつも、読み返すのがつらかった、というのが正直な読後感です。

窓をあけろ

　若者ならではの強い言葉として受けとりました。ある意味、シャウトしている歌詞のような。　その思いが、一見、なかみの口調に比べて強すぎるように見えるタイトルへと結晶したのかな、と。
　人に伝えるというより、自分の立ち位置をまず確認しているような文章ですね。これをベースに、何をメッセージとして発信するかをこれから作り上げてゆく、といったところでしょうか。

心の窓

　より内省的に。
　自分の心を見つめることは怖い。抽象的なものをつかまえることはむずかしい。
　でも、この作者さんはそこから逃げずに、「扉」と「窓」という２つの比喩を用いて、人生という難問の形をこつこつと彫り上げようとしている。まだ完成を見せるには至っていないし、結論部分は明らかに急ごしらえだけれど、その姿勢に好感を持ちました。

　以上です。
　全作品のマッピング、いかがだったでしょうか。
　読みきれていない部分も多々あることでしょう。作者さんや読者さんからのご指摘をお待ちします。
　ではっ。